

4. 掲載種の解説

レッドリストに掲載された各動植物について、種ごとに形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。

①【動物のうち、絶滅種、絶滅危惧Ⅰ類及び絶滅危惧Ⅱ類の種に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の本調査における分類群名、分類上の位置を示す目名、科名等を各頁上の枠内に記述した。

【評価区分】

対象種の岡崎市における評価区分を各頁上の枠内に記述した。参考として「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編」(愛知県環境調査センター, 2009)の愛知県での評価区分、及び「環境省第4次レッドリスト」(環境省, 2012~2013)の全国での評価区分も枠下の小表中に記述した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。

【選定理由】

対象種が岡崎市版レッドデータブック掲載種として選定された理由について記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述した。また、一部の種については、写真を掲載した。

【分布の概要】

対象種の分布状況の概要を記述した。

【生息地の環境／生態的特性】

対象種の生息地の環境条件及び生態的特性について記述した。

【現在の生息状況／減少の要因】

対象種の岡崎市における現在の生息状況、減少の要因等について記述した。絶滅種については【過去の生息状況／絶滅の要因】として、対象種の岡崎市における過去の生息状況、絶滅の主な要因等について記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

【関連文献】

対象種に関連する文献の内、代表的なものを、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

②【植物全種と動物のうち、準絶滅危惧種、情報不足種及び地域個体群に関する凡例】

【分類群名等】

①に同じ。

【評価区分】

対象種の岡崎市における評価区分を各頁上の枠内に記述した。参考として「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編」(愛知県環境調査センター, 2009)及び「同動物編」(同センター, 2009)の愛知県での評価区分、及び「環境省第4次レッドリスト」(環境省, 2012~2013)の全国での評価区分も枠下の小表中に記述した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。

【選定理由・現在の生育(生息)状況】

対象種が岡崎市版レッドデータブック掲載種として選定された理由、対象種の岡崎市における現在の生育(生息)状況や減少の要因等及び対象種を保全する上で留意すべき主な事項について記述した。絶滅種(植物)については【選定理由・過去の生育状況】として、対象種の岡崎市における過去の生育状況や絶滅の主な要因等について記述した。

【種の概要】

対象種の形態の概要、分布状況の概要、生育(生息)地の環境条件及び生態的特性について記述した。また、一部の種については、写真を掲載した。

【引用文献】

①に同じ。

【関連文献】

①に同じ。

(1) 維管束植物

維管束植物 001	シダ植物 マツバラ科	岡崎市 絶滅
マツバラ <i>Psilotum nudum</i> (L.) Beauv.		

【選定理由・過去の生育状況】

「閨苧溪谷の植物」(大原, 1964) に生育が記載されている。その後そこには見られなくなった。近年、石原町石座神社境内に偶発的にごくわずかに生じているのが気づかれたが、消滅した。ふつう岩場に生育することが多いが、石座神社境内のように地上に生える場合もある。偶発的なものを含めて、市内のマツバラは、絶滅したと判断される。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

常緑性の多年生シダ植物。根はなく、葉もない。根茎は不規則に分岐し、直径 1~2mm、褐色の仮根を密につける。地上茎は直立、斜上または下垂し、2~3回2又分岐し、高さは10~40cmであるが愛知県のもののは大きくても25cm程度、緑色で無毛、枝は稜があって、断面が三角形となる。単体胞子のうは3室に分かれ、枝につくごく短い側枝の上につき、直径1.5~2mm、はじめ緑色であるが、熟すと黄色になる。胞子は黄白色である(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

本州(宮城県・石川県以西の暖地)から琉球にかけての山地、朝鮮済州島、中国南部から世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する(岩槻, 1992)。

【引用文献】

大原準之助, 1964. 閨苧溪谷の植物, 71pp. 愛知県額田郡額田町役場.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.302.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.41. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.6. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 002	シダ植物 ヒカゲノカズラ科	岡崎市 絶滅
スギラン <i>Lycopodium cryptomerinum</i> Maxim.		

【選定理由・過去の生育状況】

全国に分布しているが、個体数が少ない。そういう植物が岡崎にあったということは記録として残しておかなくてはならない。レッドデータブックあいち2009植物編にも、「どの生育地も個体数が少なく、確実に観察できるのは愛知県では1ヶ所だけである。」とある(愛知県環境調査センター, 2009)。こういう記録より、岡崎の地もかつては、沢沿いには豊かな天然木が多量にあり、多くの植物を育てていたということがわかる。聞くところによると、矢作川の水量は現状の何倍もあり、水運が行われていたという。もう一つ例をあげれば、矢作川の川床からは、古代の大木がいくつも見つかっているということである。こういう植物が記録されていることに誇りを持ってよいと思う。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

常緑の草本で、樹上まれに岩上に着生。茎は径3~5mm。わら色か緑色。長さは大きいものでは30cmをこえる。葉は開出または斜上して密生。緑色から深緑色。全縁。革質で、中肋ははっきりせず、線状披針形から狭披針形。長さ1~2cm、長さはややふぞろいで、幅は中部でもっとも広く、2mm以内。基部に向かって少し狭くなり、鋭頭の先端に向かってしだいに狭くなる。上部の葉は狭く、やや短くなる。胞子のうは枝端近くにつき、胞子葉は栄養葉よりやや小さいが、胞子のう穂というべきまとまりはもたない。北海道東部から屋久島にかけての山林中、朝鮮済州島、台湾やインドに分布する(以上、岩槻, 1992より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.304.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.45. 平凡社, 東京.

【関連文献】

環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8植物I(維管束植物), p.255. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.10. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 003	シダ植物 ヒカゲノカズラ科	岡崎市 絶滅
ヤチスギラン <i>Lycopodium inundatum</i> L.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

「ヤチ」とは「谷地」のことであり、湿地を意味する。湿地にはしばしば北方系の植物が見られるが、この植物も岡崎を南限とする貴重なものである。1985年には確認されていた（大原・千賀, 1985）が、その後見られなくなった。生育地の湿地の東部で大規模な造成が行われ湿地の水量が減り、乾燥化が進んだことも一因と考えられる。この湿地の冬場の最低温度は高山市内とほぼ同じくらいであり、岡崎市内の温度よりもかなり低い所である。湿地は土砂の流れ込み等により乾燥化の傾向がある。この湿地は現在マツやスギなどの大木により上部をおおわれていて、被陰により姿を消してしまったと考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

湿原に生じる小型の草本。匍匐茎は湿地の表面をはい、まれに分岐し、長さ 20cm 以下、茎とともに径 4~6mm。まばらに根をつけ、葉をやや密につける。匍匐茎の葉は線形、鋭尖頭、全縁か微鋸歯縁。長さ 5~6.5mm、幅 0.5~0.7mm、中肋はかすかにみえる。直立茎は長さ 3~7cm、葉とともに径 4~10mm、単生。直立茎の葉は開出~斜上、辺縁は全縁からわずかに鋸歯縁。胞子のう穂は直立茎の頂端に 1~2 本つき、長さ 2~4cm、葉とともに 6~15mm。胞子葉はやや開出し、狭線形、基部は広く、先は細くとがる。近畿地方以北の本州と北海道で、寒地・高地の湿原に生じる。冬になるとほとんどの部分が枯死するが、匍匐茎の先端だけが越冬する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.428. 新編岡崎市史編さん委員会.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.48. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.305.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.14. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 004	シダ植物 イワデンダ科	岡崎市 絶滅
ウラボシノコギリシダ <i>Athyrium sheareri</i> (Baker) Ching		

【 選定理由・過去の生育状況 】

かつて記録された場所 2 ヶ所を回数を重ねて調べた。しかし幼苗をも見つけることができなかった。周りの環境が著しく変化したとは思われないだけに、その原因が何であるのか想像するしかない。すぐ近くにスギの植林が進み、成長と共に被陰されてしまった。その反対に皆伐により乾燥で滅びた。それとも、近年の集中豪雨によりすべて流されてしまった。マニアにより採取されてしまった。以上、思いつくままに書きあげたが、ここではクルマシダの生育は極めて良好であって、砂防堰堤をはじめ、岩や地上にも群落をなしているの、本種特有の生育条件が一時に失われてしまったと考えるのがよい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は長く横走り、細く、径 3~4mm。少数の葉をまばらにつけ、鱗片がある。葉茎はわら色か、多少紅紫色をおび、基部は暗色で鱗片がある。根茎と葉柄基部の鱗片は線状披針形、長鋭尖頭、長さ 3~5mm、幅約 0.5mm、褐色~茶色、全縁で膜質。葉はやや二形だが、ともに単羽状複生。胞子のうをつける葉は、葉柄は長さ 30~60cm、褐色になることもあり、葉身は卵状三角形~長楕円形、長さ 20~40cm、幅 10~20cm。胞子のうをつけない葉は、葉柄の長さ 15~30cm、葉身は卵状三角形、尾状に鋭尖頭、長さ 30cm、幅 20cm 以下。上半部の羽片は基部が中軸に沿着し、羽片は浅裂~中裂。胞子葉の方が切れ込みが深く、裂片は鈍頭~円頭。鋭鋸歯縁、下部の羽片には短い柄がある。葉質は紙質。低山の林床に生じるややまれな植物。本州（北陸と関東地方以西）・四国・九州、朝鮮済州島、中国に分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.232. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.126. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 005	シダ植物 ウラボシ科	岡崎市 絶滅
イワオモダカ <i>Pyrrosia hastata</i> (Thunb.) Ching		

【選定理由・過去の生育状況】

川沿いの岩場の湿度が高く、涼しい所に生育していた。しかし、生活様式の変化にともなって、道を拡張しなくてはならなくなり、崖を削ったり、木を切ったりしたために、環境が変化し、生育できなくなったと考えられる。もしくは、山野草ブームのあおりで、採取されてしまったかもしれない。もともとの個体数が少ないこともあって、ちょっとした変化で姿を消すことになってしまった。この植物は乾燥にも比較的強く、葉を巻きあげても、雨が降れば、瞬く間に回復する。生育地は涼しいところを好むが、岩が少々焼けても耐え忍ぶ強さもあるので、植物愛好家による採取の対象になりやすい。岡崎市では1ヶ所のみしか確認されていなかった。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性。葉柄は長さ12~25cm、淡褐色で、淡褐色の星状毛を密生するが、古くなれば裸出する。葉身は掌状に3~5裂し、長さ5~15cm、幅3.5~12cm。中央の裂片は大きく、三角状披針形~披針形、基部か中央部がもっとも広く、先端に向けてしだいに狭くなり、鋭尖頭、長さ3~12cm。葉裏は灰褐色から赤褐色の星状毛で密に覆われて、褐色に見える。葉の表面には星状毛はほとんどなく、緑色~暗緑色。葉脈は外から見えず、網状。北海道から九州まで広く分布し、深山の深い林中で岩上や樹幹に着生する(以上、岩槻, 1992より)。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.263. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.439. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.326.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.161. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 006	シダ植物 サンショウモ科	岡崎市 絶滅
サンショウモ <i>Salvinia natans</i> (L.) All.		

【選定理由・過去の生育状況】

名前の由来はサンショウの葉の形態にすこぶるよく似ているので、その名が付いた。この植物は岡崎東公園の近くの池に生育していたが、人が近寄ることが困難な場所であったため、長きに渡り生育していた。時により、増減を繰り返していたが、近年急激に株が少なくなり、再生しなくなってしまった。この植物もジュンサイ(本書131ページ参照)と共存していたのか、競争していたのかよくは分からないが、いつも縄張りに変化があった。近年この地域にも開発が進み、人の出入りも多くなり、間接的ながらも環境の変化があったと思われる。それが水質であったか、他の事かは知れないが、姿を消してからは、再生することはない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠB類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

1年生の水草。茎はところどころで分岐し、多細胞毛がある。浮葉は単葉で対生してつき、草質、楕円形から長楕円形、長さ0.8~2cm、幅は1cm以下、ほぼ全縁、円頭、基部は円形で短い柄があり、扁平で平坦ないし少し水中側へ曲がる。葉の表面には短い突起が密にあり、その先に数本の刺状の毛が付き、裏面には多細胞の軟毛がある。水中葉は細かく枝分かかれし、根のような形態と機能をもつ。胞子のう群は水中葉の茎部に集まってつき、10~12月頃に成熟する。成長した植物は切断されて栄養的にも繁殖する。暖地では常緑の生活型をもっている。本州・四国(瀬戸内側)・九州(西部)の低地で水田や池沼の水面に生育し、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカに分布する(以上、岩槻, 1992より)。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.284. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.439. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.158.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.430. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.171. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.12. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 007	シダ植物 アカウキクサ科	岡崎市 絶滅
アカウキクサ <i>Azolla imbricata</i> (Roxb. ex Griff.) Nakai		

【 選定理由・過去の生育状況 】

夏には他の大型の植物におおわれていて、その存在感はない。冬になり、赤味が増してくる頃になると目立つ。子供の頃、冬になると氷の張った田んぼでよく遊んだ、その時に水溜りや、段々になった田んぼの水が下に落ちるあたりに群落をなしていた。それがちょうど、蛇のうろこのように思われて気持ちが悪かった。しかし、今では全く見なくなってしまった。原因として、除草剤の使用、水の汚染、機械の導入により、耕作回数が増え、乾田化したことなどが考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A 類
環境省	絶滅危惧 I B 類

【 種の概要 】

小型の浮遊性の水生シダで、植物体は赤色をおびる。茎はやや密に分岐し、葉と少数の根を生じ、植物体の全形は三角形か、角がやや丸みをおび、長さ 1~1.5cm。葉は無柄、上下に 2 裂し、茎とともに表面にいちじるしい粒状の突起が密生し、辺縁は半透明の膜質、三角状円形で円頭から鈍頭。根にはふつう長い根毛がある。胞子のう群は秋以後に成熟し、大胞子には多数の浮遊器官がある。水田や池・池沼、溝などの表面に生じ、冬季には特に鮮やかな赤色となる。栄養繁殖でどんどんふえる。本州（東京都と東海地方以西の暖地）・四国・九州・琉球、朝鮮南部・中国・台湾・インドなどに分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.285. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.439. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.83.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.430. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.172. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.13. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 008	シダ植物 アカウキクサ科	岡崎市 絶滅
オオアカウキクサ <i>Azolla japonica</i> Franch. et Sav.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

アカウキクサ（本ページの前半に記載）と同様の理由により消滅してしまったと考えられる。夏場の調査に入ると、水は潤沢にあり、流れもほとんどない溝が多数あり、水生植物が豊富かと思いきや、意外と期待はずれになってしまうことがある。この原因として、除草剤の使用があるのは言うまでもないが、田の水の管理の仕方が変わってきた。配管によって自由に水の流入を調整することが可能になり、稲の収穫後は排水を積極的に行い、切り株から芽が出ないうちに、トラクターで耕作が行われ、田は畑と同じような状態にされてしまう。これにより生産量が上げられるからである。このように乾田化されたら、本種は絶えてしまう。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B 類
環境省	絶滅危惧 I B 類

【 種の概要 】

アカウキクサによく似ているが、植物体がやや大型で長さ 1.5~7cm。根に根毛がない。茎は密に分岐。葉は互生して覆瓦状に密につき、鱗片状で長さ 2mm 前後、秋には全体が紅色になるが、冬には先端部だけを残して枯れる。葉面の突起はないか、あってもわずか。胞子のう群は水中の葉の間につき、初夏から夏に成熟し、白色またはわずかに紅色をおびる。水田や池沼に生じる。本州・四国（東部にまれ）・九州に分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.285. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.439. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.159.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.430. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.172. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.13. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 009	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 モクレン科	岡崎市 絶滅
シデコブシ <i>Magnolia tomentosa</i> Thunb.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

早春の花であり、目立ちやすいので園芸目的に持ち出されることが多い。本来は湿地を好むが、他の場所でも適応力があり、花も大型で美しいので栽培に適している。岡崎には3~4m ぐらいのものが20本ぐらいあったと思われる。花つきもよく、本種をおおう木々はなかったため、人に見つからなければ大丈夫と思われた。しかし、開花が進み、道からも見えてしまうようになり、あっというまに姿を消してしまった。東海地方にのみ分布する種であるので、その消滅には胸が痛む。ただ本種は生命力が強く、さし木でふやすことができる。現在ではそのさし木によって残された個体がある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

【 種の概要 】

低山に生える落葉小高木または低木、高さはせいぜい5m くらい。若枝には密に毛がある。葉は互生し、長楕円形または倒披針形、長さ5~10cm、幅1~3cm、鈍頭または円頭、茎部はくさび形、表面は無毛、裏面は淡緑色で若い時にはしばしば脈上に毛がある。葉柄は長さ2~5mm で有毛。花は3~4月、葉の展開する前に開き、7~10cm。花被片は12~18枚あってがくと花弁の区別はなく、狭倒披針形・鈍頭、淡紅色または白色で紅色をおび、縁は多少波うつ。集合果は垂れ下がって長さ3~7cm、赤熟する。袋果にはふつう1個の赤色の種子がある。中部地方南西部の低山の湿地のようなどころから丘陵地に自生する(以上、佐竹ほか, 1989より)。

【 引用文献 】

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ, p.106. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.458. 新編岡崎市史編さん委員会.
 小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.151. 小林元男, 豊川.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.344.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・レッドデータブック・8 植物Ⅰ(維管束植物), p.443. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, p.219. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 010	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 メギ科	岡崎市 絶滅
キバナイカリソウ <i>Epimedium koreanum</i> Nakai		

【 選定理由・過去の生育状況 】

新編岡崎市史の中に、大原準之助氏は丸山町にて本種を見つけられたことを報告している(大原・千賀, 1985)。市史が発刊されてすぐ、大原氏に場所の確認をして、調査に入ったがその時には見つけることができなかった。以後も数回にわたって調べたが見つけられなかった。本種は南信では見ることができるが、県内ではなかなか見つからない。念のために、男川の上流部の調査にも行ったが確認されなかった。丸山(龍宮)というところは伝説の地であり、信仰の地でもあるので、ひょっとして、他から移入されたものが残っていたかもしれない。本種が丸山の地でも充分育つということは実験済みである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

多年草。主として落葉広葉樹林の林床または林縁にはえる。地上茎は高さ20~40cm。葉は2回3出し、小葉はやや硬く、卵形~狭卵形で、長さ5~16cm、幅3~10cm、先は尾状に伸びてとがり、縁には多く刺状の毛がある。花弁は長さ7~8mm、うす黄いろ、距は長さ20~24mmにもなる。北海道(渡島半島)・本州(主として日本海側)、および朝鮮の温帯に分布する(以上、佐竹ほか, 1982より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.457. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.90. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.203. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 011	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 スイレン科	岡崎市 絶滅
コウホネ <i>Nuphar japonicum</i> DC.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

小呂町に以前自生の可能性のあるものが生育（芹沢俊介氏記録 1989 年）していたが、絶滅した（愛知県環境調査センター, 2009）。現在、秦梨町と片寄町の池に生えている。どちらも植栽の記録はないが、植栽起源の可能性が大きいと思われる。したがって、現在自生のものは絶滅したと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B 類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水上に出て、葉身は長卵形、長さ 20~30cm、幅 7~12cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は 6~9 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 4~5cm、がく片は通常 5 枚で、花後に緑色が強くなる。北海道、本州、四国、九州及び朝鮮半島に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.175. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.455. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類, p.94. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II, p.252. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.112. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 012	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 スイレン科	岡崎市 絶滅
ヒツジグサ <i>Nymphaea tetragona</i> Georgi		

【 選定理由・過去の生育状況 】

大原準之助氏の報告によれば、本種の生育地は、羽根、美合、保母、池金となっている（大原・千賀, 1985）。ともに開発が著しく進んだところである。羽根、美合は住宅地となってしまった。保母と池金は農業基盤整備により、水路・池・沼地などは整理されてしまった。また、日本のスイレンとして園芸的に見ても評価が高く、採取されてしまった可能性がある。千万町町で見つけた本種については、植栽されたものであることが確認できた。生育地は田の回りの水路や、山との境に生じた水溜まり場であった。しかし、農耕用の機械の発達や、除草剤の使用により、岡崎市からは姿を消してしまったと思われる。種子の回りにできた薄皮に空気が入り、水に浮かんで種子を分散する。お昼頃に開花するのでこの名がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

多年生の水草、全体に毛はない。根茎は短くて、直立し、水中の泥の中にあって多数の根を出し、上に多数の根生葉を叢出する。葉柄は円柱形で非常に細長く、葉は水面に浮び、馬蹄形で、基部は深く裂けてやじり形となり、全縁で、表面は緑色でなめらか。光沢があり、裏面は暗紫色を帯び葉質はやや厚い。葉の長さは 10~12cm、7~8 月頃、細長い根生花柄の先に径 5cm ほどの白い花を開き夜間は閉じる。がく片は 4 個、おしべは多数。花は 3 日間開閉をくり返す。種子には袋状の肉質仮種皮がある。未草は未の刻、すなわち今の午後 2 時に開くことから名づけられた。ヨーロッパ・シベリア・東アジア・インド北部にかけて広く分布する（佐竹ほか, 1982）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.455. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類, p.95. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II, p.251. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.109. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 013	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 モウセンゴケ科	岡崎市 絶滅
イシモチソウ <i>Drosera peltata</i> Smith var. <i>nipponica</i> (Masamune) Ohwi		

【選定理由・過去の生育状況】

岡崎市内の湿地、その周辺のいたるところに見ることができた。最後まで確認できたのは池金であったのだが、数年前に姿を消してしまった。最後の池金では、大雨により土砂が流れ込み、生育地が埋まってしまった。その後、除去したが、再生することはなかった。もともと里山に育つ植物であるので、開発により生育地が消えていった。一方、手を入れなくなった里山で、樹木や草が繁茂し、被陰により消えてしまったり、湿地の道のわきに生育することもあるので、人の出入りが多くなるにつれ、自然と踏まれていったりもした。園芸用としては手頃な大きさであるために採取もされた。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

酸性の湿地にはえる多年草で、地下に球形の塊茎がある。茎は高さ10~30cm。根出葉は、はじめはあるが花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、三日月形で幅4~6mm、表面と縁に長い腺毛があり、基部は湾入して細い柄に直角に続く。葉柄は長さ10~15mm。5~6月、総状花序が出るが、はじめは頂生し、のちには葉に対生し、2~10花をつける。朝の10時頃開いて、午後早く閉じる。蒴果はやや球形で長さ2.5mm。種子は広楕円形で長さ約0.4mm、両端はややとがる。本州（関東以西）~九州・琉球（西表島）、朝鮮・中国（本土・台湾）に分布する。和名は石持草の意味で、この草を抜くとき地面に触れると葉の腺毛に小石がついてくるためという（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.121. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.461. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.357.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.167. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 014	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 マメ科	岡崎市 絶滅
シバハギ <i>Desmodium heterocarpon</i> (L.) DC.		

【選定理由・過去の生育状況】

平成23年に、道路工事により、生育地が消滅した。その前の平成22年に工事の進行に伴って、移植された。その頃、10株ぐらいあったと思う。長く伸びた枝の途中より根を出し、株を増やすようにも思われるので、正確な株数については把握しかねる。山の麓の道添いの湧水地にあり、群落をなしている。環境さえよければ1m以上に枝を伸ばすのだが、ここではすべて20~30cmであった。この生育個体は、岡崎市こども自然遊びの森(わんPark)に移植された。この植物は刈り込みには極めて強く、何度も芽をたちあげてくる。しかし、被陰には極めて弱く、すぐに衰退してしまう。また、乾燥にも強いので、里山の植物の特徴を持っている。数を減らした原因は草刈りをしなくなったためである。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠB類
環境省	リスト外

【種の概要】

道ばたや草原などのやや乾いた場所でみられる半低木。根元でよく分岐し、茎は長さ100cmに達し、地をはい、先が立ち上がる。葉は3小葉ときに1小葉、頂小葉は側小葉よりふつうやや大きく、多くは倒卵形、円頭またはやや凹頭。托葉は披針形で長鋭尖頭、長さ7~15mm、幅1.5~2.5mm。花期は8~10月。花序は5~10cm、軸には密に開出したかぎ毛がある。花は帯紅紫色で、4~5mm、竜骨弁は翼弁よりわずかに長い。がくは長さ2.5~3mm、上半部は4裂し、がく裂片は1~1.5mm。節果は長方形、長さ1~2cm、全面にかぎ毛があり、ふつう5~8小節果からなる。種子は広楕円形、へそのまわりに仮種皮がすこし発達する。本州（静岡県以西）~琉球、旧世界の熱帯~暖帯に分布する。和名は芝萩で、生育状態に基づくものであろう（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.203. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.469. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.194.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.311. 小林元男, 豊川.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.101. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 015	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ミツガシワ科	岡崎市 絶滅
ガガブタ <i>Nymphoides indica</i> (L.) O.Kuntze		

【選定理由・過去の生育状況】

大原準之助氏の報告によると、羽根、戸崎に生育していた（大原・千賀，1985）。羽根、戸崎は、かつては郊外の丘陵地であり、池や小川がある田園地帯で、自然度の極めて高い地区であったが、住宅用の土地としての開発が著しく、次々と造成されてゆき、新しい町が誕生していった。当時は現在のような野生動植物に関する調査や関心も低く、防波堤になる法律もなく、工事が進められた。工事にともなって、徐々に池や小川に汚水が入り込み、本種などの植物が姿を消してゆき、造成に拍車がかかったのかもしれない。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

水生の多年草で、葉は柄があり、葉身は水面に浮かぶ。茎は細くて長く、1～3個の葉をつける。葉は卵状円形で径7～20cm、縁に波状歯牙がない。葉柄は長さ1～2cmで、基部はやや耳状になり花序の基部を抱く。花は7～9月、葉柄の基部に数個から多数束生する。がく裂片は広披針形で長さ4～6mm、花冠は白色で、径約15mm、裂片の内面に長い毛がある。株により長花柱花と短花柱花がある。蒴果は楕円形で長さ4～5mm。種子は広楕円形で光沢があり、長さ0.8mm。本州～九州、朝鮮・中国・東南アジア・アフリカ・オーストラリアに分布する（以上、佐竹ほか，1981より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.495. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.36. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.566. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物Ⅰ (維管束植物), p.513. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.213. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.140. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 016	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ミツガシワ科	岡崎市 絶滅
アサザ <i>Nymphoides peltata</i> (Gmel.) O.Kuntze		

【選定理由・過去の生育状況】

大原準之助氏の報告によると、羽根に生育していた（大原・千賀，1985）。岡崎の南部地域は昭和40年代ごろまでは閑静なところで、牧場や果樹園などが多い丘陵地帯であった。そのため自然の豊かな所であった。丘と丘の間には湿地やため池があり、山には二次林としてのマツが生えていた。また花崗岩の分解したさば土山であったので、大木はなく、陽がよく入った。こういうところだけに、一旦開発の波が押し寄せると、次から次へと住宅地へと変わった。それまで、岡崎は名鉄を中心とする東岡崎を中心に都市ができていたが、それがJRの岡崎へと中心地が移っていったことでもわかる。現在では昔のおもかげが全くないところになってしまった。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠB類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

池や沼にはえる多年生の水草である。根茎は泥の中を長くはい、それから太く長い茎を出す。葉は卵形または円形で径5～10cm、やや厚く縁に波状歯牙があり、表面は緑色、裏面は紫褐色で、柄は長く、基部が鞘状になる。花は6～8月で、花柄は3～12cm、花冠は径3～4cm、黄色で5深裂し、裂片の先はへこみ、縁に長い毛がある。蒴果は狭卵形でがくよりもすこし長い。種子は倒卵形で約3mm、翼がある。本州～九州、朝鮮・中国からユーラシアの温帯に多い（以上、佐竹ほか，1981より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.495. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.36. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.220. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物Ⅰ (維管束植物), p.514. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.213. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.140. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 017	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 絶滅
ミカエリソウ <i>Leucosceptrum stellipilum</i> (Miq.) Kitam. et. Murata		

【選定理由・過去の生育状況】

ミカエリソウの名の由来は、何げなく通り過ぎたあと、改めて振り返ってその花を見てしまうという美しさを持つことによる。もともと西日本のもので、東海地方では珍しい。かつて存在した所を入念に調べたが、隣接の市町村には見つけることができたが、岡崎市では見つけられなかった。本種は半低木で、群落をなすため比較的回りの環境には影響を受けない。しかし、何年も放置されると、周りの木々の成長により、日陰となり、次第に勢力が衰えてしまう。多分岡崎市のミカエリソウも、スギが大木化し、その被陰により、姿を消してしまったのではないかと思う。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

林床に群生する高さ 40~100cm の半低木。枝は葉の裏面や花序と同様に密に星状毛がある。葉は対生で楕円形~長楕円形、長さ 10~20cm、幅 6~12cm、鈍い鋸歯があり、基部は円形または広くさび状で 1~5cm の葉柄がある。花序は円柱状で直立し、長さ 10~18cm、若い時は扁円形の鱗状の苞に被われる。花冠は長さ 8~10mm、淡紅色、9~10 月に開花する。分果は長さ 3~3.5mm、腺点がある。本州（福井県以西）に分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。

和名は見返り草で、花が美しいので人がふりかえってみるという意味。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.84. 平凡社, 東京.

【関連文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.560. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.173. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 018	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ゴマノハグサ科	岡崎市 絶滅
ミカワシオガマ <i>Pedicularis resupinata</i> L. var. <i>microphylla</i> Honda		

【選定理由・過去の生育状況】

大原準之助氏によって報告された場所（大原・千賀，1985）を再三にわたり調査に入った。当時はまだ湿地保護の会が結成される前であった。サルトリイバラが上部をおおい、樹木も茂っていて、下草がほとんどなく、かつてあったとされる場所で本種を見つけるのは困難であるとすぐに察することができた。その後は周辺の調査に入ったが、見つからなかった。生育環境としては、湿地内の植物より抜きん出て花を咲かすので、見つけるのに比較的容易な植物である。しかし、ここの環境は激変してしまった。その昔、里山の人々は樹木を薪として利用したので、山の道はよく手入れがなされていた。しかし、プロパンガスの時代になると、山は荒れていった。ここも被陰による消滅の道をたどった。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B 類
環境省	絶滅危惧 II 類

【種の概要】

愛知県の湿地にはえる多年草。茎は基部で分枝して株を作り、斜上して高さ 25~60cm になる。葉は下部のものは対生、中部以上は互生し、狭卵形で、長さ 10~20mm、幅 4~7mm、先はとがり、基部は円みのある切形で柄となり、縁には重鋸歯がある。8~9 月、枝先に集まった広卵形の苞の腋に紅紫色の花をつける。がくは筒形で、先は円く、腹面は深く背面は浅く左右の 2 片に裂け、長さ 6~7mm、幅 3~4mm。花冠は長さ 2cm で、上唇は鎌形に曲がって先はくちばし状にとがり、下唇は斜めに広く広がって先が浅く 3 裂し、中央裂片は小さい。蒴果は三角状卵形で先がとがり、長さ 10~12mm、幅 5mm、がくのほぼ 2 倍である（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.504. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.116. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.232.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.343. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.134. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 019	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 絶滅
ノタヌキモ <i>Utricularia aurea</i> Lour.		

【選定理由・過去の生育状況】

里山で静粛な森に囲まれ、回りからの影響を受けない小さな沼や池に生育するノタヌキモは、かつて岡崎では数ヶ所で見つかっている。岡崎は名古屋、豊田のベッドタウンとして開発が進み、かつて本種が生育していた所はすべて失われてしまった。たとえ残ったにしろ、近くまで開発の波がおし寄せていて、泥水をはじめとする水質の変化に見まわられてしまった。もう一つの原因として、マツクイムシが大発生した時に空中撒布された農薬による被害も認めなければならない。また、稲の病害虫対策として、毎年大量に撒布されている農薬も見逃せない。繊細な植物だけに、ちょっとした水質の変化に対応できない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

池に浮遊する1年草で、越冬芽をつくらず、低地の溜池などにもよくはえる。水中葉は多数の捕虫のうをつけ、長さ3~4cm、やわらかい毛状の裂片に細かく立体的に分裂し、水から出すとしぼんで毛筆状になる。8~10月に高さ8~20cmの花軸を出し4~10個の花をつける。花軸は水中の主軸よりもやや太い。花は黄色、径6~7mm、がくは2.5~3mm、花冠にははじめ毛がまばらにはえている。距は斜め下を向き、下唇よりやや短い。花後、花柄は下垂し、先が太くなる。また、花柱が果時にも残って伸長し、蒴果の本体とほぼ同長になる。蒴果の径約4mm。南方系の種で、本州~九州、朝鮮南部~インド・マレーシアに分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.139. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.505. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.419.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.122. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.149. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 020	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 絶滅
フサタヌキモ <i>Utricularia dimorphantha</i> Makino		

【選定理由・過去の生育状況】

県内にあっても1950年代から1960年代にかけて、井波一雄氏により採取された。それ以外にあっては標本もなく、正確なことはわからない。岡崎市では大原準之助氏により、1ヶ所のみ確認されている(大原・千賀, 1985)。ノタヌキモ(本ページの前半に記載)と同様水質の変化には敏感であり、農薬の使用が多くなるにつれて、水質を悪化させてしまったこと。開発が中心地から郊外に及び、泥水が入り込むようになったこと。湧水等によって一定の水量を確保していた沼や小さな池が干あがってしまったり、水量が少なくなり、他の植物の進入をすすめてしまったことなどの原因が考えられる。ここに特記しておきたいことは、県にも稀な植物が岡崎には多数あったということである。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	絶滅危惧ⅠB類

【種の概要】

流れのゆるい田の溝や小川にもみられ、しばしば植物体の一端が泥の中に埋まることはあっても地中葉を分化することはない。水中葉は毛状の裂片に細かく分裂し、長さ3~6cmで、捕虫のうは小さく、葉にわずかしつかない。7~9月に、高さ7~15cmの花軸を出して3~10花をつける。花は黄色で径約1cm、がくの長さは約2mm、距は下唇よりも短く、前に向く。花柄は花後に下垂し、蒴果はがくと同長。花軸の基部やその付近の葉腋に短い柄のある閉鎖花をつける。本州(近畿・中部地方)に特産する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.505. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.139. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.57.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.176. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.122. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.152. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 021	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 絶滅
ミカワタヌキモ (イトタヌキモ) <i>Utricularia exoleta</i> R.Br.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

県内の広い地域で確認されている。大原準之助氏によれば岡崎市では4地域で確認された(大原・千賀, 1985)。水に関わる植物は丘に生じる植物と違って汚染された場所のみにとどまらず、全域に汚染が拡散しやすい。しかも水生植物はpHの変化に弱いので、適応する前に枯死してしまう。岡崎地区は人口が増加し続けた。ということは、それだけ住宅地が供給されたということでもある。適度な高低差を持つ丘は住宅地としては最適の場所である。そこには大小さまざまな池や沼や湿地があったが、生活污水の流入により植物たちはその犠牲になっていった。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠB類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【 種の概要 】

タヌキモとミミカキグサ(本書149ページ参照)の中間的な生活様式をもつ多年草。水面とすれすれの泥上を匍匐して、捕虫のうをつけた地中葉で固着する。越冬芽をつくらぬ南方系の種で、軸の先は渦巻状に巻く。水中葉はまばらに軸につき、小さくて、長さはせいぜい1cm位、1~5個の裂片に分裂し、裂片にはまばらに細かい鋸歯があり、まばらに捕虫のうをつける。8~9月に高さ5~8cmの花軸を生じ、1~3個の花をつける。花は黄色で径5~6mm、がくは長さ約2mmで、花後もほとんど生長しない。距は前向き、下唇と同長か、またはやや長い。花柄は花後3~6mmになり、斜上して多少曲がるが下垂はしない。蒴果は長さ約3mm。本州(関東~近畿地方)・九州・琉球、台湾・インド・オーストラリア・アフリカに分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.506. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.139. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.236. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.346. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.122. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.153. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 022	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 絶滅
コタヌキモ <i>Utricularia intermedia</i> Heyne		

【 選定理由・過去の生育状況 】

愛知県内の生育地は、県のレッドデータブックによると、「いずれも湧水湿地中の浅い水たまりである。」と報告されている(愛知県環境調査センター, 2009)。岡崎ではかつて保母と美合に生育したとある(大原・千賀, 1985)が、いずれも大規模な開発がなされた場所であり、今は会社や住宅が建ち、そのおかげさえない。まだ自然保護の関心よりも開発に人々の思いが強く、一顧だにされず整地されたものと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	リスト外

【 種の概要 】

浅い古池にはえる多年草。ヒメタヌキモと生態は似ているが、果実はできない。捕虫のうは地中葉のみにつく。花はこの方がよくつく。花期は6~9月。花軸は高さ5~15cmで花は1~5個、黄色で、径12~15mm、がくは長さ3mm、距は下唇とほぼ同長で前向き。本州(三重県以北)・北海道、千島・朝鮮より北半球に広く分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.58. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.506. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.139. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.122. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.152. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 023	種子植物 被子植物 単子葉 トチカガミ科	岡崎市 絶滅
トチカガミ <i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer		

【選定理由・過去の生育状況】

大きく、深い池や沼にはない。小さくて、浅い 30~40cm ぐらいのところを好む。こういう池は魚をはじめとする動植物の宝庫であった。私の記憶の中ではジュンサイ（本書 131 ページ参照）も共生していて、一方にはぬめりがあり気持ちが悪く、一方にはそれがないので、メダカや、モロコをつかまえた時には、バケツの水の上にカガブタを浮かべていた。そうすると魚も人影におどろかず、しかも水温の上昇をおさえ、おまけに酸素を供給してくれるので、子供たちはみなそういうことをしていた。引きぬかれることも多くあったが、それで生育が衰えてしまうことはなく、遅しいところがある。今はそういう子供が遊ぶのに丁度よい沼や池は汚水や除草剤によって生きものがいなくなってしまう。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B 類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

池や溝にはえる多年草で、走出茎が水底を横にはい、その先に新しい株をつくる。葉は長柄があり、基部に 2 個の長さ 2.5~3.5cm の托葉がある。葉身は円心形、全縁で径 4~7cm、裏面の中央に気泡があり、水面に浮かぶ。ただし、密集すると葉身は立ち、気泡をもたないことがある。花期は 8~10 月。雄の苞鞘には約 5cm の柄があり、2 枚の苞片からなる。雄花のつぼみはこの内に約 5 個でき、花柄が細長く伸びて 1 花ずつ水面で開花し、1 日でしぼむ。雌の苞鞘には柄がなく、内に雌花が 1 個だけ発達し、花柄が伸びて水面で開花する。雄花・雌花ともにごく片は 3 個で緑色。花弁は 3 個で卵形、白色、長さ 10~15mm。雄花には 6~9 個の雄ずいと 3~6 個の仮雄ずいがある。雌花には 6 個の仮雄ずいがある。花柱は 6 個で先は二又にわかれる。本州~琉球から東南アジア・オーストラリアの温帯~熱帯に広く分布する。トチはスッポンの意味（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.4. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.524. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.254.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.396. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.28. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 024	種子植物 被子植物 単子葉 トチカガミ科	岡崎市 絶滅
セキシウモ <i>Vallisneria asiatica</i> Miki		

【選定理由・過去の生育状況】

池を作り、そこから水路によって各田に水を配する時代は、水路に多様な植物が生育できた。しかし徐々に水の一括管理がなされるようになると、本流より大量の水を配管によって自由に操作する時代になった。すると、人と共生していた植物は姿を消さざるをえない。そのような原因で生育できなくなった植物がいかに多いかわかる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

池や小川にはえる沈水性の多年草。葉はすべて根生して株をつくる。白色の走出茎が泥の中を横にはい、先に新しい株をつくる。葉は線形、扁平で鈍頭、長さ 30~70cm、幅 4~10mm、上部の縁に不明瞭な鋸歯がある。8~10 月に開花する。雄の苞鞘は柄が短く、水面には出ない。苞鞘は卵形で長さ約 1cm、内に小さい雄花が多数でき、花柄が切れて水面に浮き上がる。ごく片は 3 個あり、灰色で反りかえる。花弁はない。雄ずいは 1 個。雌の苞鞘の柄は水深に応じて長く伸び、苞鞘を水面に浮かせる。苞鞘は円筒形で内にただ 1 個の雌花ができる。ごく筒は伸びない。ごく裂片は 3 個、長さ約 3mm で淡紫褐色。花弁はなく、小さな仮雄ずいが 3 個ある。花柱は 3 個あり、それぞれ先が 2 裂する。花後、苞鞘の柄がらせん形に巻いて子房を水中に引き込む。種子は多数できる。北海道~九州、アジア・オーストラリアに広く分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.6. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.524. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.392. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.29. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 025	種子植物 被子植物 単子葉 トチカガミ科	岡崎市 絶滅
コウガイモ <i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino		

【 選定理由・過去の生育状況 】

水の管理が配管によってなされることにより、ため池の植物、水路の植物は姿を消してしまった。また、田の植物も、稲作の後は今まで以上に乾田化し、機械による耕作が進んだ。水に関わる植物は姿を消さざるを得ない。そういう農業の仕方の変化により生育地を奪われた植物がどれだけ多いか改めて知ることとなった。今のところ、水生植物が生存出来る場所は、ごく一部に限られたと言わざるを得ない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

走出茎の表面には多数の小さいとげがあり、秋になると先が紡錘形の越冬芽ができる。葉縁にはセキショウモよりはるかに明瞭なとげ状の鋸歯がある。雄花に雄ずいは2個ある。種子は小さく、長さ約1.5mm。本州、国外では中国（中部）に分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

その他の性質はセキショウモと同じであるのでセキショウモの項（本書59ページ）を参照のこと。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.6. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.524. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.432.

愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.393. 保育社, 大阪.

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.29. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 026	種子植物 被子植物 単子葉 ヒルムシロ科	岡崎市 絶滅
ヒルムシロ <i>Potamogeton distinctus</i> A.Bennett		

【 選定理由・過去の生育状況 】

この原稿を書く直前までは生育していたが、姿を消してしまった。一度数が減りはじめ、心配をしたが、その後、やや復活したものの、やはり姿を消すこととなった。この池は普段から流入する水量も多く、大雨になると土砂の流れ込みも考えられるが、何が原因かはわからない。また、近くで造成が行われたことによる水質の汚染や、環境の変化が原因なのかもしれないが、事実関係は、はっきりしない。他の本種の生育地も原因不明のまま姿を消した。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

池や沼にはえる多年草。地下茎は水底の泥の中を横にはい、先端に越冬芽をつくり、各節から根を出し、1節おきに水中茎を出す。水中茎は水深に応じて伸び、下部に沈水葉、上部に浮水葉をつける。葉のほとんどは互生するが、花序の基部につく浮水葉には対生するものがある。沈水葉の葉身は披針形で薄く、長さ16cm、幅2.5cmになる。葉柄の長さは水深によって異なるが、17cmにもなる。浮水葉の葉身は長楕円形で長さ5~10cm、幅2~4cm、表面は緑色でつやがあり、裏面は黄緑色である。葉柄は長さ5~20cm。葉柄の内側に、膜質で長さ4~7cmの独立した托葉があり、茎を抱いている。6~10月に浮水葉の腋から穂状花序を出す。花序は長さ2.5~5cm、総花柄は長さ5~9cm、径2~2.5mmで、開花時には直立し、水面より上に出る。花が終わると総花柄は横向きになり、花序は水中に沈む。北海道~琉球、朝鮮・中国に分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

和名は、ヒルが多い所にはえるむしろ（筵）の意。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.10. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.522. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.595.

愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.410. 保育社, 大阪.

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.33. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 027	種子植物 被子植物 単子葉 ヒルムシロ科	岡崎市 絶滅
センニンモ <i>Potamogeton maackianus</i> A.Benn.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

水の管理をより効率的にするためには、必要な時に、必要な量の水を配水できるようにすることである。その結果池はつぶされ、宅地に、畑に、そして水路は、配管に代わってゆく。水源は川の本流より取り入れるようにする。そうすれば、田にも、畑にも転用でき、作物の栽培の幅が広がることになる。このような田畑が多くなるにつれ、水に生育していた植物は自然と姿を消すことになった。実は、我々が便利さを求めた結果が、現在の水生植物の実態を反映している。あまりにも便利にしすぎると、大切なものを見失ってしまうという例である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	リスト外

【 種の概要 】

池や沼にはえる多年草。葉はすべて沈水葉で、葉柄はなく、葉身は広線形で長さ 2~6cm、幅 2~3mm で 3 本の縦脈があり、縁には細かい鋸歯がある。葉の基部は托葉と合着して長さ 3~4mm の葉鞘となり、茎を抱いている。托葉の上部は長さ約 5mm の耳状突起となっている。花期は 7~8 月。総花柄は長さ 2~4cm、径 0.8mm。穂状花序は長さ約 8mm あり、数個の花を間隔をあけてつける。果実は広卵形で長さ約 3mm、背面の基部に少数の低い突起がある。北海道~九州、東南アジア北部に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.12. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.522. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.67.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.417. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.40. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 028	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅
カタクリ <i>Erythronium japonicum</i> Decne.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

大原準之助氏に生育地を教えてもらい、私も現地に入り、20 株ぐらゐのカタクリを見た。しかし春というのに、片葉のものばかりで、花芽があがっているものはなかった。当時すでに、上部はコナラやアラカシにおおわれ、地上にはわずかばかりの日が差す程度で、今まで見てきた生育地と比べて、あまりにも株が分散していた。しかし、こんなところによくぞあるものだと感心することしきりであった。それから十数年後、訪ねてみると、更に被陰され、1 株も見つけることはできなかった。上流にも見つけることができなかったため、ひょっとするとここの寺社の信者さんが、種をまいたのかとも思われた。これについては、キバナイカリソウ（本書 52 ページ参照）と同じである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山野に群生する多年草。鱗茎は筒状長楕円形で長さ 5~6cm。葉はふつう 2 個で花茎の下部につき、長い柄があるが地下に埋まるため、地上には葉身だけが現れる。葉身は長楕円形または狭い卵形で長さ 6~12cm、黄緑色で暗紫色の斑紋がある。花は 4~6 月、高さ 10~20cm の花茎の先に 1 個つき、下向きに開く。花被片は紅紫色、披針形で長さ 4~5cm、基部の近くに蜜腺があり、その上部に W 字状の濃紫色の斑紋がある。雄ずいは花被片の約半長、葯は濃紫色で線形。蒴果は円く、深い 3 稜形になる。蒴果が成熟する頃は花茎が 30cm 位に伸びて地に倒れる。南千島・北海道~九州、朝鮮・中国・樺太に分布する。和名は、古名の「かたかご」が「かたこゆり」になり、さらに転じて「かたくり」になったという（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.37. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.549. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.117. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 029	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅
イワショウブ <i>Tofieldia japonica</i> Miq.		

【選定理由・過去の生育状況】

北方系の植物が生育できる場所は限られたところになる。暑さを避けることのできる湧水地となる。湧水地には北方系の植物がいろいろ観察できる。しかし、近年湧水地の周りの開発が進み、水みちが変わってしまったり、途絶されてしまうことがある。筆者の家から 200m も離れたところの工事があった時に、井戸水が濁ってしまったという経験がある。このように、地下の水みちが、どのようになっているかを理解するのは、至難のわざと言わざるを得ない。このイワショウブの生育していたところは、大規模な開発がなされているので、湧水に変化があったと想像される。また、夏の暑さが年々厳しくなり、湧水地の温度を上げているのも原因の一つかと思う。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

亜高山帯の湿原にはえる。根出葉は線形で長さ 10~40cm、縦に刺状突起がある。花茎は高さ 20~40cm、1~2 個の小型の葉がある。8~9 月、花茎の頂に総状花序が出て、苞の腋に 3 個の花がつく。花柄は斜め上に向き、長さ 4~10mm、花序とともに腺状突起が多い。苞は卵形または披針形、花被片は長楕円形で長さ 5~7mm、白色。ときに淡紅色を帯びる。雄ずいは花被片と同長、葯は心形で黒紫色、蒴果は卵状楕円形で、種子の一端に糸状の尾がある。本州（西限は伯耆大山）の特産である（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.26. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.547. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.601.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.154. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 030	種子植物 被子植物 単子葉 ミクリ科	岡崎市 絶滅
ヒメミクリ <i>Sparganium stenophyllum</i> Maxim.		

【選定理由・過去の生育状況】

新編岡崎市史によれば、戸崎町に生育していた（大原・千賀, 1985）。当時すでに稀少種であったうえに、戸崎町は報告後、著しく開発が進み、宅地化してしまったので現存することはない。かつてこの地は市内においての郊外であり、丘陵地のやせ山であったため、池沼も多く、随所に湿地が見られた。そのため今では確認できない植物の相当数がこの地には生育していた。レッドデータブックあいち 2009 植物編にも、県下で確認されているのは、豊田西部のみと報告されている（愛知県環境調査センター, 2009）。今後岡崎市から生存が確認されることはないと思われるので絶滅とした。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A 類
環境省	絶滅危惧 II 類

【種の概要】

浅い水中にはえる多年草。地中を横にはう根茎がある。茎の高さは 30~60cm で直立する。葉は 2 列に互生し、基部は葉鞘となり、その内側に腺点がある。下部の葉は茎よりも長く、幅 3~5mm、先端は鈍頭。裏面に稜がある。頭花をつける枝は葉腋から出て、少数の分枝がある。雌性頭花は 1~3 個あり、すべて無柄。雄性頭花は 2~7 個まばらにつく。果実は小柄がなく、広卵状菱形で長さ約 4mm、稜がある。北海道~琉球、朝鮮・中国（北部）に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。
 集合果がクリのいがに似ているので、実栗という。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.522. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.122.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.143. 平凡社, 東京.

【関連文献】

環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.587. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.421. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.81. 文一総合出版, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 031	種子植物 被子植物 単子葉 カヤツリグサ科	岡崎市 絶滅
カガシラ <i>Scleria caricina</i> (R.Br.) Benth.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

湿地内の半裸地状の場所を好む。岡崎では池金と小呂の湿地で見つかった。他には戸崎のみである。湿地は貧栄養のため背丈の低い植物群落を作る。しかし、近年では山は放置され、倒木はそのまま、山の木々を持ち出して、燃料として使うこともなくなった。そのため山より出てくる水は、自然と富栄養化が進んだ。それが時に湿地内に入り、外部からの植物の進入を誘うことになってしまった。このように、時代の価値観により、人々の生活様式が変わるのは仕方ないが、それがひいては、植物の生存にも関わってくるという、いい例ではないかと思う。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠA類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【 種の概要 】

湿地にややまれにはえる。茎は高さ 5~20cm、やや多数の葉をつけ、ときに基部はすこし分枝する。分花序は短い柄があつて腋生し、長さ幅とも 3~5mm、淡緑色、密に小穂をつける。雌小穂の鱗片は長楕円形で、5~8 脈があり、上端に 3 個の歯牙がある。果は長さ 1mm 弱、球形で、あらい格子紋があり、上方には微毛がはえ、鱗片とともに脱落する。本州（千葉県以西）~琉球、台湾・インド・マレーシア・オーストラリアに分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.168. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.540. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.129.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.393. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.254. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 032	種子植物 被子植物 単子葉 カヤツリグサ科	岡崎市 絶滅
ミカワシンジュガヤ <i>Scleria mikawana</i> Makino		

【 選定理由・過去の生育状況 】

ミカワとは三河のことである。三河国で初めて見つけられたことによる。湿地に比較的早く進入する植物であるため、湿地が富栄養化してくると生育できなくなる。かつて池金と岡で見つかった（大原・千賀, 1985）が、今は見ることができない。池金の湿地で大量に採取されて姿を消してしまったとは考えられないので、被陰か、富栄養化によるものと思われる。ミカワという言葉に親しみを持つ者としては、こういう植物が見られなくなることは、悲しい限りである。植物は人との生活にあわせるかのように生存してきたことがよくわかる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【 種の概要 】

湿地にはえる。高さ 30~50cm、葉は幅 3~5mm、線形、葉鞘に翼がない。分花序はまばらに小穂をつけ、長さ 1~3cm、小穂は長さ 4~5mm。茎や葉、分花序などはやや直立し、果の格子紋には光沢がない。本州（千葉県以西）・九州の湿地にややまれにはえ、インド・ニューギニア・アフリカに分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.543. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.169. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.483.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.393. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.255. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 033	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅
マメヅタラン <i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim.		

【選定理由・過去の生育状況】

シダ植物のマメヅタによく似ているので、マメランとも呼ばれる。宜なるかな。花も小さく、よくよく注意してみないと見落とす。日当たりのよい岩場で見ることが多い。ということは、かなり湿度がないと生育できない場所ということになる。ツガなどの樹木に着生することもあるが、岩場と同様湿度はかなり高い。すなわち、自然環境のすこぶるよい所でないと生育できない。本種の生育するような所は他の植物も多く、保護すべき地ということになる。岡崎では本宮山がまさにこの地であるのだが、岩場はもちろんのこと、樹上をこまかに調べたが見つかることはできなかった。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

山地の樹幹または岩石の上に着生する。根茎は細長く匍匐し、まばらに葉をつける。葉は革質、長さ7~13mm、幅5~10mm、円頭、基部は無柄。花茎は葉の基部から出て糸状、長さ7~10mm、基部に小型の鱗片葉があり、5~6月に1花をつける。苞は卵形、膜質、長さ1.5mm、鈍頭。がく片は広披針形、長さ7~8mm、漸尖頭、側花弁は長楕円形、長さ3~4mm、唇弁は広披針形、がく片より短く、漸尖頭でやや鈍頭、外曲する。花粉塊は黄色、円形。本州（関東以西）から琉球、朝鮮南部・中国（本土・台湾）に分布する。和名は、葉がシダ植物のマメヅタに似ているためである（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.231. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.649. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.609. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.59. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 034	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅
マヤラン <i>Cymbidium nipponicum</i> (Franch. et Sav.) Makino		

【選定理由・過去の生育状況】

植物がどういう生活史をもっているか、まだまだ不明なものが多い中、本種も実態については明らかになっていない。こういう植物がかつて岡崎にも生育していたという報告がなされていることは、先人の大きな成果であると言っている。愛知県内で現在生育が確認されているところはないが、今後どのような機会に見つかるかわからないだけに、一度生育した場所は保護する必要がある。岡崎では小呂で見つかっている（大原・千賀, 1985）が、湿地の周辺まで開発が進み、常緑広葉樹林はスギ、ヒノキに植え替えられてしまったことなどを考えると、今後見つかる可能性はなくなった。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A 類
環境省	絶滅危惧 II 類

【種の概要】

常緑広葉樹林下にはえる腐生植物。根茎は長く地中を横にはって分枝し、白色で多肉、鱗片を散布する。地上茎はその先端から出て、直立し、高さ10~30cm、多少微毛があり、下部に基部が短い鞘となる膜質の鱗片葉がまばらに数個あるが、緑葉はない。7~8月、茎頂に2~6個の花がまばらにつける。花は白色で紅紫色を帯びる。苞は広披針形、膜質、長さ5~10mm、鋭尖頭のがく片は倒披針形、長さ2cm、幅3~4mm、鋭頭。側花弁は狭長楕円形、がく片よりすこし短い。唇弁は長楕円形、長さ約15mm、先がわずかに3裂するが、側裂片はやや突出する程度で、中裂片は3角形で外反し、縁は細波状をなし、鋭頭。ずい柱は長さ8~10mm。本州（関東南部以西）~琉球に分布する。和名は最初に発見された神戸市の摩耶山にちなむ（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.230. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.131. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.399. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.66. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 035	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅
オオミズトンボ (サワトンボ) <i>Habenaria linearifolia</i> Maxim.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

ももとの個体数が少ないうえに、園芸目的で採取され、しかも湿地に富栄養の水が流れ込むなど、植物にとっては三重苦である。そんななかを逞しく生きてゆく程の植物ではない。相当早い時期に姿を消してしまったと思われる。レッドデータブックあいち 2009 植物編にも報告されるように、県内には現在生育が確認されていない(愛知県環境調査センター,2009)。岡崎にもかつて生育したという報告(大原・千賀,1985)から、岡崎の植物調査が早くからなされていたということであり、先人の功績をたたえたい。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	絶滅危惧 I B 類

【 種の概要 】

日当たりのよい湿原にはえる。茎は楕円形の球茎から出て、高さ 40~60cm。葉は茎の下半部に数枚あり、線形で長さ 10~20cm、幅 3~6mm、先端はしだいに細くなってとがり、基部は鞘となり茎を抱く。また上部に数個の鱗片葉がつく。花は白色、径 1~1.5cm、8 月に 5~7 花を総状につける。苞は鱗片葉に似て小型、長さ 1~1.5cm、背がく片は卵形で長さ 6~7mm。側がく片は斜卵形で長さ約 7mm。側花弁は半切三角形で側がく片よりすこし短い。唇弁は淡緑色で、長さ約 1.5cm、3 裂して十字形をなし、裂片は線形、中裂片は全縁、側裂片は湾曲して下垂し、ふつう歯牙がある。距は長さ 2.5~3cm、先端に向かってしだいに太くなる。ずい柱は短く、薬は 2 室で、平行し、各室に 1 個の花粉塊を入れる。北海道・本州(関東以北)、ウスリー・アムール・中国(東北)・朝鮮に分布する(以上、佐竹ほか,1982 より)。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編),2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.78. 愛知県環境部自然環境課,名古屋.
 大原準之助・千賀敏之,1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.554. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編),1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.193. 平凡社,東京.

【 関連文献 】

環境庁自然保護局野生生物課(編),2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.406. 財団法人自然環境研究センター,東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫,1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.8. 保育社,大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 036	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅
ニラバラン <i>Microtis unifolia</i> (Forst.) Reichb.f.		

【 選定理由・過去の生育状況 】

海岸に近い日当たりのよい草地を好むニラバランは、県下では渥美で確認されているのみである(愛知県環境調査センター,2009)。一般的にラン科の植物は鑑賞価値が高く、乱獲されやすいが、本種は地味な花なので、採取されにくい。本種が市内にあったということ(大原・千賀,1985)は特筆すべきことである。どうして極めて狭い環境の中にしか生育しない本種が見つかったか。想像を逞しく働かせてゆけば、かつてこの地の近くまで海が入り込んでいたことを証拠づける遺存植物であることも考えられる。先程も書いたように、人によって持ち込まれるということは考えにくいからである。本種が姿を消した原因は開発によるものと考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II 類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

海岸に近い日当たりのよい草地にはえる。茎は高さ 10~40cm、前年生じた球形に肥厚する根から出る。葉は 1 葉あり、ネギ属のもののように、長さ 15~25cm、径 2~2.5mm、ラン科と思われないような形態をしている。4~5 月、淡緑色花を 20~30 個、やや密につける。苞は卵状披針形、長さ 2~4mm。背がく片は広卵形、長さ約 2mm。側がく片は狭長楕円形、長さは背がく片より短い。側花弁は狭長楕円形、背がく片より短い。唇弁は長い舌状、やや肉質で、背がく片と同長、基部の両側の縁に突起がある。ずい柱は高さ 1mm。薬は広卵形で 2 室、楕円形の花粉塊が各 1 個ずつ入る。本州(千葉県以南)~琉球、中国・フィリピン・マレーシアなどに分布する(以上、佐竹ほか,1982 より)。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編),2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.498. 愛知県環境部自然環境課,名古屋.
 大原準之助・千賀敏之,1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編),1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.202. 平凡社,東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫,1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.24. 保育社,大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 037	シダ植物 シシラン科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
タキミシダ <i>Antrophyum obovatum</i> Baker		

【選定理由・現在の生育状況】

今から 30 年程前に豊橋の嵩山町で、「何かかわったものはないか」と谷に入ったところ、道から少し入った岩に本種を見つけた。道から近いので「情報を公開することによって、自生地を守ろう」と考えたが、その後、姿を消してしまった。次は足助の香嵐溪の道筋の岩に 2 株を見つけ、前と同様に情報を公開し、じっくりと皆さんに観察してもらおうと試みたが、これもやはり姿を消すはめになってしまった。その頃、鳳来寺では、50m 四方に 6 株を見つけたが、容易に人が近づける場所ではないのでそのままになっている。ここ 10 年程現地を訪ねていないので、詳細はわからないが、まず大丈夫であろう。それ以来本種を見ていないし、今回岡崎市内のこんなところに自生しているとも思われなかったの、見つかったのはまったくの偶然である。タキミシダの方から声をかけてもらったような気がしてならない。本種は個体数が多くないのに、よく採取の対象にされるので、たいていの生育地で絶滅の危機に瀕している。和名は牧野富太郎が樽の滝（高知県須崎市）に観瀑に訪れた時に見つけたのでこの名をつけたという。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	絶滅危惧 I B類

【種の概要】

常緑性。根茎は短く、匍匐するか斜上、葉を叢生し、鱗片を密につける。鱗片は披針形から線形、基部が広く、尾状に伸びる先端に向けてしだいに狭くなり、長さ 7mm、幅 1mm 以下、暗褐色、格子状となり、辺縁にやや密に歯状の突起がある。葉柄はふつう長さ 8cm 以下、特に大きい葉で 10cm をこえることもあり、暗緑色から暗褐色、基部に鱗片がある。葉身は倒卵形、上から 1/5 くらいのところで幅が最大となり、先端は鈍形から鋭形、下方に向けてしだいに狭まり、基部は狭いくさび形、大きな葉で長さ 10cm、幅 6cm 前後（ただし長さ 3cm で孢子のう群をつけるものもある）、辺縁は全縁であるが、膜ができ、革質、緑色、無毛、中肋ははっきりせず、葉脈は密に網目をつくる。孢子のう群は浅い溝に埋まってつき、線形、脈に沿って網目をつくる。本州（富山県・千葉県以西）・四国・九州で、やや陰湿な林中の溪流の近くの岩上などに生じる（以上、岩槻, 1992 より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.128. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.141. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.260. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 038	シダ植物 ウラボシ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
アオネカズラ <i>Polypodium niponicum</i> Mett.		

【選定理由・現在の生育状況】

旧岡崎市内では蓬生にあった。北斜面の岩に 80cm 四方にわたって群落をなしていたが、1990 年頃より姿をみなくなりました。旧岡崎市内からは絶滅してしまいましたが、旧額田町との合併により、桜形より下流の麻生での大群落地が加わることになった。しかし、今回の調査では麻生からは一株も見つけることができなかつた。周辺を丁寧に調べたが、どこにもなかつた。鑑賞価値の高いシダゆえにしかたないと結論を下したが、別の所で偶然見つけた。今後ここにあるアオネカズラが大群落をなすことは考えられず、かろうじて生き永らえていってくれることを願うばかりである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

夏に落葉し、冬緑性、根茎は長く横走し、肉質で径 4~5mm、緑色かわずかに白っぽく、鱗片をまばらにつける。根茎の鱗片は圧着し、広卵形、鋭尖頭、長さ 1.5~2mm、格子状で、細胞壁は暗褐色。葉柄はわら色、長さ 7~15cm、ほぼ無毛。葉身は広披針形~卵状長楕円形、長さ 15~20cm、幅 5~10cm、羽状に深裂する。側裂片は 15~25 対あり、水平に開出し、披針形~線形、鈍頭~鋭頭、幅 6~10mm、全縁。葉質は厚く、やわらかい草質で、表面にまばらに、裏面にはやや密に短い開出毛があり、淡緑色。葉脈ははっきりみえず、裂片の中肋に沿って 1 列の網目をつくり、網目の中に遊離小脈を 1 本含み、他の脈は遊離する。孢子のう群は中肋近くにつき、大きい。本州（富山県と関東西部以西）・四国・九州で低山地の樹幹や岩上に着生し暖地に多い（以上、岩槻, 1992 より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.278. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.438. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.156. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 039	シダ植物 ヒメウラボシ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
オオクボシダ <i>Xiphopteris okuboi</i> (Yatabe) Copel.		

【選定理由・現在の生育状況】

北斜面の岩場で、しかも近くに川が流れている湿度の高い所に生える。シダの中でも小型のものなので偶然に見つかることが多い。岡崎で見つかったものは、上部から崩壊してきた小石の上に生育しているので、今後個体数が殖えることは考えられない。しかもシダマニアの間での採取圧も高く、いつ姿を消してしまってもおかしくない不安定な状況である。よく調査をすれば他に見つかる可能性について否定しないが、今回の調査によって初めて見つかったものであり、岡崎市の植物を語るうえで大切な植物であるだけに回りの環境を含めて保護してゆきたい。県下にも極めて個体数の少ないシダ植物である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性。根茎は短く、斜上し、数枚の葉を叢生する。鱗片は褐色、膜質でややかたく、披針形、頂端に向けてしだいに狭くなり、全縁、長さ 2mm、基部で幅 0.7mm、葉は長さ 15cm 以下のものが多い。胞子のう群は 1cm 以下である。葉柄は短く、赤褐色から暗褐色で長さ 2mm ほどの毛をやや密につける。葉身は狭披針形から線形、羽状に深裂し、鋭尖頭の頂部に向けてしだいに狭くなる。側裂片は長楕円形、鈍頭から円頭、またはやや鋭頭で、全縁、大きい裂片で長さ 3~6mm、幅 2~4mm、両面に赤褐色でかたい開出毛をつける。葉脈は外からは見にくく、単生、大きな裂片では分岐して支脈をつけることもある。胞子のう群は楕円形、羽片の基部近くに 1 個ずつ並ぶ。胞子のうは無毛。本州（関東地方以西）・四国・九州の暖地で山地の樹幹や岩上に産する。和名は植物学者の大久保三郎にちなむ（以上、岩槻、1992 より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.281. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.516.

愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.167. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 040	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 マンサク科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
マンサク <i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

春はセツブンソウ、スハマソウが地上で咲き、イヌガシ、マンサクが樹上に花を咲かせてやってくる。本種は里山に多く、しかも群落をつくるので、植物に興味や関心のない人でも気付くほどに存在感がある。そのうえ、農家にとっては季節の移ろいを知らせてくれるので、農作業の目安にもなり、豊年を祈る気持ちを込めて、「今年も豊年満作だ」という縁起かつぎの植物でもある。ところが近年その姿をすっかり見なくなってしまった。その原因は、愛知県樹木誌（小林, 2012）によれば、外国より侵入した菌類によるものという。かつて岡崎一の群落地であった竜泉寺町の後山を訪ねてみたが、径 20cm を越える大木の大半が枯れ、2~3 本がかろうじて生きていた。その後この 2~3 本も枯死してしまった。現在旧岡崎市域でその姿を見ることはできない。今回の調査中に 1 本花が咲いているマンサクを本宮山で確認しているが、極めて厳しい生育環境であり、いつ姿を消してしまってもおかしくない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

高さ 2~5m の落葉低木または高木で、大きなものは 12m になるという。若枝や葉柄には星状毛がやや密生する。葉柄は長さ 5~15mm。葉身はひし形状円形、倒卵円形または倒卵状楕円形、長さ 5~10cm、幅 3.5~7cm、6~7 本の側脈がやや平行に斜上し、波状の鋸歯があり、先は短くとがるかやや鈍く、基部はゆがんでやや心形、両面に星状毛が散生する。花は低山では 3~4 月、やや高所や北地では 5 月、葉に先だて開き、花序軸の先に 2~4 花をつける。包葉は 3 枚、広卵円形でがく片より短い。がく片は卵形で星状毛が密生し、内面は無毛で暗紫色まれに緑色、長さ約 3mm。花弁は黄色、線形で長さ 10~13mm。雄ずいはごく短い。仮雄ずいは線形。子房は短いがく筒と合着し、中位。蒴果は長さ 10~13mm、幅 8~9mm、やわらかい星状毛が密生し、基部に 4 枚のがく片が残存する。種子は長さ約 8mm。本州（関東地方西部以西）・四国・九州の山地の林内に生える（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【引用文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, pp.213-214. 小林元男, 豊川.

佐竹義輔・原 寛・互理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本 I, p.155. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.464. 新編岡崎市史編さん委員会.

北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編 II, p.133. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 041	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キキョウ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
バアソブ <i>Codonopsis ussuriensis</i> (Rupr.et Maxim.) Hemsl.		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史では岡崎東部地区において何箇所も生育地が報告されている（大原・千賀，1985）。その後の調査では、1990年に旧額田町で1回採集されただけであり、県下ではそれが最後の報告になる（愛知県環境調査センター，2009）。今回の調査においても当地区を含めて丹念に調べたが見つかることはできなかった。1990年頃までは草刈機も出はじめて、機械性能もよくなかった。しかしその後強力なチップソウという強靱刃が開発され、根本まで刈り込むことが可能になり、多くの植物が姿を消すこととなった。あわせて、土手に除草剤が頻繁に使用されるようになり、植物が一掃されるようになった。こういう環境下において、本種も生育できなくなったと考えられる。だが、今後偶然見つかる可能性については否定できない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A類
環境省	絶滅危惧 II類

【種の概要】

北海道から九州までの山地、林内にまれにはえる多年生のつる草、地下には短く大きい球状の根茎があって、一種の臭気を出す。茎は細くて軟らかく、切れば白乳液を出し、若い時は葉とともに白毛が多い。葉は大体短枝上に4葉が接して着き、ちょうど複葉のように見えることはツルニンジンに似ているが、毛のある点は異なっている。花は7～8月ごろ開き、小形で長さ2cm内外、鐘形だがやや球状になり、縁は5裂し、内面は濃い紫色である。花後蒴果を結び長さ1～1.3cm、種子には翼がなく光沢がある。和名は長野県の方言でバアは婆、ソブはソバカスである。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.511. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.111.
愛知県環境部自然環境課，名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編），1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.150. 平凡社，東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝，1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.92. 保育社，大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 042	種子植物 被子植物 単子葉 トチカガミ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
スブタ <i>Blyxa echinosperma</i> (Clarke) Hook.f.		

【選定理由・現在の生育状況】

岡崎では山あいの休耕田に見られる。ここは1年中水が自由に入り、ちょっと深めのところに生育している。時にはイノシシが攪乱するが生育地には入り込まない。数年間は安定して生育を確認していたが、最近では生育を確認できない年もある。1年草であるので、不安定な状態が続いている。市内の生育地は現在ここ1ヶ所のみであり、他では見るができない。水の流れによって、種子が他のところへも運ばれているのだが、そこには生育がみられない。比較的安定した環境にありながら生育に変化が見られる。原因がはっきりつかめないため、保全は極めて難しい。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II類
環境省	絶滅危惧 II類

【種の概要】

水田や溝にはえる1年草。葉は根生して株をつくる。株もとから多数のひげ根を出す。葉は線形で紫褐色を帯び、長さ10～30cm、幅5～8mm、先はしだいに細くなり、縁に細かい鋸歯がある。8～10月に開花し、両性花をつける。苞鞘の柄は開花時に3～4cm、花後はさらに伸び、18cmにもなるものもある。苞鞘は円筒形で長さ4～5cm、先端は2裂する。子房は苞鞘内にあり、がく筒が細長く伸び水面に達する。がく裂片は3個。花弁は3個で細長く、長さ約13mm、白色。雄ずいは3個。花柱も3個ある。子房は花後に伸び長さ約10cm。間壁はなく1室で種子は側壁につく。種子は尾状突起の部分を除くと楕円形で長さ約1.5mm、表面に細かい突起が散在し、両端には長さ14mmにもなる尾状突起がある。本州～琉球、東アジア・東南アジア・オーストラリアに分布する（以上、佐竹ほか，1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.4. 平凡社，東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.524. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.431.
愛知県環境部自然環境課，名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課（編），2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物Ⅰ（維管束植物），p.560. 財団法人自然環境研究センター，東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫，1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.395. 保育社，大阪.
角野康郎，1994. 日本水草図鑑, p.24. 文一総合出版，東京.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 043	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
キスゲ <i>Hemerocallis citrina Baroni. var. vespertna</i> (Hara) M.Hotta		

【 選定理由・現在の生育状況 】

かつては岡崎少年の家近くの男川の川添いに群落をなしていたが、造成されたために姿を消してしまった。株は根がしっかりと生えているために、他の植物の進入を許さず、背丈もあるために、山野においては遅しい。しかし、樹木が伸びて上におおいかぶさると負けてしまう。この植物は山里に多く、美しい花のために、草刈りをする人は意識的に残すようにしてきた。しかし、昨今山の田畑は荒れ、樹木が進入したり、草払い機を使って一斉に刈り込んでしまうなど荒っぽい作業によって、消滅してしまった。現在確認できるのは1ヶ所のみで、それも不安定な要素を多分に持っている。ユウスゲともいう。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の草原、林縁などのやや乾いた所にはえる多年草。根に紡錘状のふくらみがない。葉は線形、長さ40~60cm、幅5~15mm。花茎は高さ100~150cm。花は7~9月に開き、花序が分枝し、つぎつぎに咲き続ける。花は夕刻に開き、翌日午前中に閉じる。花被はレモン黄色で、やや芳香がある。花被片の長さや幅は個体によりいろいろである。花被片の長さ6.5~7.5cm。花筒は長さ2.5~3cm。雄ずいは花被片より短く、葯は黒紫色。花柱は雄ずいよりやや長い。蒴果は広楕円形で長さ約20mm、先がへこむ。種子は卵形、黒色でつやがあり、長さ5mm内外。本州・四国・九州に分布する(以上、佐竹ほか, 1982より)。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.30. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.548. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.140. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 044	種子植物 被子植物 単子葉 カヤツリグサ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
ケシソウ <i>Scleria rugosa</i> R.Br.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

新編岡崎市史によれば、過去には旧市内だけでも、戸崎、上地、若松、美合、池金、岡と多くの湿地に見られた(大原・千賀, 1985)が、その後池金町の北山湿地に見られるのみとなった。湿地の開発、環境の改変が原因である。その北山湿地でも、A 湿地の1区画に生育が限られて見られたが、生育量が不安定で差があり、近年見られないことがある。保護活動においても、このような地味な植物は、どうしても保護の対象からはずれやすい。改めて絶滅危惧という面から見直したい植物である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

全体にやや小さく高さ10~30cm、やわらかく、白色開出毛がある。葉鞘は翼がなく、分花序の柄は湾曲する。果は球状で径1.5mm、不完全な格子紋と光沢があつて下向きにざらつき、葉は幅5~8mm、鞘は広い3翼がある。分花序は少数個つき、長さ4~8cmになり、円錐状である。本州(千葉県以西)~琉球の湿地にややまれにはえ、台湾・朝鮮・マレーシア・インド・オーストラリアにも分布する(佐竹ほか, 1982)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.543. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.169. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.255. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 045	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
カンラン <i>Cymbidium kanran</i> Makino		

【 選定理由・現在の生育状況 】

カンランのブームが1980年頃にあり、岡崎でも本種を探し求めて山野に入る人が多かった。その一人が市内某所で本種をみつけた。筆者はそれから5~6年して現地に入ったが、当然見つけることはできなかった。ブームも去って昨今はあまり話題にならなくなってしまった。そんな折り、本種の幼苗と思われる個体の発見報告があり、現在は観察中である。このように、ラン科のものは、種子が何年も経ってから発芽することがあるので、そう簡単に絶滅と言えないところがある。レッドデータブックあいち 2009 植物編では絶滅とされている(愛知県環境調査センター,2009)。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	絶滅危惧 I B類

【 種の概要 】

常緑広葉樹林下にはえる。葉は束生し、広線形で葉質。多少外曲し、長さ20~70cm、幅6~17mm、鋭尖頭。花茎は直立して高さ25~60cm、鞘状葉をまばらにつける。花序は12月~1月頃、緑色で紫色を帯びる5~10花をまばらにつける。苞は膜質で線形、長さ8~30mm、鋭尖頭。がく片は広線形で長さ3~4cm、幅3.5~4.5mm、鋭尖頭。側花弁はがく片よりやや短く、披針状線形。唇弁は舌状で肉質、がく片より短く淡黄色で紫紅色の斑紋があり、中央に2本のうねがある。ずい柱は湾曲し、長さ8mm。葯はやや角ばった半球形。花粉塊は2個で淡黄色。本州(東海地方以西)~琉球、台湾に分布する。和名は寒蘭で、冬に咲くためである(以上、佐竹ほか,1982より)。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編),2009.愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-,p.77.
愛知県環境部自然環境課,名古屋.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編),1982.日本の野生植物 草本I 単子葉類,p.229.平凡社,東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之,1985.岡崎市高等植物目録.新編岡崎市史 自然 14,p.553.新編岡崎市史編さん委員会.
環境庁自然保護局野生生物課(編),2000.改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8 植物I(維管束植物),p.232.財団法人自然環境研究センター,東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫,1964.原色日本植物図鑑 草本編III,p.65.保育社,大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 046	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
サワラン <i>Eleorchis japonica</i> (A.Gray) F.Maekawa		

【 選定理由・現在の生育状況 】

新編岡崎市史によれば、池金と生平に自生地ありとされている(大原・千賀,1985)が、それ以外にも高隆寺と丸山にもあったと言う。ただ大きな群落をなす植物でなく、もともとの個体数が少ないうえに、別名「アサヒラン」と称されるように、鑑賞価値が高いため、またたく間に乱獲されてしまった。幸い難をまぬがれた数株が現在ほそぼそと生きているが、繁殖力は弱く、現状を維持してゆくのが精一杯というところである。こういうことを考えても、庭で栽培することは全くもってナンセンスと言わざるをえない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

湿地のミズゴケとともに生える。花茎は高さ20~30cm。葉は直立して長さ6~15cm、幅4~8mm、漸尖頭。苞は三角形、長さ2~3mm。花は紅紫色で、横を向いて咲く。がく片および側花弁は倒披針形で鋭頭、長さ2~2.5cm。唇弁は先端が3裂し、中裂片に縦の隆起線がある。ずい柱は長さ2cm。花粉塊は4個。本州中部以北・北海道・南千島に分布する(以上、佐竹ほか,1982より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之,1985.岡崎市高等植物目録.新編岡崎市史 自然 14,p.553.新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編),1982.日本の野生植物 草本I 単子葉類,p.220.平凡社,東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編),2009.愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-,p.133.
愛知県環境部自然環境課,名古屋.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫,1964.原色日本植物図鑑 草本編III,p.47.保育社,大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 047	シダ植物 オシダ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
ミドリカナワラビ <i>Arachniodes nipponica</i> (Rosenst.) Ohwi		

【 選定理由・現在の生育状況 】

今回の調査で旧額田町地区において生育が再確認されたシダである。葉につやのある美しいシダである。もともと生育場所、生育個体数が少ない植物であるので、これまでどのように推移してきたかはっきり分からないが、年を追ってしだいに減少してきたと思われる。岡崎の希少シダとして大切にしたいものである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は横走し、やや肉質、密に鱗片をつける。鱗片は卵状長楕円形で鋭尖頭、赤褐色、全縁、長さ 4~10mm。葉柄は長さ 20~45cm、下部はふつう紅紫色をおびて鱗片を密につけ、落ちたあとが点状になって残る。葉身は 3 回羽状深裂~複生し、長卵形、長く鋭尖頭、長さ 40~60cm、幅 25~35cm、やわらかい厚紙質、鮮緑色で光沢がある。羽片は 5~8 対のものが顕著で有柄、それより上ではごく小さくなる。小羽片は長楕円形、鋭尖頭、短い柄があり、長さ 4~5cm、幅 1.5~2cm、羽状に深裂~全裂する。裂片は楕円形、鋭頭、辺縁に先端が芒状になる鋭い鋸歯がある。葉脈に細い鱗片がつき、葉の裏面脈上に圧着された多細胞毛がつく。胞子のう群は葉脈に頂生して裂片の中助と辺縁の中間につき、包膜は辺縁に微小な突起がある。本州（神奈川県西部以西の暖地）・四国・九州で山地の林下の陰湿な地上にややまれに生じ、中国・ビルマ・インドにも記録されている（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, pp.178-179. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.87. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 048	シダ植物 オシダ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
ヒメカナワラビ (キヨスミシダ) <i>Polystichum tsus-simense</i> (Hook.) J.Sm.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

シダ植物は一般の人々にとっては雑草であり、保護すべきものがあるなどとはあまり考えない。せいぜい注目を浴びたとしても、葉の形、色あい、大きさ等にとどまってしまう。家に帰って植物図鑑で調べる人はまず考えられない。しかし、一時の関心によって何の罪悪感もなく、植物をもぎとってしまうことは問題である。そのような行為によって、本種のような植物の数少ない自生地が何時失われてしまうかわからない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は短く、斜上し、鱗片がある。葉柄は葉身とほぼ等長、長さ 60cm に達し、鱗片をまばらにつける。葉柄基部の鱗片は広披針形~披針形、褐色で中心部が黒くなることがあり、大きいものは長さ 1cm、辺縁には毛状突起がある。葉柄の中部より上の鱗片は線状披針形~線形、黒褐色から黒色。葉身は 2 回羽状複生、披針形。羽片は線状披針形、短い柄があり、基部は前側に耳状突起があり、後ろ側はくさび形、基部がもっとも幅広く、鋭尖頭の先端に向けてしだいに狭くなる。小羽片は先端が刺状、辺縁は全縁か浅裂する。葉質は硬紙質からやや草質。胞子のう群は葉身の下部中軸寄りから外に向けてつきはじめ、小羽片の中助にやや近くつき、包膜は全縁から波状縁、中心部が濃い褐色となる。本州（福島県南端と関東地方以西）・四国・九州の山地に生育し、朝鮮・中国・インドシナ・台湾に分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.171. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.436. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.80. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 049	シダ植物 ウラボシ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
クリハラン <i>Neocheiropteris ensata</i> (Thunb.) Ching		

【選定理由・現在の生育状況】

岡崎市内で唯一の自生地において、道路工事の機械搬入路として一部が利用されたために、回りの木々が伐採されてしまい明るくなりすぎた。また、工事により汚水が流れ込み、植物を痛めつけてしまった。もし工事がなければ安定した状態で生育できたものと思われる。今後は工事の影響がいつまで及び、どのような変化をとげてゆくか見守り続ける必要がある。一部は少年自然の家に移植したが、全部が活着したわけではない。最低でも3~4年は継続観察が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性。根茎は長く、横走し、径3~5mm、鱗片をつける。鱗片は卵形から卵状披針形、鋭尖頭、膜質で淡褐色、辺縁に不規則な突起があり、長さ2~6mm。葉柄は長さ10~30cm。基部に鱗片がある。葉身は単葉、広披針形、長さ25~40cm、幅4~7cm。ふつう中央がもっとも幅広く、鋭尖頭、基部はくさび形、ほぼ全縁で紙質、両面に圧着する小型の鱗片がつく。中肋は両面とも隆起し、主側脈は両面ともにはっきりみえる。20~30対が7~15mmの間隔で並ぶ。葉脈は複雑な網状。胞子のう群は中肋の両側に2~4列にやや不規則に並び、円形から楕円形、径3~5mm、若い時には楕状で小形の鱗片がある。関東地方以西、九州にいたる各地と沖縄本島で山林中の地上やまれに湿った岩上に生じ、群生することが多い。朝鮮の済州島と台湾の高山、中国からインドシナにかけての地域に分布する。和名は栗葉蘭で、主側脈のはっきりした葉をクリの葉になぞらえたもの（以上、岩槻, 1992より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.268. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.438. 新編岡崎市史編さん委員会.
 田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.159. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 050	シダ植物 デンジソウ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
デンジソウ <i>Marsilea quadrifolia</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

本種の自生地は市内で2ヶ所のみである。共に生育環境は酷似しているのは、こういうところでしか生き残れなかったということである。農業用の水路が整備されずに、冬でも適度のしめりを持ったところである。夏場には2~3回草刈りがなされてしまうが、すぐに葉を出し、逞しく生きている。岡崎市の場合はいずれもシロツメクサと一部は混生しているので、目立ちにくい。しかし、最近では、この葉が四ツ葉のクローバーと似ているために、園芸用植物として販売されているので、採取されてしまうかもしれない。稲熊にあったものを、蓬生町に移植したが、田んぼ一面をおおうほどに繁殖力は旺盛である。これがシダ植物であることは意外に知られていない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B 類
環境省	絶滅危惧 II 類

【種の概要】

夏緑性の水生シダ。根茎は細く、長く横走して不規則に分岐し、やや接して葉をつけ、淡褐色の圧着した毛がある。葉柄は長さ10~15cm、無毛、緑色、基部は暗色。小葉は4枚が四ツ葉のクローバーのように田の字形に並び（田字草の名はこれによる）。倒三角形、上端はゆるやかな円形でほぼ全縁、両側面は直線に近く、広いくさび形、長さ幅とも1~2cm、無毛。胞子のう果は有柄で、葉柄の基部より少し上から出る短い枝に1~3個つき、楕円形、長さ4~5mm、密に軟毛があるが、毛は早落性。北海道・本州・四国・九州と奄美大島の低地で水田や池沼などの泥に根を下ろしてしばしば群生する。ヨーロッパ・インド北部から東アジアに分布する（以上、岩槻, 1992より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.283. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.439. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.157.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.429. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.170. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.12. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 051	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 キンポウゲ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
カザグルマ <i>Clematis patens</i> Morr.et Decne.		

【選定理由・現在の生育状況】

花を咲かせるようなカザグルマは年々みかけなくなった。大輪の花ゆえに人目にふれやすく、美しいので採取されてしまうためかもしれない。湿地のような水分を多く含むところを好み、他の木にからみついている場合が多いので、木の成長に負けてしまって枯れてしまうこともある。笹や竹と共生しているのが良いと思うのだが、水分の多さのために笹や竹の進入が進まず、スギが入り込んでくることが多く、被陰により花をつけなくなってしまう。スギなどの下には幼苗がいくつも確認できるが、生きているのが精一杯といったところである。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II 類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

主として林縁にはえる落葉性のつる草で、茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉、小葉は 3~5 枚、卵形で先はとがり、ときに 3 裂するが鋸歯はない。今年伸びた枝に 1~3 対の葉をつけ 1 個の花を頂生する。花期は 5~6 月。花は上向きに完全に開き、径 7~12cm。がくは 8 枚で、淡紫色または白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急にとがる。花糸は扁平で無毛。そう果は広卵形、長さ 5mm、花柱は 3~4cm で強く曲がり、黄褐色の長毛がある。本州・四国・九州北部、朝鮮・中国（東北の南部）に分布する。湿り気の多い所を好み、湿地にもはえる一方、蛇紋岩地帯にも見かける（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類, p.73. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.456. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.351.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.447. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II, p.226. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 052	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
タコノアシ <i>Penthorum chinense</i> Pursh		

【選定理由・現在の生育状況】

本種はここ何年も見つかっていなかったが、近頃また見つかった植物である。多くは川の中州や河川敷に生育するが、大雨により流されてしまうなど、その生育環境には極めて不安定な要素が多い。これまでも矢作川の上流には見つかっているの、その種子がここに流れついて発芽したと考えるのがよいかもしれない。岡崎では不安定な生育をしているので、出現したり、しなかったりすることが多い。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

泥湿地・沼・水田・川原などで、水位の変動する場所に多い。茎の基部は地中であってやや肥厚し、分枝して、高さ 30~80cm、無毛でふつう淡紅色を帯びる。葉は狭披針形~披針形または狭楕円形、草質で、長さ 6~11cm、幅 5~12mm となり、縁には細鋸歯があり、ほとんど無柄で、両端は長い鋭尖形となり、斜開するか平開する。花期は 8~10 月。花序の枝は、はじめ先端が渦巻状に外向きに巻いているが、のちに伸長して斜上し、長さ 4~12cm になり、ごく短い褐色のあらい毛がまばらにはえる。花は径 4~5mm、ふつう花弁がなく、全体が黄緑色なのであまり目立たない。本州~奄美大島、東アジアに広く分布する。和名は花序の枝に多数の花が並び、タコの吸盤のついた足のように見えることに由来する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類, p.155. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.462. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.542.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.473. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II, p.158. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 053	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
ナメラダイモンジソウ <i>Saxifraga fortunei</i> Hook.f. var. <i>suwoensis</i> Nakai		

【 選定理由・現在の生育状況 】

額田の植物に記載されていたが、生育場所がわからず苦勞をした。最初に見つけたダイモンジソウは、小林元男氏によれば、ナメラダイモンジソウに似ているので仮称ニセナメラダイモンジソウであるようだ。その後も調査を続けた結果、木下町の乙川の岩場で見つけたダイモンジソウは、ナメラダイモンジソウと断定してもよいでしょうと芹沢俊介氏からのご判断をいただいた。どうやら岡崎市のナメラダイモンジソウは典型的なものは少なく、他のダイモンジソウと境界を接するものが多く、線引きが難しいと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

岩上にはえる。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 5~20cm。葉身は腎円形で、長さ 3~15cm、幅 4~20cm、基部は心形またはくさび形、掌状に 5~7 中裂し、裂片はふつう倒卵形。花期は 7~10 月。花茎は高さ 5~40cm。苞は披針形。がく裂片は斜閉し、卵形~卵状楕円形、長さ 2~3mm、花弁は花時に平開し、白色まれに淡紅色。上側の 3 弁は楕円形で、長さ 3~4mm、基部に短い爪がある。下側の 2 弁は線状楕円形、長さ 4~15mm。雄ずいは 10 個で長さ 3~4mm。花柱は花時には長さ約 1mm。本州（中部地方以西）・九州に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.172. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.544. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.155. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 054	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 カタバミ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
ミヤマカタバミ <i>Oxalis griffithii</i> Edgew. et Hook.f.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

本種は管理された施設の中に生育しているので、盗掘などによる消滅は考えにくい。しかし、施設ゆへの危険性もある。外部の人からの一言によって安易に刈り込みが行なわれたり、造成がなされたりするおそれがある。また、作業員の方に指示が徹底されていないなど、ちょっとしたことで失われてしまうおそれもある。この生育地はスギ林の笹の中にあるが、1 区画の中に集中している。もし散在しているのであれば危険の回避も可能なのだと思う。生育状況は良好で、株数も 20 を越えているが、他区画まで生育地が広がってゆくことは考えられない。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地のスギ林やブナ林などにはえる多年草。根茎は太く、密に古い葉柄の基部に被われ、分枝しない。葉柄、花茎、葉の裏面に密に軟毛がある。小葉は倒心形で、幅 2.5~4cm、かどは鈍端である。花期は 3~4 月。花は径 3~4cm で、コミヤマカタバミより大きい。蒴果は楕円形、長さ 10~17mm。本州（東北地方南部から中国地方）および四国に産し、中国・ヒマラヤに分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.216. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.551. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.86. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 055	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 アワブキ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ミヤマハハソ <i>Meliosma tenuis</i> Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

県北部には個体数は少ないが全体に分布している。岡崎市はその南端に位置するので、個体数は北部に比べて更に少ない。花も木も利用価値がないので、人々の関心は払われない。それがかえってこの植物の保護の難しさでもある。生育場所も杣道や谷川添いに生育することが多く、通行の邪魔になるとして、刈り払われることが多い。今回これを取り上げたのは林業に関わる人々が下草刈りと称して、すべての植物を刈り払ってしまう作業について警告を発すると共に、木材の切り出しについても同様の注意を払っていただきたいからである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

落葉小高木。高さ 3m になる。枝は細く、暗紫色をおび、若い時には毛が散生する。冬芽は卵形で褐色の毛が密生する。葉は単葉で互生し、長さ 1~1.5cm の柄があり、葉身は倒卵状楕円形、先は鋭尖形で尾状となり、基部はくさび形、長さ 5~12cm、幅 2.5~4cm、膜質、縁には三角状あるいはやや波状の低い鋸歯がまばらにあり、表面にはごくまばらに多細胞の毛を生じ、裏面は毛を散生するが、特に脈腋には褐色の毛を密生し、羽状に 7~14 対の側脈をだす。花期は 5~7 月。花序は狭三角形で、點頭する。花は淡黄色をおび、径 4mm ほどで、長さ 1~3mm の小花柄がある。花弁は 5 個あり、不同で、うち 3 個が大きく、広卵形で、長さ 2.5mm くらいになり、2 個は小さく鱗片状である。本州・四国・九州に産し、山麓から山地にかけての疎林や落葉広葉樹林に生え、中国にも分布する。ハハソとはコナラのこと。深山にも生えるのでこの名がある（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）、1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.25. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.280. 保育社, 大阪.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.367. 小林元男, 豊川.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 056	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 モチノキ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ナナミノキ <i>Ilex chinensis</i> Sims.		

【選定理由・現在の生育状況】

才栗町白髭神社境内に接した民有地に 1 本のみ生育する。西側の道路端からは 6m の位置である。周囲はマダケ林でアラカシやモチノキが混生している。幹周は 48cm あり、幹の上部と、道路側に張り出す形で枝葉がついていた。近年、道路側に張り出した枝葉は、道路管理の都合上、マダケとともに切り詰められた。横枝がなく、幹の上部だけに枝葉があるのは、マダケの繁茂とともに日照面で不安がある。

本種は県内のどの場所でも 1 本だけか、せいぜい数本あるだけである（愛知県環境調査センター、2009）。林辺や藪などのものは、不要な樹木として伐採されることもある。本種が、県内で稀少な樹木であることを認識したい。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性の小高木。高さ 6~10m になる。葉は互生し、長さ 1cm 前後の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 6~11cm、幅 2.5~3.5cm、先は細くとがり、基部は鋭形、辺縁にはあらい鋸歯があり、薄い革質で両面無毛である。花期は 6 月、新枝の葉腋に集散花序をつけ、雌雄異株、雄花は多数、雌花は少数つき、淡紫色である。果実は広楕円形で長さ約 1cm、赤く熟す。本州（静岡県以西）、四国、九州、中国大陸に分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）、2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.384. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.372. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）、1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.28. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.273. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 057	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 セリ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ハナビゼリ <i>Angelica inaequalis</i> Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

植物の持ち出しが禁止されているところに自生しているので、盗掘による心配はない。しかし、川添いに生育しているので、近年のような集中豪雨が何回も繰り返されると、根こそぎ流されてしまう。また、谷ぞいの崩壊も多く、土石流となって流れ込むこともあり、今後、川添いの植物相が変化してしまうおそれがある。また、道路の拡張や整備の工事も行なわれており、いつ、何時姿を消してしまうかわからない。この植物の特徴としては、花柄や小花柄が不同長であることが挙げられる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地にはえる多年草。茎は直立し、少数の枝をわけ、高さ 60~100cm になる。葉は 2~3 回 3 出羽状複葉で、葉柄の下部または全部が長い鞘状をなし、小葉は長卵形~広卵形、表面は深緑色、裏面は淡色で多少あらい鋸歯がある。花は 8~9 月に開き、花序にはまばらな花柄があり、総苞片は少なく、小総苞片は 4~6 個で、細長い。がく歯片は明らかか、または目立たない。花弁は白色。果実は広楕円形で、非常に広くて薄い側翼があり、分果の背隆条は脈状、油管は各背溝下に 3 個、合生面に 4~8 個ある。本州（関東以西）~九州に分布する（以上、佐竹ほか, 1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.288. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.26. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 058	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 イチャクソウ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ギンリョウソウモドキ (アキノギンリョウソウ) <i>Monotropa uniflora</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

かつては岡崎市内の山間部のいたるところに見られた。薄暗い林床を好むので、これを見た人は、不気味な雰囲気近くをためらう。昔の人も同様であって、これを幽霊花と呼んだのもうなずける。しかし、その一線を越えて近づき、よく観察すれば、花柱や葯には色がついていて、かわいさも感じていただけだと思う。現在確実に生育しているのは 1ヶ所のみである。しかし、ここも近年急激にあやしくなってしまった。その原因は清掃がよくされ、落ち葉をきれいに拾い集めてしまったことによる。この植物は、多くの他の植物と違って、人手が入らない山が好きなのだ。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

林中のやや暗い所にはえる。全体に白色で、高さ 10~30cm。鱗片葉は卵状長楕円形で、先に不規則な歯牙がある。8~9 月、茎の先に 1 個の花をつける。がく片は 3~5 枚、卵状楕円形または披針状長楕円形で、上部の縁に不規則な歯牙がある。花弁は 3~5 枚、長楕円形で長さ 1.5~2cm、先が広がり、その縁に不規則な歯牙がある。がく片、花弁とも内面に軟毛がはえ、外面には密着した短毛が密生する。葯は平行する 2 室からなり、横に裂け目ができて花粉を散らす。花柱は太くて短く、長さは 2~3mm、上端は広がって柱頭となり、黄褐色。萼片、花弁とも果期にはほぼ脱落する。蒴果は上向きにつき、球形または球状楕円形で長さ 1~1.5cm。本州~九州に産し、東アジア・北アメリカの温帯に広く分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.6. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.490. 新編岡崎市史編さん委員会.

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.235. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 059	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ハイノキ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
シロバイ <i>Symplocos lancifolia</i> Sieb. et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

県下で岡崎市のみに自生する。かなり早くから知られていたようで地域の教材として取り上げられていた。現在は数十本が観察できる。シイの木の下になっているため大木にはいたっていないが、樹勢はよい。人が自由に入出りできる場所ではないので、今後ともこの状態が続くものと思われる。この樹木の分布域は近畿以西であり、ここに自生していることは特筆すべきことである。山の南斜面の谷添いであるので、冬の寒さから守られているのかもしれない。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	リスト外

【種の概要】

やや乾いた山地に生える常緑の小高木。小枝は細く、暗灰褐色、密に淡褐色の毛があり、若枝には斜上毛がある。葉は披針形～卵状披針形で両端がとがり、長さ 4～6cm、幅 1.5～2cm、縁にはごく低い鋸歯があり、中肋には細毛がある。葉柄は長さ 2～4mm。花序は上部の葉腋にでて、長さ 1～3cm、軸には淡褐色の毛がある。花は無柄、白色で 8～10 月ごろに開き、花序の基部からつく。苞、小苞は宿存してがくとほぼ同長、背面は右毛。花冠は 5 裂して平開し、径約 6mm。雄ずいは多数で、花冠裂片より長く突きでる。果実は倒卵状球形、長さ 5～6mm、黒熟する。本州（近畿地方以西）・四国・九州、台湾・中国大陸南部に分布する（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編），1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.173. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.216. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.515. 小林元男, 豊川.
 北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.97. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 060	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ミズトラノオ <i>Eusteralis yatabeana</i> (Makino) Murata		

【選定理由・現在の生育状況】

道路工事により耕作されなくなった休耕田で大群落が見つかった。この植物は地下のランナーによって増えるので、環境が良ければ、あっという間に田全体を覆いつくしてしまう。ただ、移植すると、適・不適があり、思うように増えない。その後、もう一箇所群落地が見つかった。やはり、そこも休耕田の中であり、群落をなしているの、比較的安定した状態で推移している。ただ、休耕田というのは暫定的なものであって、いつ耕作されてしまうかわからないので、将来的なことは見通せない。そして、移植したところでは、鹿の食害にあっている。旧額田町では、この花を町民に広く知らしめていた。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

低湿地にはえる多年草。茎は横にはう地下茎から立ち上がって、高さ 30～50cm になり、やわらかく、3～4 個ずつ葉を輪生する。葉は線形～広線形で、長さ 3～7cm、幅 2～5mm、先は鈍く全縁でやわらかく、柄がほとんどない。8～10 月、茎頂に、長さ 2～8cm の花穂を 1 個立てて、密に花をつける。花は淡紅色で、雄ずいを含めると長さ 7～8mm。がくは長さ約 2.5mm、5 裂し、苞とともに軟毛がある。分果は暗褐色で、長さ約 0.7mm。本州～九州、朝鮮に分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編），1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.83. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.499. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.410. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課（編），2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物Ⅰ（維管束植物）, p.522. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.172. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 061	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
マネキグサ <i>Lamium ambiguum</i> (Makino) Ohwi		

【 選定理由・現在の生育状況 】

愛知県では三河の山間部から豊橋にかけて分布している。岡崎はその端にあたるので、大群落をなすことはないが、比較的まとまっている。今後も人為的な環境変化は少ないと思われるが、鹿による食害が報告されている。この岡崎にも、稲作地帯に鹿が出没し、対策に苦慮している。農作物被害への対策が進むことによって、鹿が本種のような野生植物をさらに食す可能性もあり、今後増えることは考えられず、下手をすると姿を消してしまうことも考えておかななくてはならない。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【 種の概要 】

山の木陰にはえる多年草。細い地下茎があり、茎は直立し、4角で高さ40~70cm。中部でしばしば分枝する。葉はまばらにつき、下部のものは心形、中部のものは3角状広卵形、またはやや円形、上部のものは卵形となり、長さ3~7cm、幅2~6.5cm、薄く、あらくて大きな鋸歯があつて、先は鈍く、基部は広くさび形~切形で1~3cmの葉柄がある。花は葉腋に1~3個ずつつき、暗紅紫色で長さ18~20mm。がくは5脈があり、上側で長さ約8mm、やや斜めになって短い5歯があり、下側の2個は中部以上まで合着している。花冠は下唇は3裂して開出し、長さは7~8mmある。花期は8~9月。分果は2.5~3mm、倒卵状のくさび形で腺点がある。本州(神奈川県以西)~九州に分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.91. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.634. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8植物I(維管束植物), p.523. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編I, p.190. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 062	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ゴマノハグサ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
オオアブノメ <i>Gratiola japonica</i> Miq.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

新編岡崎市史には、渡、天白、美合等に生育するとされている(大原・千賀, 1985)ことから、各地に生育地があったものと思われる。かつては水田に多く生育し、世代交代がスムーズに行なわれていたが、第一の減少原因は除草剤によるものと思われる。加えて、農耕様式の変化により耕起時期と開花・結実期が重なるようになった。今では人手の入り込まない湿地の周辺か、ため池の岸でしか見ることができない。そして生育地が継続して安定的に観察できないのも、この植物の特徴である。まさに、日本の昔ながらの農作業の中で生き続けてきた植物である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧 II類

【 種の概要 】

湿地にはえる1年草。茎は直立して高さ10~20cm、肉質で柔らかい。葉は対生しやや肉質、披針状楕円形で柄がなく先はとがり、縁には鋸歯がなく、長さ1~3cm、幅2.5~7mm。5~6月、葉腋ごとに1花をつける。がくは5裂し、裂片は披針形。花冠は白色、筒形で長さ4~5mm。多くは花冠が開かず、閉鎖花である。蒴果は球形で長さ3~4mm。本州(宮城県以南)・九州、朝鮮・中国(本土・東北)・ウスリーに分布する。名は全体がアブノメに似て大きいのでいう(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.503. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.102. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.578. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8植物I(維管束植物), p.526. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編I, p.147. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 063	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 マツムシソウ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
マツムシソウ <i>Scabiosa japonica</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

旧岡崎市内に2ヶ所の大群生地があったが、割りと急激に数を減らし、現在では全く見るができなくなりました。ともに尾根地の日当りのよいところであった。鑑賞価値もあるので、人々の目にも止まりやすく、採取されたことも考えられる。また、山が人々にとって忘れられていき、尾根道が荒れてしまったことも考えられる。しかし、旧額田町と合併したことにより、新たな自生地が見つかった。公共の施設内なのでよい管理がなされるものと思っていたら、ちょっとした連絡ミスにより刈られてしまったことがあった。こういう危険性は、どんな植物にも言えることである。幸いにも復活した。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

山野の草原にある越年草。高さ60~90cm、根は垂直に地中に入る。葉は対生し、有毛。下部や中部の葉は羽裂し、裂片はさらにわかれて、終裂片は鈍頭である。花は8~10月に咲き、長柄の先に頭花をつける。頭花は径4cm位、上向きに咲く。総苞片は2列で線形。縁の小花は5裂し、外側の裂片は大きく伸びる。中心部の小花は筒状で等しく5裂する。雄ずいは4本で、花筒の中部につく。花床は球形で、広線形、鈍頭の鱗片がある。がく裂片は5個、針状で長さ5mm。小総苞は果時に長さ4mmとなり、8肋があって、上部1mmはコップ状で膜質。肋上に密毛がある。北海道~九州に分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.148. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.510. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.583.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.100. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 064	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
イズハハコ <i>Conyza japonica</i> (Thunb.) Less.		

【選定理由・現在の生育状況】

本種は土の上に生育するのではなく、岩の割れ目に根を伸ばす。岡崎市の生育地は主要道路の崖であり、もし生活上の必要性から道路の拡張工事が行われれば移植は困難であるし、この植物の地味さから道路管理者の目に止まることもないと考えられる。現在は、数が増えることもなく、減ることもないという現状維持であるが、先程も述べたように適応地が極めて限られているので、一瞬にして失われてしまう可能性が大である。県内の他産地においても、群落をなすようなところはなく、岡崎と同程度である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧 II類

【種の概要】

日当りのよい崖にはえる1~越年草。全体に灰白色の軟毛が多い。茎は高さ25~55cm。葉は下部にややロゼット状に集まり、長楕円形で円頭、基部は有翼の葉柄となり、鈍鋸歯または歯牙があり、長さ5~13cm、幅1.2~4cm、両面に軟毛がある。中部の葉は倒披針状長楕円形、長さ5~10cm、鈍頭、基部は茎を抱く。花は4~6月。頭花は茎の先に密に集まり、総苞は長さ約5.5mm。花冠は細い。そう果は扁平、長さ1mmで、まばらに毛がある。冠毛は長さ4.5mm、汚白色または赤褐色を帯び、密にあって綿のようである。暖帯~熱帯に生育し、本州(関東地方以西)の海岸から四国・九州・琉球、中国・マレーシア・インド・アフガニスタンに分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.188. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.516. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.587.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.548. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.77. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 065	種子植物 被子植物 単子葉 イネ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ウンヌケ <i>Eularia speciosa</i> (Debeaux) O.Kuntze		

【 選定理由・現在の生育状況 】

東海地方のやせ山の木々の伸びの悪い草地には、どこにでも見られる植物であったが、岡崎にあつては、そのような台地が宅地造成地として利用されてことごとく姿を消してしまった。知多半島でも一時期絶滅してしまつたという報告がなされたが、その後、相羽福松氏によって見つけられた。岡崎でも同様の事態であり、絶滅種として評価しようという折りに、千賀敏之氏によって岡崎東部で確認された。山と田の境界地に生育している 10 株ほどであり、近年草刈りが行なわれた様子は見られないが、周囲の森林の樹勢が増してきたときに、どのような生育環境の変化が起こるかはわからない。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧 II 類

【 種の概要 】

高さ 1m 内外のややカリヤスに似た多年草。茎の基部は黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれるのでやや太く見える。葉は線形で、基部を除きほとんど毛がなく、花序に総は数個ついて直立し、長さ 12~15cm、密に毛があつて帯黄褐紫色。小穂は披針形で長さ約 5mm。第 4 穎には長さ約 2cm の芒がある。花は 9~10 月。本州（中京付近）・九州の草地にはえ、中国、インドに分布する。和名は牛の毛の意で、中京方面の方言という（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.93. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.534. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.606.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.580. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編 III, p.381. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 066	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
ギンラン <i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume		

【 選定理由・現在の生育状況 】

新編岡崎市史（大原・千賀，1985）に掲載されている場所では現在生育が確認できていない。新たに見つかった自生地のみである。本種は背丈が低いため、毎年落ち葉が溜まり続けると、ついには新芽が圧迫されてしまう。被陰に対しては比較的強い方であるが、放置され続けた山では、日照不足による枯死も生じる。このように、我々の生活が山に寄りかかっていた時代には、この植物は人間と共存できたのであるが、エネルギーが石油に移っていったのと、木材の需要が低迷したこと、そして、山に入って、きのこを採ることがなくなったことなど、いくつもの要因が重なって本種の生育環境が悪化してきている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

茎は直立し、高さ 10~30cm、無毛。葉は 3~6 個で、互生し、狭長楕円形、長さ 3~8cm、幅 1~3cm、鋭尖頭、無毛で、基部は茎を抱く。5~6 月、白色の数花をつける。苞は狭三角形、長さ 1~3mm、下位の 1~2 個は長くなる。がく片は披針形、先端はややとがり、長さ 7~9mm。側花弁は広披針形、鈍頭、がく片よりすこし短い。唇弁は基部が短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は 3 角形、中裂片は楕円形。中裂片の中央に 5 本ばかりの隆起線がある。ずい柱は直立し、先端に葯があり、葯室は 2 個、長楕円形の花粉塊を入れる。本州~九州、朝鮮に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.207. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編 III, p.30. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 067	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
セッコク <i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

旧岡崎市内の生育地 2ヶ所（大原・千賀, 1985）では、いずれも全滅してしまった。1960年代から1970年代にかけての、野生ランブームの折りに姿を消してしまったと思われる。現在は神社内のスギの木に着生している。さすがに神社の植物までは手が出せなかったのであろう。しかし、現在の車社会においては、道路工事等のために木が切られることがある。こういう木を俗に障害木という。この神社のスギの木も、あわや切られてしまうところであった。しかし、工法の変更により、かろうじて守られたという経緯がある。このように、どういう事態が発生するかわからないのが現実である。寺社だから安心ということはない時代である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の常緑樹林内の樹上や岩上に着生する。根茎は短く、多数の根がある。茎は高さ 5~25cm。節間は円柱形、古い茎では頂上近くにしばしば子芽を生じる。葉は 2~3 年生で、数個互生し、披針形で長さ 4~7cm、幅 7~15mm、光沢があり、やや鈍頭。花は 5~6 月、前々年生の葉が落ちた茎の上部の節に 1~2 個つく。がく片は長さ 22~25mm。背がく片は披針形で、鋭頭。側がく片は基部が斜めに広がり距状の顎をつくる。側花弁は背がく片と同形ですこし短い。唇弁は側花弁とほぼ同長で狭卵状 3 角形、やや鋭頭、基部はずい柱を抱え、中央に多数の短毛がある。ずい柱は短く、葯は楕円形で、淡黄色の花粉塊を 4 個入れる。本州~琉球、朝鮮南部・中国（本土・台湾）に分布する（以上、佐竹ほか, 1982 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.231. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.624.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.61. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 068	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
アオフタバラン <i>Listera makinoana</i> Ohwi		

【 選定理由・現在の生育状況 】

スギ林の林床に生育しているが、年々によって株数の増減がある。発芽しても葉が虫などによって食されてしまうために、そう見えるのかもしれない。また花を咲かせる株は極めて少なく、この地において一度見ただけである。このように、ここでの生育は増えてゆくよりも減少の傾向を示している。山の奥地であるので、人によって持ち去られることは考えにくい。今後、このスギが伐採されて日当たりがよくなったり、道添いのために踏みつぶされてしまうことが一番の心配事である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地樹林下にはえる。茎は直立し、10~20cm。葉は茎の下方にあって開出し、3 角状卵形で、鈍頭、基部は切形または浅心形、長さ幅ともに 10~30mm。鱗片葉はまばらに互生し、狭卵形、鋭尖頭、長さ 2~5mm。花は帯緑色、7~8 月、まばらに 5~20 花をつける。苞は鱗片葉とほぼ同形で開出、長さ 2.5mm。がく片は長楕円状披針形でやや鈍頭、長さ 2~2.5mm。側花弁は線形で鈍頭、がく片と同長。唇弁は長さ 5~6mm、先端が 2 裂し、裂片は卵形で円頭。ずい柱は子房に対し直角に立つ。葯は広卵形。本州~九州に分布する（以上、佐竹ほか, 1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.209. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.36. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 069	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
フウラン <i>Neofinetia falcata</i> (Thunb.) Hu		

【 選定理由・現在の生育状況 】

岡崎市内では 1 ヶ所、ケヤキに着生している。かつては周辺の柿の木にも見られたが、現在では一株もない。本種は環境に対する適応力もあるので、今後再び柿の木に着生することも考えられる。柿以外では石垣にも生育する。現在ケヤキに 30 株ほどが着生するが、ケヤキは木の肌がはがれやすいので、落ちてしまうことも考えられる。早く他にも分布域を広げてほしい。手の届く高さには着生していないので、人目に触れることはないが、一旦見つかってしまうと、花の美しさのために採取されてしまう心配もある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	絶滅危惧 II類

【 種の概要 】

常緑広葉樹林内の樹幹や岩上に着生する。根は細長く四方に走る。茎はやや束生し、革質の葉鞘で密に被われる。葉は多肉質で硬く、湾曲し、長さ 5~10cm、幅 7~8mm、断面は V 字形で背面に鋭い稜がある。花茎は長さ 3~10cm、6~7 月に下方の葉鞘の腋から出て、白色の 2~5 花を総状につける。苞は卵状披針形、長さ 4~7mm。花被片は線状披針形、長さ約 10mm、鋭頭。唇弁は長さ 7~8mm、舌状をなして肉質、中部付近で 3 裂し、側裂片は半円形、中裂片は狭卵形。距は長く線形で湾曲し、長さ約 5cm。ずい柱は高さ 2mm。葯は白色、広卵形。葯室は 2 個。各室に 1 個の花粉塊を入れる。本州（関東南部以西）~琉球、朝鮮・中国に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.233. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.295.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.617. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.62. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 070	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
トキソウ <i>Pogonia japonica</i> Reichb.f.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

湿地にある植物の中では乾燥にも強く繁殖力も旺盛である。しかし花が美しいために開花すれば誰の目にも止まる。そのために採取禁止の立て札などの効果は意味をなさない。監視員が入っていてもこっそりと採られることもある。このように現状のまま保護するのは極めて難しい。岡崎では 2 ヶ所に分布するが、ボランティアの人々によって、見守りがなされているので、現在ではやや増加傾向にあるが、他の所では絶滅してしまった生育地が数々ある。こういう植物は公表せず、安易に観察路なども設けないほうがよい。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	準絶滅危惧

【 種の概要 】

日当りのよい湿地にはえる。根茎は横にはい、やや硬く、肥厚しないので、根のように見える。茎はその根茎から出て、高さ 10~30cm、基部に膜質の鱗片葉があり、ふつうの葉は 1 個で中央につく。葉は披針形または線状長楕円形で、長さ 4~10cm、幅 7~12mm、基部は細くなって翼状に茎に沿って流れ、鞘はつくらない。花は紅紫色、1 個が頂生し、5~7 月に開く。苞は葉状で、長さ 2~4cm。がく片は長楕円状披針形で長さ 1.5~2.5cm、側がく片は背がく片よりやや幅が狭い。側花弁は狭長楕円形でがく片よりすこし短い。唇弁はがく片と同長、3 裂する。側裂片は 3 角形で翼状、中裂片は大きく、内面や縁に肉質突起が密生する。距はない。ずい柱は長さ 1cm。葯は頂生し、2 室で平行し、花粉塊を 1 個ずつ入れる。花粉塊は卵状楕円形。北海道・本州に産し、四国と九州にまれにみられ、千島・朝鮮・中国に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.205. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.297.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
 環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.621. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.25. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 071	シダ植物 ヒカゲノカズラ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
マンネンズギ <i>Lycopodium obscurum</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史では「奥殿に自生地がある」と報告されている（大原・千賀, 1985）が、現在では確認されない。この植物はどちらかと言えば寒いところを好むので、もう旧岡崎市域では見ることができないと思う。その一方で、旧額田町地区に本種の生育地を見つけることができた。普段人が出入りする所ではないので、周辺の環境を著しく変更しない限り今の状態のままで生き続けられると思われる。しかし、本種は一部のマニアにとっては魅力的な植物なので、採取されてしまう可能性は捨てきれない。移植は極めて困難な植物であるので、今の生育地を守るしかない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

地上生の小型常緑草本で、茎の主軸は地中を長く匍匐し、帯赤褐色、径 2~2.5mm、まばらに分岐する。側枝は直立茎となって地上に伸び、下部は分岐せず、上半部で相接して分岐して樹木状となり、高さ 10~30cm、枝は斜上または直立し、葉を密につけ、末端の小枝では葉を含めて径 4~7mm。葉は線形で鋭頭、全縁、緑苞でややかたく、直立茎の基部では圧着するが、枝では開出し、上半が内曲することが多い。胞子のう穂ははっきりした形となり、1本の側枝に数個つき、小枝端に1個頂生し、無柄、長さ 1~6cm、径約 5mm、円柱形。胞子葉は卵状心形、先端は鋭尖頭、辺縁は膜がある。琉球を除く日本各地の温帯的な場所で山地の林下や陽地に生じ、東アジアから北アメリカにかけて分布する。和名の万年杉は、常緑でズギを思わせることにちなむ（以上、岩槻, 1992より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.428. 新編岡崎市史編さん委員会.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.47. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.13. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 072	シダ植物 ホウライシダ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
クジャクシダ <i>Adiantum pedatum</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

旧岡崎市域では見つかっていないが、県北部においてはごく普通に見ることができる。このシダは岩場を好み、根も浅く、葉の形も、色あいもさることながら、外形がクジャクの羽根のようにも見えるので、シダに興味関心のない人にも目をつけやすい。このように強靱に見えるこの植物は、極めて繊細であって、暑さに対しても、湿度に対しても適応範囲が狭く、手元に置くことは不可能である。我々がこれに似たシダを目にするのは、園芸品種であって、山採りしたクジャクシダではないことを知ってほしい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

夏緑性。根茎は短く匍匐し、径約 2mm、鱗片をつけ、葉を叢生状につける。鱗片は披針形、全縁、茶褐色で単色。葉柄は光沢があり、紫褐色から赤褐色、長さ 15~45cm、基部から相当上部まで鱗片があるが、毛はない。葉身は卵形からほぼ円形、長さ 15~25cm、幅 15~30cm、偽叉状に分岐して各枝の上側に単羽状の小羽片をつける。小羽片は披針形、上部と下部でしだいに狭くなり、長さ 10~30cm、幅 2~3cm、柄があり、円頭。小葉は半月状の長楕円形、上縁にはやや深い切れ込みがあり、基部は広いくさび形、短柄があり、無毛で薄い草質、鮮緑色、芽生えの時紅色になることもある。胞子のう群は裂片の上縁に生じる。北海道と本州の各地、四国の一部および福岡県で山地林下の地上や岩上に生じ、北アメリカからアジア東部・ヒマラヤにかけて分布する（以上、岩槻, 1992より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.126. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.66. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 073	シダ植物 イノモトソウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
マツザカシダ <i>Pteris nipponica</i> Shieh.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

本種には白斑のものがあり、人目に触れやすく、外形もオオバノイノモトソウと違ってすっきりとしていて美しいので、多くの人に採取されやすい。根は地中に深くもぐり込むことが多いので、道具を用いないで採ることはできない。そのためか、引き抜かれそうになったあわれな姿を見ることがある。ただ、本来の白斑の入らない個体は比較的安定した生育をするが、個体数自体が少ないので、今後も現在の状態が続くとは思われない。山野草ブームが去った今も、本種に思いを寄せる人が多いのが現実である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は短く匍匐して葉を叢生し、線形で全縁、褐色で鱗片をつける。葉柄は無毛、わら色、基部でわずかに褐色をおび、鱗片をつける。葉はほぼ二形。栄養葉では、葉柄は長さ10~30cm、葉身には1~3対の側羽片と頂羽片があり、側羽片は線状長楕円形、長さ10~20cm、幅1.5~3.5cm、革質で無毛、鋭頭、辺縁は不規則な鋸歯縁。胞子葉は葉柄が長さ14~50cm、側羽片は長さ20~30cm、幅1.5cmで線形、やや鎌状に曲がり、短い柄がある。葉の表面は緑色で、中央に中肋に沿って白斑の出ることがある。本州（千葉県以西の暖地）から琉球の各地で山麓の斜面や林縁に生じ、朝鮮半島と台湾に記録されている（以上、岩槻, 1992より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.133. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.432. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.58. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 074	シダ植物 チャセンシダ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
クルマシダ <i>Asplenium wrightii</i> Eaton ex Hook.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

本種のような暖地性のシダがこの岡崎に生育している価値は高い。群落は大きく今も生育面積を拡大していると思われる。ただ、谷間に沿って生育しているので、大雨により谷を土砂が走るようなことがあれば一瞬にして全て失われてしまう可能性がある。ここでのシダの生育が極めて好調であることを示す一例としては、土砂の崩壊をくい止めるために設けられた堰堤の端にも本種が密生していることである。しかし、周辺はスギやヒノキの植林地であり、そろそろ伐林の時期をむかえてきているので、その時は注意を喚起したいものである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性で大きな株となる。根茎は短く、直立し、鱗片をつけ、葉を叢生する。鱗片は暗褐色で格子状、三角状披針形から線形、長さ5~7mm、幅1~1.2mm、辺縁に毛がある。葉柄は長さ15~25cm、緑色か、暗褐色ないし暗紫褐色をおび、鱗片をつけ、向軸側（表面）に溝がある。葉身は単羽状複生、広披針形、長さ30~80cm、幅15~25cm、最下羽片が最上で、上に向かってしだいに短くなって頂羽片というべきまともはなく、濃緑色、葉質は厚く、平滑でやわらかい。羽片は10~20対、披針形でやや鎌状、鋭尖頭、長さ7~17cm、幅1~2cm、辺縁に鋸歯があり、基部上側は耳状と突出し、下部のものには短い柄がある。葉脈は叉状に1~2回分岐する。胞子のう群は線形、羽軸近くからはほぼ辺縁まで長く伸びる。包膜は長さ1.5cmに達し、辺縁に腺毛状の突起がある。本州（伊豆半島・東海以西、および伊豆諸島御蔵島）・四国・九州・琉球に分布し、朝鮮・台湾・中国・インドシナ・フィリピンに記録がある（以上、岩槻, 1992より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.144. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.149. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 075	シダ植物 オシダ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヌカイタチシダ <i>Dryopteris gymnosora</i> (Makino) C.Chr.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

県内で生育が確認されているのは 5 地区のみで、そのうち 2 地区は岡崎市ということである（愛知県環境調査センター, 2009）。生育地はいずれも人里近くの林床や、やや乾いた岩上にあり、いつ開発されてもおかしくないし、人目を引く特徴を持ったシダでもないで、何の罪悪感もなく引き抜かれたり、踏みつけられてしまうおそれがある。幸い現在のところは減少していないが、今後個体数が多くなるということも考えられないので、時々の見まわりにより生育を確認する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は短く斜上、塊状となり、葉を叢生し、鱗片をつける。葉柄は長さ 30~50cm、わら色または帯紅紫色。葉柄の鱗片は少なく、基部のものは長さ 5~7mm、線状披針形~線形、全縁、黒褐色。葉身は卵状長楕円形~卵形、長さ 30~45cm、幅 15~30cm、3 回羽状浅裂し、先端に向けてやや急に狭くなる。羽片や小羽片は中軸や羽軸と広い角度でつき、羽片は線状披針形、基部が広く、小羽片は三角状線形、鈍頭からやや鋭頭、無柄か、基部は羽軸に流れる。葉質は薄い紙質、淡緑色、若い葉は紅紫色をおびる。胞子のう群は葉身の基部中央付近から上と外に向けて順につき、上部にはつかない。包膜はない。胞子表面には小さいこぶと長いこぶがある。本州（関東地方以西）・四国・九州で低山地の林床のやや乾いた岩上に生じ、中国南部にも分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009 -植物編-, p.510.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.195. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.105. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 076	シダ植物 オシダ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
チャボイノデ <i>Polystichum igaense</i> Tagawa		

【 選定理由・現在の生育状況 】

チャボとは小さいという意味を持つ植物用語である。幼苗時のイノデモドキやイノデと似るが、胞子のう群があるかないかが区別点になる。道路添いの植林地に多く見ることができる。しかし群落をなすようなことはなく点在する程度である。採取されたりすることはないが、道路の拡張や川の増水等により生育地が奪われてしまうおそれがある。こういう類の植物は自己主張をしないので、知らぬ間に姿を消してしまうことが多い。このため、注意を喚起する意味において、ここに記載をする。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。イノデモドキに似ているが、全体が小型で、葉柄は長さ 12~14cm、葉身は長さ 40cm、幅 10cm 以下、幅が狭く、葉は地につくように低く開出してつき、表面はやや濃い緑色、葉柄上部から中軸下部にかけての鱗片はすべて褐色で、乾くとねじれる。胞子のう群は小羽片の近縁にごく近くつく。本州（関東~近畿地方）・四国・九州（宮崎県）で山地の林床に生育する。固有種（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.173. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.82. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 077	シダ植物 イワデンドコ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
オオヒメワラビ <i>Deparia okuboana</i> (Makino) M.Kato		

【選定理由・現在の生育状況】

ワラビに似たヒメワラビと比べ、裂片の幅が広いのが本種の特徴である。過去に須淵で見つかったことがあるが、当時としても極めて稀と記録されている(大原・千賀, 1985)。今は旧額田町地区で見ることができる。樹林下の湿地を好む。採取されることはないが、樹木の伐材等によって生育環境を変えられてしまうと弱い面がある。また大量の水の流入によって沼化してしまうことや、土砂が運ばれて湿地が乾燥化するなど、環境の変化によっては姿を消すことも考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

夏緑性。根茎は短く横走し、鱗片があり、葉を相接してつける。葉柄は淡緑色～わら色、長さ26～80cm、基部に鱗片をつけ、上方はほとんど無毛。根茎と葉柄基部の鱗片は披針形、全縁、長さ1cm、幅2mmに達し、褐色。葉身は三角状、卵形または卵状披針形、鋭尖頭、長さ35～80cm、幅25～50cm、3回羽状に深裂し、草質。羽片は披針形から広披針形、鋭尖頭、無柄か下部の羽片には短い柄があり、長さ15～40cm、幅5～15cm、深く切れ込み、羽軸に狭い翼がある。小羽片は長楕円形、鈍頭から鋭尖頭、長さ3～8cm、幅7～15mm、羽状に深裂する。裂片は斜上し、長楕円形、全縁～波状縁で鈍頭、幅2～4.5mm。中軸、羽軸、小羽軸は裸出するか、まれに暗褐色で毛状の鱗片がある。包膜は薄く、辺縁は裂けている。本州・四国・九州で明るい林中や林縁の陽地に生じ、朝鮮・中国(中・南西部)とインドシナに分布する(以上、岩槻, 1992より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.436. 新編岡崎市史編さん委員会.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.244. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.132. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 078	シダ植物 イワデンドコ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
シロヤマシダ <i>Diplazium hachijoense</i> Nakai		

【選定理由・現在の生育状況】

このシダも岡崎では1ヶ所のみで自生している(大原・千賀, 1985)。山地林下の湿った所を好み群生する傾向がある。この類のシダは似たものが多く、特別に興味や関心を持つ者でなければ見逃がしてしまう。このため、採取によって絶滅することはないと思われる。それよりも、山の下刈りの時に幼木と一緒に刈り払われてしまうことが問題である。植物の保護で難しいのは、このようなケースをどう回避するかだと思うが、決定的な方法が見つからないのが現状である。本種の和名の由来は、鹿児島島の城山で見つかったことによる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性、北方のものは夏緑性になることもある。根茎は横走するが、太く、葉はこみ合っつく。葉柄は葉身とほぼ等長、緑色～わら色、基部は汚褐色で鱗片をつける。鱗片は披針形～広披針形、長さ約5mm、幅1～2mm、膜質、黒褐色～茶褐色、全縁、ふつう早落性。葉身は三角形～三角状卵形、2回羽状深裂、長さ、幅ともに50～100cm。羽片は有柄。小羽片も短い柄があり、三角状披針形、長鋭尖頭、基部は切形、羽状に中裂～深裂する。裂片は長楕円形、円頭、わずかに鋸歯縁。葉質はやや厚い草質。胞子のう群は線形、中肋と辺縁の中間にあり、包膜は膜質、全縁まれに鋸歯縁。本州(関東南部・北陸以西)・四国・九州・琉球の山地林下の湿った場所に生じ、暖地ではしばしば群生する。朝鮮の済州島にも分布する(以上、岩槻, 1992より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.434. 新編岡崎市史編さん委員会.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.255. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.139. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 079	シダ植物 イワデンダ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
フクロシダ <i>Woodsia manchuriensis</i> Hook.		

【選定理由・現在の生育状況】

山道添いの岩場に生育しているので、多くの人目に触れていると思うが、採取されてしまうことはない。なぜなら岩の中に根を伸ばしているため、容易に引き抜くことができないからである。生育面積は1.5m四方程度である。岡崎市で見ついているのはここだけであるので大事にしたい。現在の地形からすれば道路工事によって削られてしまうこともないので、現状のまま生育し続けられると思われる。本種の和名の由来は、包膜がふくらみ状であることによる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

夏緑性。根茎は短く、直立して小さく塊状となり、葉を叢生し、鱗片を密生する。葉柄は葉身よりずっと短く、長さ1~7cm、関節はなく、赤褐色で光沢があり、基部に鱗片があるほか、まばらに毛や鱗片がある。葉身は2回羽状深裂し、狭披針形、鋭尖頭、下部に向けてしだいに狭まり、長さ5~30cm、幅1.5~5cm。中軸はわら色で下半分は赤褐色を呈し、まばらに微毛があり、線形の鱗片もまれにみられる。羽片は長楕円状披針形、基部は広いくさび形からほとんど切形、無柄、裂片は長楕円形で鈍頭、鈍鋸歯縁。葉質は薄い草質、淡緑色だが、裏面は白っぽく、表裏ともに平滑で無毛。胞子のう群は裂片の辺縁に近くつく。北海道から九州までの各地で山林中や林縁、路傍などの岩上に生じ、暖地には少ない。朝鮮・中国（北部・東北部）・アムール・ウスリーに分布する（以上、岩槻, 1992より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.226. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.76. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 080	シダ植物 ウラボシ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
イワヒトデ <i>Colysis elliptica</i> (Thunb.) Ching		

【選定理由・現在の生育状況】

西三河では少なく、岡崎では1ヶ所のみ自生している（大原・千賀, 1985）。谷間の溪流の岩場に群落をなしている。ただ継続的に観察すると、生育域が少しずつ狭くなってきている。近くに人家もあり、上流の開発も進みつつあるので、上流から谷に流れ込む水量も多くなっている。近年では集中豪雨が年に1~2回あるので、岩が洗われたり、流されたりすることもある。現在はなんとか生育しているが、このような事態が何度も続けば、いつ何時絶滅してしまうかわからない。本種の和名は岩人手、人間の握った手を開いたような葉の形をしていることに由来する。観賞用に栽培されることもある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性。根茎は長く横走し、径3~5mm、緑色で密に鱗片がある。鱗片は狭披針形で基部は広卵形、長さ4~5mm、鋭尖頭、微鋸歯がまばらにあり、暗褐色でやや光沢があり、格子状、膜質。葉柄はわら色、基部に鱗片があるほかは裸出し、平滑、長さ20~50cmで、胞子葉のものが長い。葉身は広卵形で長さ10~25cm、幅10~20cm。葉質はやや厚い紙質、緑色で光沢があり、無毛。胞子のう群は斜上し、線形、長さ5~15mm、ややまばらで、幅の広い栄養葉的な葉にもまばらにつくことがある。本州南部（伊豆諸島・伊豆半島・東海地方・紀伊半島・中国地方西部）・四国・九州・琉球（沖縄本島）で山地のやや陰湿な林中や、多くは溪流沿いなどの地上の岩上に生じ、朝鮮南部・台湾・中国・インドシナに分布する（以上、岩槻, 1992より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.438. 新編岡崎市史編さん委員会.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.273. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.163. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 081	シダ植物 ウラボシ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヤノネシダ <i>Neocheiropteris ensata</i> (Thunb.) Ching		

【選定理由・現在の生育状況】

谷間の沢添いによく見られるシダであったが、群落がだんだん小さくなったり、姿を消したりしている。多くは岩や樹木に着生していたが、岡崎ではそれ以外でも見ることができた。特に本種を採取するという話も聞いたことがないので、その原因については不明のままである。本種の和名の由来は、葉の形が「矢之根」つまり矢の先につける「やじり」の形に似ていることによる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性。根茎は長く横走り、針金状で径 2~3mm、鱗片をやや密につける。鱗片は開出し、披針形で鋭尖頭、長さ 2~4mm、膜質、褐色から暗褐色で格子状、辺縁には不規則な小突起がある。葉柄はほとんどないものから 10cm 以上になるものもある。葉身も多型で、胞子のう群のつかないほぼ三角形のものから、披針形の胞子葉までさまざまで、長さ 10~15cm、幅 1.5~5cm、無毛で平滑、基部西側に耳形突起の出ることがあり、全縁または波状縁、先端に向けてしだいに狭くなり、鋭尖頭。中肋は両面ともに隆起し、主側脈はみえず、葉脈は複雑な網状。胞子のう群は狭い葉について下面全体に散在し、円形からやや長楕円形、径 2mm 前後、若い時には楕状の小鱗片に覆われる。本州（関東地方南部以西）・四国・九州で山麓近くなどの林中の地上から岩上に生じ、まれに低い樹幹にのぼることもあり、中国に分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.438. 新編岡崎市史編さん委員会.
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.268. 平凡社, 東京.

【関連文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.159. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 082	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 カバノキ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ミズメ（ヨグソミネバリ、アズサ） <i>Bethla grossa</i> Sieb. et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

かつては木材としての市場価値のために、わざわざこの木を切り出すこともあったが、現在は市場での評価額も下がってしまったために人々の関心はそれほどない。材質の美しさと、堅さのために餅つきの臼としての利用が高かった。アズサというのは、「梓弓」という枕詞があるように、弓の材料として利用されたという。またヨグソというのは、夜の糞という意で、サリチル酸メチルの香りのことを言ったのだと思う。現在は県立自然公園内に自生しているので、当面の心配はないと思うが、個体数はそう多くはない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地に生える落葉高木、樹皮は暗灰色で平滑。折るとサリチル酸メチルの香りがする。葉は卵形~広卵形、長さ 3~10cm、幅 2~8cm、鋭尖頭、基部は浅心形~やや円形、若時両面ともに長伏毛が密生するが、のち裏面脈上のみに残る。雌雄同株。花期は 4 月ごろ。雄花序は前年秋から長枝の先端に生じ、開葉とともに下垂して開花し、長さ 5~7cm、幅約 5mm。雄花は 1 個の花被片と 2 個の雄ずいがあり、花糸は 2 裂し、先端に 1 個の葯室をつける。雌花序は短枝の先端に 1 個つき、短柄があって直立する。果穂は 10 月ごろ熟し、長さ 2~4cm、幅 12~15mm。本州（新潟県・岩手県以南）・四国・九州（鹿児島県高隅山まで）に自生する日本固有種（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本 I, p.61. 平凡社, 東京.

【関連文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.93. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編 II, p.292. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 083	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 プナ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
シリブカガシ <i>Lithocarpus glabra</i> (Thunb.) Nakai		

【 選定理由・現在の生育状況 】

県下では本市内の 1 ヶ所のみで生育している。そのためこの樹木についての議論が色々あり、もともとここに自生していたものか、移植されたものか見解が分かれてしまう。なぜならこの材は堅く、器材となるほか、薪炭材としても利用され、しかも種子は食することができるという貴重な木であるため、ここに持ち込まれたという可能性を否定できないからである。現在では温暖化の影響もあって分布域を拡大している。近畿以西ではごく普通に見られるが、ここに生育する本種については今後の検証をまちたいと思う。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑高木。幹が高さ 15m、径 50cm に達する。葉は互生し、長さ 1~1.5cm の柄があり、葉身は厚い革質で、倒披針状長楕円形。長さ 8~12cm になり、先は短い鋭尖形で鈍頭に終わり、基部は広くさび形、側脈は 6~8 対あり、全縁または上部にわずかに鋸歯がある。托葉は早落性、披針形で、長さ 2~3mm くらい。雄花は皿形、花被は 6 裂し、裂片は広楕円形、長さ約 1mm で、中心部に灰白色のやや長い毛を密生する。雄ずいは 10 個、花糸は長さ約 2mm。雌花序は新枝の上部の葉腋からでて斜上し、長さ 5~9cm、苞腋に 3 花をつける。雌花序の上部にはしばしば雄花がつく。堅果は楕円形、長さ約 2cm で、翌年の秋までに熟し、褐色で、基部の着点はくぼむ。本州（近畿地方以西）・四国・九州・琉球に分布し、中国（台湾・大陸中南部）にも産する（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編）、1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ, p.78. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

愛知県環境調査センター（編）、2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.332. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.109. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, p.280. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 084	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 イラクサ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
イラクサ <i>Urtica thunbergiana</i> Sieb. et Zucc.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

岡崎市に合併する前の旧額田町では町をあげてこの植物を紹介し、保護に努めてきた。北方系の植物であるので、やはり南限の地として保護したい。本種の生育地はまず人が入り込むことのない深山であり、採取されることもないので大丈夫である。更に生育状況も極めて良好で生育域を広げている。ただ谷間であるため、大量の土砂流出などが発生すると全絶ということも考えられる。この植物は茎や葉に刺毛があるので刺草（いらくさ）という。皮膚にふれると激痛を感じるので、イタイタグサともいう。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地にはえる多年草で、高さ 40~80cm。葉は卵形で長さ 5~15cm、幅 4~10cm、縁に欠刻状の鋸歯があり、しばしば重鋸歯になり、両面に細点が多く、表面に伏毛がまばらにあり、裏面の脈上に短毛がある。托葉は合着して長楕円形になり、長さ 7~8mm、先は 2 裂することがある。花は 9~10 月。雌雄同株。花序は穂状で、雌花序は上方の、雄花序は下方の葉腋につく。雄花被片は淡緑色で径 2mm。雌花被片 4 個あるが、内側の 2 片は花後増大してそう果を被う。そう果は卵形、緑色、扁平で長さ約 1mm。本州・四国・九州、朝鮮に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編）、1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, pp.3-4. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.330. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 085	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 タデ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ミヤマタニソバ <i>Persicaria debilis</i> (Meisn.) H.Gross		

【選定理由・現在の生育状況】

本種はタデ科の中でも花数も少なく地味であるために、人目を引くようなことはない。県内では特に珍しい植物ではないが、県立自然公園内の林床に生育しているので、人によって踏まれてしまう心配がある。岡崎市は低地の植物は比較的豊かであるが、本種のような寒冷地に生育する植物は分布の南限になる場合が多いため、保護する必要がある。また岡崎では個体数も少ないので、ここにとりあげた。一番心配されるのは、近年特に数を増やしている鹿による食害である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の林下にはえる 1 年草。茎は細く、下部は斜上するか直立し、節部に下向きの刺毛があり、高さ 20~50cm になる。葉は薄く、3 角形、先は鋭尖形、基部は切形、両面に細毛があり、表面には八の字形の紫斑があり、長さ幅ともに 1.5~5.5cm で、細長い葉柄がある。托葉鞘は短く、先はしばしば葉状となり、緑色。花期は 7~10 月。花は枝頂に 2~5 個集まってつく。がくは 5 裂し、白色、長さ約 3mm。そう果は 3 稜形、褐色で光沢があり、長さ約 3mm。本州~九州に分布し、朝鮮南部にも産する (以上、佐竹ほか, 1982 より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.20. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.439. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.305. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 086	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 タデ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
トヨボタニソバ <i>Persicaria</i> sp.		

【選定理由・現在の生育状況】

現在のところ愛知県以外では県境からわずかに長野県側に入った場所を確認されているだけで、実質的には愛知県固有である (愛知県環境調査センター, 2009)。その分布の南限が岡崎市ということで、貴重性がある。現在は放置された湿地や沢などに生育しているが、大きく被陰されない限りは逞ましく生きていける。ただ、最近になって鹿による食害も報告されているので、その方が心配される。本種については現在も研究が進められている。類似した植物にミヤマタニソバ (本ページの前半に記載) がある。トヨボの意味は、「穂の数が多い」ということである。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

1 年生草本。茎は長さ 30~60cm、はじめ直立するがやがて上部が曲がり、枝を分けて垂れ、地に接するようになる。葉は長さ 1~3cm の柄があり、葉身は長さ 1.7~5.5cm、先端は多少なりとも鋭尖頭、基部はほぼ切形、浅く 3 裂し、頂裂片は三角形~卵状三角形で基部が最も広く、側裂片も三角形である。托葉鞘は長さ 1.5~3mm、短い縁毛がある。花期は 8~9 月、花は枝の先端にほとんど 1 個ずつつき、しばしば閉鎖花状になる。茎の下部の節からも長さ 1.5~10cm の細い枝を出し、その先に閉鎖花をつける (以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.526.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 087	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 タデ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
サトヤマタデ (ヒメボントクタデ) <i>Persicaria</i> sp.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

サトヤマという名が冠されるように、深山にあるものではなく、平地に分布する。現在のところ県下では 5ヶ所で見つかっている（愛知県環境調査センター, 2009）。その他では岐阜で 2ヶ所、京都と宮崎で各 1ヶ所。まだ分布調査が充分なされていないので、今後、新分布地が見つかると思われる。岡崎市では県下 5ヶ所のうち、2ヶ所の生育地があり、群落も岡崎のものは小さいので大切にしたい。岡崎では林道わきの湿った所や沢すじの土砂の堆積したところに生育しているが、生命力は強いので大きな力が加わらない限り大丈夫である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

1年生草本。茎は直立して枝を分け、高さ 35~80cm になる。葉は長さ 3~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 6~12cm、幅 1.5~3cm、両端はほぼ同形に細まり、先端は鋭尖頭、葉質はボントクタデに比べて薄く、両面に毛が多く、表面中央部に明瞭な黒斑がある。托葉鞘は筒状で、長さ 4~8mm、それとほぼ同じ長さか多少短い縁毛がある。花期は 8 月下旬~9 月、総状花序は長さ 4~10cm で先端はたれ、まばらに花をつける。がくは 5 裂し、淡紅色、長さ 1.5~2mm で、腺点がある。そう果は 3 稜形、黒褐色、長さ 2~2.5mm である（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編, p.527. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 088	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ヤマゴボウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
マルミノヤマゴボウ <i>Phytolacca japonica</i> Makino		

【 選定理由・現在の生育状況 】

本種に類したヨウシュヤマゴボウは実が垂れ下がる。ヤマゴボウは実が緑色であるので識別はできる。県立自然公園内に生育しているの、盗掘されてしまうようなことは考えられないし、人を引きつけるような美しさもないので、まず人為的に持ってゆかれることはない。何が心配かと言えば、道路の整備の折に、土砂によって埋められてしまうことと、道添いの草刈りによって刈り払われてしまうことである。目立つ花であれば採取され、目立たなければ踏みつけられてしまうということで、どちらも保護は難しい問題をかかえている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

無毛の多年草。根はいちじるしく大きくなり、茎は太く、円柱形で緑色。高さ 1m 前後で分枝する。葉は長楕円形または卵状長楕円形で鋭尖頭。花期は 6~9 月。花序は直立し、花は淡紅色を帯びる。液果はほぼ球形。種子は腎円形でやや平たく、黒色で光沢があり、細い同心円状の線条がある。本州（関東以西）~九州に分布する（以上、佐竹ほか, 1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.27. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.280. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 089	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 キンポウゲ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ニリンソウ <i>Anemone flaccida</i> Fr. Schm.		

【選定理由・現在の生育状況】

歌謡曲でも取り上げられた「二輪草」とはこの花のこと。花茎の多くは2本で、時に1本、3本の場合もある。同時に2本が花を開くので、かわいらしきを感じる。この植物は大群落をつくることが多く、ここだけは春爛漫といった光景がみられる。岡崎市では河原の近くの藪の脇に見られることが多かったが、最近は減少傾向が著しい。その原因は不明で、本種を食用として利用する人はいないと思うが、鹿によって食べられてしまうのかもしれない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

林縁や林床、ときに草原にもはえる多年草。根茎は横、または斜めになり、やや太く、あまり長くはならず、せいぜい5cm位。ときに匍枝となって伸び出す。先端に数枚の根出葉と1~3本の花茎を束生する。根出葉は3全裂し、側裂片はさらに2深裂する。各裂片はやや2回羽状に欠刻する。花茎は高さ15~30cm、茎葉は3枚が輪生し、無柄で深く欠刻する。4~5月頃、花茎に径2cm位の花を1~4個つける。がく片は5~7枚、楕円形で、白色、裏面はときに紅色を帯びる。雌ずいは多数あるがそう果は数個しかできず、楕円形で細毛を密生する。そう果の落ちる時にふつうまだ受精卵は分裂を始めていない。子葉は1枚。葉や茎は早春に現われ、初夏には枯れる。北海道~九州、樺太・朝鮮・中国(北部・東北)・ウスリーに分布する(以上、佐竹ほか, 1982より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.69. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.455. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.232. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 090	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 キンポウゲ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
トリガタハンショウヅル <i>Clematis tosaensis</i> Makino		

【選定理由・現在の生育状況】

「トリガタ」とは葉の型をいうのではなく、高知県の鳥形山で採取されたことによる。本種は山道の日当りのよい低木や幹にからみつくことが多い。最近は草払機の性能が良くなり、道添いの草払いが今まで以上に根元からなされ、幅広く刈り込まれてしまうので、自然と道脇の植物が単調になってしまう。これと同様なことが他のツル植物についても言える。花もハンショウ型でおもしろいので、採取されることもある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

ハンショウヅル(本書129ページ参照)に似るが、それほど大きくならず、日当りを好むようで、林縁にはえて、低木にからんだり、また、地面をはったりする。花期はやや早く、4~5月頃。花柄は葉よりも短く、小苞より基の部分は短くなって小苞は基部の鱗片中にかくれる。がく片は淡黄白色、質は薄く、先は広がって円くなり、反曲し、外面全体に白毛がある。本州・四国の暖帯~温帯に分布する(以上、佐竹ほか, 1982より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.72. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.224. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 091	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 メギ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヘビノボラズ <i>Berberis sieboldii</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

名は「蛇上らず」で、枝に刺があるため、ヘビもこの木には上れないという。落葉低木であるため、環境の変化に対しても強く生き残っている。ただ全県下を見渡してみると、限られた湿地に生育するので、その湿地だけ見ていけばけっこう個体数もある（愛知県環境調査センター, 2009）。しかし、同じような湿地でも見つからないところが多くある。このように、一部地域のみ分布する植物は、他の湿地とのつながりを考えるためにも、是非保護しなくてはならない。幸い、岡崎には比較的多くの個体数がある。ついでに、花も実も美しいことをつけ加えておく。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

小型の落葉低木で幹はせいぜい高さ 80cm くらい。幹は暗灰色、稜は不明瞭。葉はやや草質、倒卵形ないし倒披針形、鋭頭ときにやや鈍頭、長さ 3~9cm、幅 1~2cm、先が刺状になった細かい鋸歯がある。5 月ごろ、短枝の先より垂れ下がる総状花序をだし、数個の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。花は黄色、径約 6mm、果実はほぼ球形、径約 6mm、赤色に熟す。本州（中部地方南西部・近畿地方）・九州（宮崎県）の暖帯に生える（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.536. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ, p.129. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.457. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.188. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, p.174. 保育社, 大阪.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 092	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 マツモ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
マツモ <i>Ceratophyllum demersum</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

別名キンギョモと言われるように、里山の池や川に生育している。そのため開発の波にのまれてしまった。また川の小さな流れに抗するように育っていたために、ちょっとした生活排水の流入でも影響を受ける。ましてや工場からの排水が流れ込んだ昔では、どうすることもできなかった。現在では 1ヶ所の池のみに生育しているが、もし、水質の変化などがあれば、たちまちに姿を消してしまうと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

池や川にはえ、茎は長さ 20~80cm、分枝し、もろい。数枚の葉を輪生し、長さ 1.5~2.5cm、裂片には細い刺状の鋸歯がある。花期は 6~8 月。花はごく小さく、雄花が先に形成される。そう果は楕円形で長さ 4~5mm、基部に 2 本の長い刺がある。冬、植物体は枯れるが、枝の先端にできた越冬芽が残り、翌春発芽する。北海道~琉球、世界中の熱帯から温帯にかけて分布する（以上、佐竹ほか, 1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編）, 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.97. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.455. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.249. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.117. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 安達史幸）

維管束植物 093	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 オトギリソウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
トモエソウ <i>Hypericum ascyron</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

本来は川原や土手に生育するが、花が大きく、ねじれ、黄色ということで、園芸種と思っている人がいる。そのためか、意外に人が持ち去ることは少ない。本種には環境の変化にかようにも適応してゆく生命力があり、しばしば群落をつくっている場合があるが、岡崎市ではそのような観察はできない。

なお、川原に生えているトモエソウが本来の野生種か、栽培品が逸出したものか区別がつかない時があるので、注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

茎は4稜があり、丈高く50~130cm、直立し、分枝する。葉は披針形で、長さ4~8cm、先はとがり、基部はなかば茎を抱き、多くの明点が入り、黒点はない。花は大きく、径5cm、茎および枝の先に2出集散状の花序をつくる。花柄は短く、がく片はいちじるしく大小不同で、卵形または楕円形、脈の間に多くの明腺が走る。花弁は黄色で、長さ2.5cm、円形のゆがんだ形をしている。雄ずいは多数で、5束にわかれる。子房は長さ7~8mm。花柱は長さ7mm、全長の1/3~2/3の高さまで合着し、先は反り返る。蒴果は円みを帯びた円錐形で、長さ13~15mm。種子は黒褐色で、網状の隆起がある。北海道~九州、朝鮮・中国・シベリアに広く分布する(以上、佐竹ほか、1982より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.115. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.482. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.65. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 094	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 オトギリソウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
サワオトギリ <i>Hypericum pseudopetiolum</i> R.Keller		

【選定理由・現在の生育状況】

岡崎市のような低地には少なく、少し標高の高い山地の水のあるところを好む。このような場所は他の植物の進入も激しく、ちょっとした環境の変化によって、ノリウツギなどの樹木が占有してしまうことがある。すると被陰によって植物相がすっかり変化してしまう。このように、変化が変化を呼ぶということが自然界には多い。本種も人手が入って、適度に草刈りがなされている間はよいが、その関わりがなくなってしまうことが多かった山里では、いつ姿を消してしまってもおかしくはない。花は黄色で、秋になると葉は美しく紅葉する。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

茎はそう生し、基部ははって、立ちあがり、高さ10~15cm、また70cmにもなり、多数の枝がわかれる。葉は薄く、倒卵形または長楕円形で、円頭または鈍頭、長さ30~35mm、基部は狭まり、柄のようになって茎につく。葉には多数の大きめの明点が入り、縁には黒点がある。また縁には、がく片や花弁の縁と同様に有柄または無柄の黒色腺球をつけることもある。裏面は帯白色。花は小さく、茎の先と枝の先とに2出集散花序をなす。がく片は狭長楕円形で、明点と明腺が入る。花弁は倒卵状長楕円形で、長さ3.8~6mm、明点または明腺が入り、無腺のこともある。雄ずいは少なく、葯は小さい。花柱は1.3~2mm、子房よりいちじるしく短い。蒴果は円く、大きく、長さ5~8mm、幅4~6mm。北海道西南部~九州に広く分布する(以上、佐竹ほか、1982より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.117. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.482. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.66. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 095	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 オトギリソウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ミズオトギリ <i>Triadenum japonicum</i> Makino		

【選定理由・現在の生育状況】

岡崎市にあつては3ヶ所で生育が確認されていた(大原・千賀, 1985)が、現在では1ヶ所のみになってしまった。この植物は湿地を好むために生育地が限られる。その湿地は開発されやすい場所が多く、町中の湿地はすべて姿を消してしまった。現在保護区に設定された1ヶ所で生育しているが、湿地というところは低地であるために、外部からの流入もあり、環境の変化を受けやすく、安定した生育を望むのは難しい。この植物の花は1日性で、午後3~4時頃に開く。葉は秋になると美しく紅葉もする。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

沼地または湿原にはえる多年草。茎は高さ50~100cm。葉は披針状長楕円形、鈍頭、無柄で、なかば茎を抱くものもあり、長さ3~7cmで、大小の明点が多く、縁にも明点がある。脈は裏面に隆起する。花は頂生または腋生の短い花序に少数つき、花期は8~9月。小花柄は短い。がく片は卵状楕円形、帯赤褐色、縦脈の間に明腺が走る。花弁は長さ5mm。長楕円形で、紅色。雄ずいは9個、3束にわかれ、腺体は3個、橙黄色で、長さ1mm。花柱は3個、離生し、互いに相寄り直立する。蒴果は楕円状球形、長さ10mm。種子は長さ1mm、円みを帯びた楕円形、黒褐色で、隆起した網目模様がある。北海道~九州、朝鮮・中国(東北)・アムールに分布する(以上、佐竹ほか, 1982より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.482. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.113. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.63. 保育社, 大阪.

(執筆者 安達史幸)

維管束植物 096	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ケシ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
フウロケマン <i>Corydalis pallida</i> (Thunb.) Peris.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇菴溪谷の湿り気のある地の所々に生えている。斜面、崖、谷の出口、散策路脇といろいろな所に生育するが、個体数は多くはない。近年は、以前に比べて減少傾向が見られる。花期4~5月に黄色の花が美しいので、散策の人々が関心を持つ。開花株の脇で足を止める人もかなりいる。生育株は、小さいものからやや大きいものまで様々である。小葉の切れこみはキケマンより深く、葉の質が薄い。類種のミヤマキケマンとは、形態が生育個体、生育環境によって、個体差があるのではっきりとした区別は難しい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

ミヤマキケマンに似た越年草であり、全体小型軟弱で、葉は1~2回羽状、花は少なく、長さ18~20mm、蒴果は長さ10~20mmでややじゅず状となる。中部地方以西、四国、九州に見られる型である。ミヤマキケマンは、茎がそう生して、斜上し、高さ30~50cm、葉は、2回羽状に細裂する、花は4~5月、やや多数で、長さ2~2.3cm、蒴果は、線形でややわい曲し、著しくじゅず状にくびれる。近畿地方以東に見られる(以上、北村ほか, 1961より)。

フウロケマンとミヤマキケマンの花の数、蒴果のくびれの違いは、微妙であり、両者の中間型も見られることがある。

【引用文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.193. 保育社, 大阪.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.126. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 097	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 アブラナ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヒロハコンロンソウ <i>Cardamine appendiculata</i> Franch. et Sav.		

【選定理由・現在の生育状況】

北設では、溪流沿いによく見かける植物であるが、岡崎市内ではわずかに旧額田町地区の木下町に生育する。暗い谷間の 2 ヶ所にその姿を見るが、光量不足のためか、葉の枚数が少なく、生気がない。何度も観察したが、花も見かけていない。環境条件が限界のように見える。新編岡崎市史に、以前旧市内の川向町にも本種が生育していたことが記載されていた（大原・千賀, 1985）が、現在は絶滅して見るができない。旧市内の植物の様子は、その植物の動向をよく示している。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

深山の谷間に生える多年草、地下茎は横走し、茎は高さ 30~60cm、葉は 5~9 個の小葉からなり、葉柄の基部は小さい耳形となる。縁の鋸歯はコンロンソウより少なく先丸みがある。小葉は長さ 3~10cm、幅 1~4cm、やや厚く表面に短毛がある。花は 5~7 月ころに開き、花弁は長さ約 8mm。果実は長さ 2~3cm、無毛。果柄 17~20mm、花柱は 3mm。本州の温帯、暖帯に分布（以上、北村ほか, 1961 より）。

別名タデノウミコンロンソウは、奥日光の小さな沼、蓼の湖（たでのうみ）で最初に気づかれ命名されたことによる。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.460. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.176. 保育社, 大阪.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.132. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 098	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 アブラナ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ミズタガラシ <i>Cardamine lyrata</i> Bunge		

【選定理由・現在の生育状況】

北山湿地の過去に耕作地であった所などに生育する。そこには、比較的多く生育しているが、どこにでも見られるわけではない。一見、タネツケバナに似ており、混同されて見過ごされていることもあると思われる。新編岡崎市史には、旧市内の産地として、上里、大門、森越、池金、美合、羽根、保母と多くの産地が記載されている（大原・千賀, 1985）。しかし、低湿地性の植物であるため、宅地開発、耕地整理、水質汚染などの影響を受けて、これらの地ではほとんど見られなくなった。北山湿地のように保護されている所は別とし、今後の存続が危惧される。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30~60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2~7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2~7 対ある。花期は 4~6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10~30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5~8mm である。果実は線形で、長さ 2~3cm になる（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

他種からは、開花時に根元に根生葉があり、細い走出枝を伸ばしているため、区別できる。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.460. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.538.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.131. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.175. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 099	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 アブラナ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ユリワサビ <i>Wasabia tenuis</i> (Miq.) Matsum.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闇菴溪谷の沢沿い、湿り気のある斜面あるいは崖に生育する。沢沿いでは、水辺近くまで生える。石垣に生えている所もある。今まで、旧市内では見られていない。現存の生育地では、以前のように一面に密生することが少なくなってきた。

春に咲く愛らしい白い花と、もむとワサビの香りがすることから、関心を持つ人も多い。減少の要因を見極め、保護していききたいものである。本種の和名は、地下部を冬に見ると、枯れた葉柄の基部の地下茎の先をつつむ様子がユリ根のようであることによる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

多年草、深山の谷間に生える。地下茎は細い。根出葉はそう生し、長柄がある。冬になると葉柄の下部がふくれて残る。葉は腎心形または卵心形、幅 2~7cm、ふちは大きな鈍歯牙があり質薄く無毛。茎は 12~25cm、開出する。茎葉は小さく、長柄があり、心形または、卵形で大鈍歯牙縁。花序に苞がある。花は 4~5 月に咲く。花弁は白色、狭倒卵形、長さ 5~7mm。がく片は楕円形、長さ 2.5~3mm。果柄は細く 10~20mm、花柱は 1~1.5mm。種子は楕円形長さ 2mm、緑黒色、子葉は背位。本州・四国・九州に分布する（以上、北村ほか、1961 より）。

【 引用文献 】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.176. 保育社, 大阪.

【 関連文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.132. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 100	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ウメバチソウ <i>Parnassia palustris</i> L. var. <i>multiseta</i> Ledeb		

【 選定理由・現在の生育状況 】

過去には、多くの日当たりよい湿地、湿り気のある草地に広く生えていたが、生育地の環境変化により激減した。また、生育していても、被陰や管理除草により小さな株になっていることも多い。小さな株が、かろうじて花をつけているのは、痛ましい。このままでは、衰退の一途をたどることが、懸念される。

そのなかで、小呂湿地では、被陰する植物を除去する保護活動によって、生育個体数が増えてきていることは心強い。白い花が点々と見られる様子は、見事である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

日当たりのよい湿地に生える多年草。日本全土に分布し、低地にあるだけでなく高山にも多い。根出葉は円心形、幅 1~3.5cm で、長い葉柄がある。茎は 7~45cm、無毛でやや稜があり、中部に 1 個の茎葉をつける。茎葉は、無柄で茎を抱く。花は 8~11 月に開き径 20~25mm。花弁は全縁、広卵形~楕円形（以上、北村ほか、1961 より）。花は 10 日以上も咲き続ける。開花した時は、どのおしべも内側に曲がって子房を抱き、この時のめしべの柱頭は未発達である。おしべは日に 1 本ずつ次々と立ち上がり、花粉をはく。

【 引用文献 】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.144. 保育社, 大阪.

【 関連文献 】

長田武正, 1985. 検索入門野草図鑑⑧, p.127. 保育社, 大阪.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.154. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 101	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 バラ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
オオウラジロノキ <i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schn.		

【選定理由・現在の生育状況】

市内には少ない樹木で、新編岡崎市史に茅原沢、蓬生、才栗、桑谷の産地が記載されている(大原・千賀, 1985)。茅原沢神明宮西側の乙川に沿った地は、愛知県自然環境保全地域に指定されていて本種の生育地としても知られた所であった。ところが、近年の調査によると、極めてわずかに生育しているという状況である。生育地の森林化が進行し、被陰されたことが原因と考えられる。近くの秦梨小学校の校庭には、この辺りの乙川沿いに生えていた本種が生きた標本として植えられている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地にややまれに生える落葉木で、高さ 10m に達する。短枝があり、葉腋に大型の冬芽がある。若枝は綿毛を密生し、赤褐色で皮目がある。葉は楕円形、卵形または広卵形、鋭頭、基部は円形またはやや心形。ふぞろいな鋸歯または重鋸歯をつけ、はじめ両面とも綿毛を密布し、特に裏面はビロード状であるが、後に表面はほぼ無毛となって光沢があり、裏面には軟毛がやや密生して残る。側脈はほぼ直線状で平行、先は鋸歯の先端に達する。花は短枝の先に 4~6 個が散状につき、葉の成熟前の 5 月に咲き、白色で径約 3cm である。小花柄はやや太く、長さ 2~2.5cm、がくとともに綿毛が密生する。がく筒は鐘形、長さ 5~7mm、がく裂片は卵状 3 角形、鋭頭、がく筒とほぼ同長で、幅 3~4mm、花弁は楕円形、円頭、長さ 12~15mm、基部に短い爪がある。本州・九州(久重山)の山地に生育する(以上、佐竹ほか, 1989 より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.465. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本 I, p.226. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, p.42. 保育社, 大阪.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.254. 小林元男, 豊川.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 102	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 バラ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
トヨトミナシ <i>Pyrus mikawana</i> Koidzumi		

【選定理由・現在の生育状況】

野生ナシの一種と考えられ、岡崎市指定天然記念物である。かつては推定樹齢約 300 年、幹周りは 4m の大木であったが、昭和 34 年の伊勢湾台風により衰弱し、翌年に本幹は枯死した。しかし、その後、脇幹が生命力を維持し、枝葉を伸ばしてきた。

ところが、平成 21 年 10 月 8 日の台風 18 号により、根元から倒木した。養生して、その年を越し、芽が動き出す前に幹の引き起こしをして、花・葉の展開を見ることができ、径 2.5cm ほどの果実も多くついた。秋、実の上端にがくのあとが見られる。地元では「石梨」とも呼び、固くてすっぱいが、食べられることもある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

本種の標本をはじめて学術的に採集したのは、1923 年(大正 12 年)梅村甚太郎氏であり、命名は京都大学の小泉源一博士である。トヨトミは、生育地の地名である豊富による。高木典雄博士の調査によれば、果実の大きさは、ほとんど球形であるが、縦径に対して横径の方がわずかに長く、果実 1 個の中の種子数は 2~4 個というのが最も多かった(高木, 1990)。

トヨトミナシが果たして独立した種として認め得るものかどうかは、広く日本産野生ナシと比較した上での位置づけ、再吟味が必要であると思われる。しかし、分類学的な扱い方が今後どう変わろうとも、一旦、種として発表されたものについては、その原木と原産地は永久に保存されるべきものである。

【引用文献】

高木典雄, 1990. 愛知県に産する野生梨の消息. 鳳来寺自然科学博物館館報, 21: 1-8.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 103	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 マメ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
サイカチ <i>Gleditsia japonica</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

本種は2kmほど離れた2ヶ所に生育する。上流の生平町男川岸に生育するものは幹周4mを越え、川の水面に大きく枝葉を伸ばしている。幹には洞があり、古木の趣がある。近くに子株と思われる若木も見られる。背後の川岸にはマダケが生えている。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

一方、下流の丸山町乙川岸に生育するものは、幹が基部から3裂(30cm、30cm、25cm)し、川側に傾いている。枝葉にはフジのつるがからみついている。背後の川岸には、やはりマダケが生えている。同水系の川岸に生えるサイカチの様子から、植栽されたとは思えない状況である。

【種の概要】

落葉性の高木。高さ20m、直径1mに達し、幹には枝の変化した大型の刺がある。葉は1~2回羽状複葉、1回羽状複葉は狭倒卵形で短枝につき、小葉は12~24枚で楕円形、円頭~鈍頭、長さ3~5cm、2回羽状複葉は広倒卵形または広楕円形で長枝に互生し、4~8対の羽片があり、各羽片には12~20枚のやや小さい小葉がつく。花期は5~6月、短枝の葉腋から長さ10~15cmの総状花序を出し、雄花、または雌花を密につける。花は黄緑色、長さ5mm程度である。豆果は広線形、ねじれて長さ20~30cmになり、濃紫色に熟し、中に10~25個の種子がある。本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する(以上、愛知県環境調査センター、2009より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編)、2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009・植物編、p.371. 愛知県環境部自然環境課、名古屋.

【関連文献】

小林元男、2012. 愛知県樹木誌、p.304. 小林元男、豊川.
 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(編)、1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ、p.236. 平凡社、東京.
 北村四郎・村田源、1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ、p.357. 保育社、大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 104	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ジンチョウゲ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
コショウノキ <i>Daphne kiusiana</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

本宮山西部の東河原町の林縁や林下などで見かける。生育個体数は多くない。東河原町では、スギ植林地の林床に生えていた。やや湿った暗い所を好むようだ。中国原産といわれるジンチョウゲに似ているが、それに比べて清楚な感じである。東河原町の生育地で花後の5~6月、橙赤色に熟した果実を探したが、なぜか見つけることができなかった。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

閨苧溪谷にも自生の記録がある。近年、生育地として知られた場所が、豪雨の折に流されて消失してしまったことは、残念である。

【種の概要】

関東以南の暖地に生じる高さ1mばかり常緑小低木で、分枝はやや少なく、枝は細く、暗紫褐色で無毛。葉は互生、やわらかい革質で表面に光沢があり、長楕円形ないし長楕円状倒披針形、先端鋭形で基部はしだいに細まって短柄に終わり、長さ4~16cm、幅1.5~4mm、側脈はやや整然と伸びる。雌雄異株、花期は早春1~4月、頭状花序は前年枝端について、10花程からなり、つぼみの時は長楕円状披針形の苞に包まれる。花後苞腋の芽から新条が伸び、はじめ有毛であった少花柄が枝のまたにいぼ状に残る。花は白色、がく筒は外面に細毛があり、長さ8~10mm 初夏に球状楕円形で長さ1cmほどの液果が橙赤色に熟し、かむと非常に辛い(胡椒の木の名はこの特徴による)。本州(関東南部および京都府以西)・四国・九州・琉球の暖温帯と、朝鮮南部の諸島に分布する(以上、佐竹ほか、1989より)。

【引用文献】

佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(編)、1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ、p.78. 平凡社、東京.

【関連文献】

小林元男、2012. 愛知県樹木誌、p.428. 小林元男、豊川.
 北村四郎・村田源、1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ、p.220. 保育社、大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 105	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ヒメハギ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヒナノカンザシ <i>Salomonina oblongifolia</i> DC.		

【選定理由・現在の生育状況】

湿った地に生える小さな1年草で、確実な生育地として竜泉寺町の後山池がある。ため池の流入部側に広い砂礫地があり、トウカイコモウセンゴケとともに生えている。池の水量が多い時は、水を被るような所である。後山池には、このような環境の土地がかなり広く存在する。新編岡崎市史によると本種の生育地は、駒立、乙川、羽根、生平、美合、保母、若松、上地など多くの地が挙げられている（大原・千賀，1985）が、現在そのほとんどが開発、環境の変化によって見られなくなっている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

日当たりのよい湿地に生える繊細な1年草。茎は細く、直立していたときに分枝し、隆起条があり、高さ6~25cm、葉は互生し、長楕円形で長さ3~8mm、上方のものは披針形で長さ14mm位になり、全縁であるが、上縁に少数の刺毛があるものもある。柄はほとんどない。花は、8~9月、紫色を帯び、長さ1~2mmで花柄がなく、細長い穂状花序につく。がく片は5個、披針形で長さ約1mm、うち2個はやや大きい。花弁は3個、下方の1個は側方のものより長く、先に房状の付属体はなく、下部は雄ずい筒と合着する。雄ずいは4個で、花糸は合着する。蒴果は扁平で腎形、径2mmばかりで縁に少刺毛がある。種子は卵形または楕円形で黒色、長さ約0.6mm。本州~九州、朝鮮南部、台湾、フィリピン、マレーシア、インド、オーストラリアに分布する（以上、佐竹ほか，1982より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.475. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.234. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.82. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 106	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 セリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ドクゼリ <i>Cicuta virosa</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

もともと市内には少ない植物で、現在大柳町、切山町に生育するが個体数もわずかである。大柳町では湿地内の水路脇に、切山町では、小さな沢の出口付近に生えている。これらの地では、このまま今の環境が維持されるとはかぎらない。毒草であるが、土地の人たちには意外に知られておらず、関心も高くない。新編岡崎市史には、旧市内の大井野町、岩中町が産地として記載されている（大原・千賀，1985）が、現在は環境が大きく変わって生育していない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

湿原に生える水生植物。地下茎は太く、節間部は中空である。茎は枝をわけ、中空で、高さ1mになる。葉は柄があり、2~3回羽状複葉で、小葉は長楕円状披針形で鋸歯があり、長さ3~8cm、幅5~20mm。6~7月頃多くの花序を出して白花を開く。がく歯片は広3角形、果実は無毛で長さ約2.5mm。北海道~九州にあり、ユーラシアに広く分布する。特に地下茎や根にシクトクシンという毒成分が多い。竹に似た太い地下茎は鑑賞用にもされる（以上、佐竹ほか，1982より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.488. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.284. 平凡社, 東京.

【関連文献】

長田武正, 1984. 検索入門野草図鑑⑥, p.68. 保育社, 大阪.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.14. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 107	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 セリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ハナウド <i>Heracleum moellendorffii</i> Hance		

【選定理由・現在の生育状況】

全国的に見れば特に希少な植物ではないが、愛知県では分布域が限られており、石巻山周辺と豊川下流部の河岸に見られるだけであった（愛知県環境調査センター, 2009）が、近年岡崎市内で河江喜久江氏によって気づかれた。そこは、青木川の堤防で、1株のみの生育である。堤防の改修など大きな負荷は注意が必要である。しかし、やや攪乱された場所に生育する植物であるので、消滅しても回復のための配慮があれば、再度生育の可能性があると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

1回開花性の多年生草本。茎は中空で太く、上部で分枝し、高さ70~100cm、通常まばらに毛がある。葉は根生または茎上に互生し、長い柄があり、葉身は3出葉か単状複葉、小葉は2~3対で卵形~広卵形、先端は鋭頭、基部は心形、浅~中裂し、長さ7~15cm、辺縁にあらい鋸歯がある。花期は5~6月、花序は複三形で枝の先端に付き、大型で直径18cmに達し、花は白色、周辺部のものは花弁が大きくなる。果実は広楕円形で長さ7~9cm、扁平で両端は浅くへこむ。本州（関東地方以西）、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009・植物編, p.558. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.290. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.32. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 108	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ツツジ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ベニドウダン <i>Enkianthus cernuus</i> (Sieb. et Zucc.) Makino f. <i>rubens</i> (Maxim.) Ohwi		

【選定理由・現在の生育状況】

市内の主な生育地は、旧額田町地区東部の切山町、千万町町である。花が紅紫色で美しく、過去に園芸採取が多くされたため、自生株がかなり少なくなった。以後採取圧が衰えても、もともと生育株が少なかったので増加には至っておらず、保護すべき状況である。

奥三河では尾根筋や岩場に群生していることが多く、ミヤマドウダンとかアカドウダンと呼ばれ、庭木としてよく植えられてきた。しかし、低地では夏の高温と乾燥に耐えられないのか、数年のうちに衰弱・枯死してしまう（小林, 2012）。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

高さ1~3mの落葉低木、若枝は無毛、葉は枝先に集まって互生し、葉柄は長さ2~4mmで無毛。葉身は倒狭卵形~倒卵形、長さ1.5~3cm、幅0.7~1.5cm、縁には先が短い毛になる細鋸歯があり、先は鈍いかとがって、先端に突起があり、下部はしだいに狭くなって葉柄に移り、表面は無毛、裏面は主脈上に細毛が散生するか、主脈の両側に褐色の縮れた軟毛が密生する。5月中旬~6月下旬、枝先から長さ3~4cmの総状花序を下垂し、5~8個の花をつける。がくは広鐘形で深く5裂し、裂片は狭三角形で先は鋭くとがり、長さ約1mm、縁に微毛のあるほかは無毛、花冠は紅紫色、広鐘形で長さ3~6mm、縁はふぞろいに細裂する。蒴果は上向きにつき。楕円形で長さ4~5mm。種子は長楕円形で長さ約2.5mmである。本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する（以上、佐竹ほか, 1989より）。

【引用文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.487. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.146. 平凡社, 東京.

【関連文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.487. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.133. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 109	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ツツジ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
カインサラサドウダン <i>Enkianthus sikokianus</i> (Palibin) Ohwi		

【選定理由・現在の生育状況】

市内では、豊川市境に近い雨山町に生育する。愛知県樹木誌（小林、2012）によれば、本種は、コアブラツツジと似た立地に生育し、分布も似ているが生育地はずっと少ない。主に東三河の豊川・天竜川流域に分布し、離れて豊田市猿投山付近にも見られる。東三河では比較的広く見られるが、中央構造線以西では、設楽町設楽の段戸山、新城市鳳来の彦坊山、豊川市豊川の西藏、豊川市御津・蒲郡市の御堂山とともに、岡崎市雨山町の自生地は注目される。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

高さ 1.5～5m の落葉低木、若枝は無毛、葉は枝先に集まって互生し、葉柄は長さ 3～10mm、縮れた長毛が散生する。葉身は倒卵状楕円形または楕円形、長さ 3～7cm、幅 1.5～3.5cm、縁に先が毛になる細鋸歯があり、下部はしだいに狭くなって葉柄に移り、表面はへこんだ主脈上に微毛があるほかは無毛、裏面は全体に褐色の縮れた毛が散生し、主脈の両側にやや密生する、5月中旬～6月中旬、枝先から長さ 4～9cm の総状花序を下垂し、8～20 個の花をつける。花柄は長さ 0.5～1.5cm、がくは広鐘形で深く 5 裂し、裂片は卵形または披針形で先は鋭くとがる、花冠は緑色を帯びた朱色、鐘形で長さ 7～8mm、5 裂し、裂片は広円形、雄ずいは 10 本、子房は 5 角形で無毛、蒴果は楕円形で長さ 5～8mm、種子は長楕円形で長さ 3～4mm、縁や側面に翼がある。本州（愛知県・三重県・和歌山県）、四国に分布する（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【引用文献】

小林元男、2012. 愛知県樹木誌, p.489. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.146. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.132. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 110	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 リンドウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
リンドウ(品種ホソバリンドウを含む) <i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buengeri</i> (Miq.) Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史には、旧市内の多くの生育地が挙げられている（大原・千賀、1985）。それらの中には、明大寺町のように完全に市街地化してしまったところも多い。旧額田町地区では、まだ生育地が見られるものの以前と比べるとかなり少なくなった。そのため、地域の人が保護しているところがある。
リンドウの 1 品種であるホソバリンドウは、湿地性の植物である。以前から市内に多いものではなかったが、酸性湿地の開発、変遷から、さらに減少してきた。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山野に生える多年草、茎は高さ 20～100cm、直立または斜上、4 条線がある。葉は対生して、卵状披針形、3 脈がいちじくしく目立ち、長さ 3～8cm、表面は緑色、裏面は淡緑色、先は長くとがり、基部は円く、縁には細かい突起があってややざらつき、柄はない。花は 9～11 月、茎頂および上部の葉腋につき、苞がある。がく筒は長さ 10～20cm、がく裂片は線状披針形で筒部よりやや長いもの短いものもある。花冠は紫色、内面に茶褐色の斑点があり、長さ 4～5cm、副片は 3 角形で小歯がある。子房の基部に 5 個の蜜腺がある。種子は紡錘形で、両端に短い尾がある。根茎と根を乾燥したものが漢方の竜胆で、薬用にされる。本州、四国、九州に分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。
歯が細く線形～線状披針形、幅 1.5～6mm で湿地に生えるものを、ホソバリンドウという（北村ほか、1957）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.495. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.31. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.221. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 111	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 リンドウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
フデリンドウ <i>Gentiana zollingeri</i> Fawc.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇菴溪谷の一部の土手に狭い範囲であるが群生する。花が咲かないと小さくてわかりにくい。道脇に生えたものは、知らずに人が踏みつけていることもある。一方、草姿が愛らしいので、園芸採取される恐れもある。

もともと市内には少ない植物である。新編岡崎市史には、旧市内の切越町、古部町が産地として挙げてある(大原・千賀, 1985)ので、2010年に確認調査をしたが見当たらなかった。よく似たハルリンドウ(本書143ページ参照)と間違えている人もいる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山野の林内に生える越年草。茎は高さ5~10cmで微細な凸起がある。葉は広卵形で長さ5~12mm、幅3~10mm、やや厚く縁は多少厚化して白色、細凸起がある。花は4~5月ごろに開き、がくは長さ12~16mm、裂片は広披針形で筒部の約2分の1長、花冠は長さ18~25mm、裂片の間には副裂片がある。蒴果は長い柄があってやや花外につき出し、種子は紡錘形で微細。日本全土、朝鮮半島、中国大陸に分布する(以上、北村ほか, 1957より)。

よく似たハルリンドウとは、根元に大きな葉(ロゼット葉)のないことで区別できる。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.495. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.220. 保育社, 大阪.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.30. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 112	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 リンドウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
イヌセンブリ <i>Swertia diluta</i> (Turcz.) Benth. et Hook. f. var. <i>tosaensis</i> (Makino) Hara		

【選定理由・現在の生育状況】

市内の自生地が、開発、谷戸田の放棄などによってなくなる中、桑谷町では近年まで、かなり多くの個体数が見られた。それは、谷戸田の階段状土手、農業用水路脇の湿った地という本種の生育適地が存在したからである。しかし、最近、土地利用・管理の変遷から大きく減少してきた。農業用水路脇は、最も豊かな生育地であったが、高茎植物の圧倒で衰退した。

本種が希少価値のある植物ということを知って、園芸採取をする人がいるのは残念なことである。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

1年生または越年生の草本。茎は直立してしばしば基部から分枝し、高さ10~30cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は倒披針形、長さ2~5cm、幅4~10mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は10~11月、花は茎の上部の枝先にまばらな円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の条があり、直径約15mm、5裂し、裂片は披針形で長さ8~10mm、基部に2個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009・植物編-, p.565.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・レッドデータブック・8植物Ⅰ(維管束植物), p.512. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.35. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.216. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 113	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 アカネ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
カギカズラ <i>Uncaria rynchophylla</i> (Miq.) Miq.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

名前のごとく見事に湾曲した刺をつけたカギカズラに鳥川町出貝津で出会った。山の道路の上をわたるように太いつるを伸ばしている。

道路の工事区域に近いので、このままでは伐採の可能性もある。そこで、2010年市内では希な植物であることを市と事業者に伝え、交通の障害にならない状態で保護をしてもらった。

市内では、村積山に若木を多く見た。桑谷山にも、生育の記録がある。県内の分布は、主に豊川流域と、離れて豊根村、瀬戸市である（小林, 2012）。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑林内に生え、太い湾曲した刺で他物にからまり、長さ10m以上になる常緑藤本、幼木を除いて茎や葉は無毛。葉は対生し、葉身は楕円形で先は鋭くとがり、長さ5~12cm、幅3~6cm、裏面はやや白みをおびる。葉柄は長さ3~15mm。托葉は節ごとに4枚、線形で先がとがる。花は6~7月。花序の柄は長さ2~3cm、先に1個の球形の花序をつける。花序は花時径約2cm。花冠は緑白色で、長さ約1cm、花喉部は開いて5裂し、裂片は狭三角形で長さ約2mm。花柱の先はこん棒状で花冠の外へ長く伸びる。蒴果は楕円形で先にかく片が残り、長さ4~5mm、幅約3mm。種子は長さ約0.5mm、両端に白色の翼がある。本州（房総半島以南）、四国、九州に分布する（以上、佐竹ほか, 1989より）。

【 引用文献 】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.544. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ, p.192. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.63. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 114	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ムラサキ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
オオルリソウ <i>Cynoglossum zeylanicum</i> (Vahl) Thunb.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

閨苧溪谷の一部の河川敷に生育する。岸近くに生え生育個体数は少ない。他の植物と混生するので、花穂を伸ばした後でないとわかりにくい。形状はオニルリソウ（本書145ページ参照）に似るが、茎や葉の毛は細くピロード状に密生する。花序は上部で2分枝し、花柄は花後に長さ約5mmであまり伸びない。閨苧溪谷ではオニルリソウに比べ生育個体数がわずかである。

山間の草地に生える越年草。オニルリソウに似ているが、短い斜めの圧毛があり、葉は両端がとがって長さ10~20cm。花序は長さ10~20cmに伸び、やや密に花をつける。花は7~8月に開き、花冠は径約4mm、淡青紫色。小花柄は短い。分果は、オニルリソウと同様にかぎ状の刺がある。本州~琉球、朝鮮、中国、東南アジア、インドに分布する（以上、佐竹ほか, 1981より）。

【 種の概要 】

山間の草地に生える越年草。オニルリソウに似ているが、短い斜めの圧毛があり、葉は両端がとがって長さ10~20cm。花序は長さ10~20cmに伸び、やや密に花をつける。花は7~8月に開き、花冠は径約4mm、淡青紫色。小花柄は短い。分果は、オニルリソウと同様にかぎ状の刺がある。本州~琉球、朝鮮、中国、東南アジア、インドに分布する（以上、佐竹ほか, 1981より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.66. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

神奈川県植物誌調査会, 2001. 神奈川県植物誌 2001, p.1180. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.200. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 115	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ムラサキ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヤマルリソウ <i>Omphalodes japonica</i> (Thunb.) Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

閨苧溪谷周辺のやや湿った斜面 2 箇所 に生育する。生育個体数は 1 箇所が 20 株、もう 1 箇所が 30 株ほどである。市内では他で見られないので貴重である。4~5 月に花序は枝を分けず、径 1cm、空色または白色に近い紫色の花をつける。このころ、花に気づいて足を止める人もいる。野生植物の花に関心を持つことは結構であるが、園芸採取が心配である。しかしながら、近年の様子を見てみると、生育地の環境変化の方が気がかりである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山の木陰や道ばたに生える多年草。根出葉はロゼット状に広がり、倒披針形で長さ 7~20cm、幅 2~5cm。茎は多数斜上し、開出した自毛が多く、高さ 7~20cm。茎葉はなかば基部が茎を抱き、上部のものほどしだいに小さくなる。花序は分枝せず、花は径約 1cm、淡青紫色で、4~5 月に開き、8~17mm の小花柄があり、花がすむと下垂し、がくは長さ 5~8mm に大きく伸びる。分果は縁が平滑で長さ約 3mm。本州（福島県以南）から九州にかけて分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.67. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.198. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 116	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
テンニンソウ <i>Leucosceptrum Japonicum</i> (Miq.) Kitam. et Murata		

【選定理由・現在の生育状況】

旧市内には見られず、旧額田町地区の東河原町と石原町に生育する。生育地は、東河原町が道ぞい林下、石原町が日当たりのよい草地である。一見異なる環境であるが、どちらも群生している。どこかに生育の適地となる要素があるにちがいない。

それと、群生地があっても、他に生育箇所が増えることがないのが不思議である。生育箇所が少ないので、市内においては、なにかの要因で絶滅の可能性があると思われる。

東河原町で、本種の花を見ようと観察をしたことがある。秋になって花穂が出てきたがそのころは葉がひどく虫に食われていた。葉が虫に食われるのは、毎年ようだ。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

落葉樹林内また山の草地に大群落をつくる多年草。茎は 4 角で草質、木化した地下茎から出て高さ 50~100cm、若い時には少し星状毛がある。葉は長楕円形~広披針形で、長さ 10~25cm、幅 3~9cm、先は鋭くとがり、鋸歯縁、基部はくさび状で短い葉柄があり、ほとんど無毛。花序の苞はすこし尾状にとがる。花は 9~10 月に開き、淡黄色。北海道から九州にかけて分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.85. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.174. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 117	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
セキヤノアキチョウジ <i>Rabdosia effusa</i> (Maxim.) Hara		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は、關荊溪谷の散策路沿いにかかなり見られたが、見かけなくなった。アキチョウジ（本書 146 ページ参照）との区別は葉でもできるが、わかりにくい。花の時期に比べるとよい。アキチョウジは幅の狭い花序をつくり、花柄は長さ 1cm 以下で細毛がある。これに対して、セキヤノアキチョウジは幅の広い花序をつくり、花柄は長さ 1~2.5cm で毛はない。この目で見えていくと、沢沿いにわずかであるが、本種を確認することができた。本種の生育する沢沿いでの工事にあたっては配慮が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山の木陰に生える多年草。全体はアキチョウジに似ているが、葉は長楕円状狭卵形で先は鋭くとがり、鋸歯がやや低く、花序は幅が広く、すなわち集散花序の花柄が細長く開出して 1~2.5cm に達して毛がなく、がくの裂片は細長い。花色は青紫色で、花期は 9~10 月。本州（関東・中部地方）に分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.79. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.164. 保育社, 大阪.
林 弥栄・畔上能力・菱山忠三郎・西田尚道 (監), 2003. 野草見分けのポイント図鑑, p.263. 講談社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 118	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ゴマノハグサ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
オオヒナノウスツボ <i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

關荊溪谷の日当たりのよい道沿いや東河原町の林道の脇などに生えている。ある程度まとまって生えているが、どこでも見られるというわけではない。旧市内では記録もないし、その姿を見かけない。本来は草丈がかなり大きくなる草本であるが、それまでに刈られてしまうことが多い。花が地味であるので、邪魔者扱いされている向きがある。植物の保護対象としては、花が美しい、形がめずらしいものに焦点が当たりがちであるが、このように目立たない植物も可能な範囲で大切にしたい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

日当たりのよい草地や林縁に生える多年草。数本の根が肥大して紡錘状になる。茎は角ばった 4 稜があり、直立して高さ 1m ほどとなる。葉は対生しやや厚く、長卵形または卵形でとがり、多くのとがった鋸歯があり、長さ 6~10cm、幅 3~5cm。8~9 月、茎の先によく分枝する円錐花序をつくり、多くの花を開く。小花柄は太く腺毛がはえ、長さ 7~11mm。がくは 5 片に深く裂け、裂片は卵形で、先がとがる。花冠は暗紅紫色で、長さ 8~9mm。仮雄ずいは扇形に横に広がる。蒴果は卵形で、長さ 6~9mm。北海道南部~九州、朝鮮に分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.100. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.153. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 119	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ゴマノハグサ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
オオヒキヨモギ <i>Siphonostegia laeta</i> S.Moore		

【選定理由・現在の生育状況】

恵田町の岩の多い道沿い斜面に生育している。生育個体数は多くないが、それでも毎年姿を見ることができるとは貴重である。この環境が本種の生育に適合しているためと思われる。本種は以前須淵町の岡崎市少年自然の家地内にも生育していたが、見られなくなった。新編岡崎市史には、産地として鉢地、安戸の記載がある（大原・千賀, 1985）が、現在は生育していない。

本種に似て葉の切れ方が深いヒキヨモギも、市内に産地の記載がある（大原・千賀, 1985）が、現在は見ることはできない。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

低地のやや乾いた草地に生える半寄生の1年草。茎は斜上して高さ30~70cm、葉とともに開出した腺毛が密に生える。葉は卵形で、大きな裂片に裂け、長さ1.5~3cm、幅1.2~2cm。8~9月、上部の葉腋ごとに1花をつける。がくは細い筒形で開出した腺毛が密生し、長さ2~2.2cm、裂片は狭披針形で、長さ5~7mm。花冠は灰黄色で長さ2.8cm、上唇は先が狭まらず切形で、2裂しない。蒴果は狭長楕円形でとがり長さ13mm、幅3mm。関東地方、中京地方、近畿・中国地方と四国の瀬戸内などの年雨量の少ない地方、中国（中南部）に分布する（以上、佐竹ほか, 1981より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.504. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.114. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.636. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.529. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.136. 保育社, 大阪.
長田武正, 1984. 検索入門野草図鑑⑤, p.173. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 120	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キツネノマゴ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ハグロソウ <i>Peristrophe japonica</i> (Thunb.) Bremek.		

【選定理由・現在の生育状況】

闊藪溪谷や本宮山西麓の木陰にはえる。暗緑色なので「葉黒草」と呼ばれる。以前はかわいい花を多く見たが、近年めっきりその数が減った。群落として生えているところがほとんどなく、道沿いに散在している感じである。その道沿いの生育数の減少も目立つ。減少率でみると、かなり大きい。何が原因かははっきりしないが、その調査はいろいろな観点から先入感にとらわれないようにしてはならない。

新編岡崎市史によれば、旧市内にはハグロソウの生育記録はない（大原・千賀, 1985）。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山林内に生える多年草。茎は方形で高さ20~50cm、葉は卵形から披針形、全縁でうすく長さ柄とともに5~10cm、幅1~3cm、両面に小さい針状結晶が多く、下面には脈に沿って粗毛がある。苞は卵形で長さ1~2.5cm、ふちに短毛がある。花は7~10月頃に開き、がくは長さ2.5~3mmで裂片は細くとがる。花冠は2唇形で筒部は細長く長さ2.5~3cm、雄ずいは2個。花柱は細長く花外につき出る。果実は長さ1~1.2cmで宿存する苞につつまれ、熟すと二片にはじけて種子を飛ばす。種子は楕円形、長さ2.5mmで細突起がある。本州（関東以西）、四国、九州、朝鮮、中国に分布する（以上、北村ほか, 1957より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, 1218pp. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.118. 保育社, 大阪.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.127. 平凡社, 東京.
長田武正, 1984. 検索入門野草図鑑⑤, p.109. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 121	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ムラサキミミカキグサ <i>Utricularia uliginosa</i> Vahl		

【選定理由・現在の生育状況】

湧水湿地の裸地状の場所や浅い水中に生育する。現在、北山湿地では比較的多く見られるが、市内では限られた地にしか生えていない。

しかし、以前は、新編岡崎市史によれば、旧市内だけでも7ヶ所の生育地があった(大原・千賀, 1985)。

本種は、類種のみみかきぐさ(本書149ページ参照)やホザキノミミカキグサ(本書150ページ参照)に比べればもともとかなり少なく、しかも近年の夏の高湿乾燥傾向によって、これら2種以上に大きな影響を受けている。保護には、湿地の水収支の回復や湿地の縮小防止を図ることが必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫のうをつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて2～3mmのものから3cmを越すものまでである。花期は8～9月、花茎は直立し、高さ5～15cm、上部に1～4花をつけ、花には長さ2～8mmの花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に2～3mm、膜質、花後4～5mmに伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ3～6mm、距は長さ2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。日本(北海道、本州、四国、九州)から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.506. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.581.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.138. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.121. 保育社, 大阪.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.532. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 122	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キキョウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
キキョウ <i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A.DC.		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史には、旧市内だけで10ヶ所以上の自生地が記載されている(大原・千賀, 1985)。しかし、現在では、そのほとんどが見ることができなくなってしまった。その一部が自然保護活動のボランティアで守られているという状況である。

これに対して旧額田町地区では、以前より減少したもののその姿を見かけることがある。旧額田町地区南部のため池の土手には、株数が少ないものの生育している。近くを通る時立ち寄って、その存在に安堵している。旧額田町地区北部の谷戸田の土手には、かなり株数が生える生育地がある。近年、園芸採取をする人もいるので気がかりである。このような草地に生える草本は、適度な草刈が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

多年生草本。根茎は太い。茎は直立し、高さ50～100cmになる。葉は茎の下部では対生または3輪生、上部では少しずれて互生し、無柄または短い柄があり、葉身は狭卵形、長さ4～7cm、幅1.5～4cm、先端は鋭頭、辺縁に小さい鋭鋸歯があり、表面は無毛、裏面は短毛があつて粉白色をおびる。花期は7～8月、茎の先端部に1～数個の花をつけ、花冠は青紫色で広鐘形、先は4～5裂し、直径4～5cmである。雄ずいは5個で、雌ずいより先に熟す。北海道、本州、四国、九州、琉球、朝鮮半島、中国大陸、ウスリーに分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.512. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.586.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.149. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.91. 保育社, 大阪.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物), p.538. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 123	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
エンシュウハグマ <i>Ainsliaea dissecta</i> Franch. et Sav.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闊苧溪谷上部の木影に主に生えているが、道沿いの斜面に見られることもある。木陰の群生しているものは、ほとんど小型である。典型的なエンシュウハグマは、キッコウハグマに似てやや大きく、葉が 3~5 裂し、列片はさらに 2~3 中裂する。秋になると、小型の株も愛らしい花をつける。そのころになると、カメラマンが花を撮影に訪れる。熱心に生育地を見て周り、どこにどのような株があるか、しっかり把握している人もいる。分布が限られていている植物だけに、人々の関心が高い。そこで、このような要素を考慮して、絶滅危惧種として選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の乾いた木陰に生える。地下茎ははう。茎は高さ 10~33cm。葉は茎の中部以下にやや輪状に多数つき、葉柄は長さ 2.5~8.5cm、葉身は外まわりは円形、長さ 2.3~6.5cm、基部は心形、掌状に 3~5 深裂し、裂片はさらに中裂するか、または鋸歯がある。花は 9~10 月、頭花は総状または複総状につき、径 8mm、花柄 3~4mm、卵形の苞を多数付ける。総包は長さ 10mm、小花は 3 個、花冠は白色、長さ 14mm、筒部は 6.5mm、そう果は無毛。冠毛は長さ 8mm。静岡県と愛知県に分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.208. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.20. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 124	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヒメガンクビソウ <i>Carpesium rosulatum</i> Miq.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闊苧溪谷で植物を観察していたところ、やせたサジガンクビソウのようなものに出合った。よく調べてみるとヒメガンクビソウであった。今まで市内では知られていない植物である。株数は 10 株ほどである。その後、闊苧溪谷の他の場所で調べてみた。一度、見つけると案外他でも気づくことが多いからである。しかし、追加の発見はなかった。そこで、多くの人には、馴染みのない植物と思われるが、本種を岡崎市の絶滅危惧種に選定した。本種は、岡崎市の近接地でも少ないようである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

やや乾いた山林内に生える多年草。サジガンクビソウに似ているが、全体が小さい。茎は細く高さ 15~45cm、軟毛を密生し、上部で枝を分ける。根出葉はロゼット状、さじ形で、不ぞろいな鋸歯があり、茎葉は少なくまばらにつく。8~10 月、枝先に點頭する頭花をつける。総包は筒鐘形で長さ 6.5mm、片は 3 列で、外片は短く、卵形で、反り返る。そう果は長さ 3.5mm。暖帯に生育し、本州（関東地方以西）~九州、朝鮮（済州島）に分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.202. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.71. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 125	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ミズギク <i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

記録の上では岡崎市の旧市内、旧額田町地区の湧水湿地から多くの生育が報告されている(大原・千賀, 1985)。しかし、近年は、そのほとんどが見られなくなっている。主に丘陵地の開発による湿地の破壊が原因である。池金町の北山湿地は、本種が現在でも見られる貴重な場所である。ここでも、生育個体数は以前より減少している。その要因の一つとして、湿地の乾燥化が考えられる。湿地保護の会のボランティアなどにより、湿地に流入する水路の水位を上げたり、周囲の樹木を伐採したりする作業をして、湿地の乾燥化を防いでいる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

多年生草本。茎は直立し、上部で多少分枝し、高さ 25~50cm になる。根出葉は花時にも残存し、さじ形、長さ 4~10cm、幅 8~15mm、はじめ毛が多く、全縁である。茎葉は互生し、全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6~10 月、頭花は枝の先端に 1 個、上向きにつき、黄色、直径 3~4cm である。総苞は半球形、総苞片はほぼ同長、外片は狭長楕円形で、密に毛がある。そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面にはまばらに毛がある。本州(近畿地方以東)、九州(宮崎県)に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.517. 新編岡崎市史編さん委員会.
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.589.
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.203. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.69. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 126	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
カシワバハグマ <i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Beauv.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

「闇菟溪谷の植物」(大原, 1964)には、本種が闇菟溪谷に自生していることが記載されている、かなり多くの株が生育していたと思われる。しかし、現時点では、少なくとも散策路沿いに見かけることはない。現在、旧市内で生育が見られる所がある。それは、村積山の麓である。株数は少ないが、小さな沢沿いの樹下に生えているのが、貴重である。

ここが神社の脇で、自然の植生が改変されなってきたことが幸いしたと思われる。逆に近年、神社の境内の整備の折、周囲の植生が大きく変化してしまうことがある。特に希少種でなくても、できるかぎり、その地における要配慮種の保護を考慮したいものである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の乾いた木陰に生える多年草で、地下茎は横に這い、結節がある。茎は硬くて直立し高さ 30~70cm で分岐せず、上方にわずかに毛がある。葉は茎の中央部にやや集まり、柄があり卵状長楕円形、長さ 10~20cm、縁にあらい歯牙があり、両面と縁に毛がある。花は、9~11 月、頭花は穂状につき、総苞は長さ 17~27mm で片方は扁円形、内に 10 個ほどの小花があり、花床は小穴があり、小穴の縁に細網を密生する。そう果は長さ 10mm ほどで、冠毛は褐色を帯び、毛の長さは不ぞろいである。本州~九州に分布する(以上、佐竹ほか, 1981 より)。

【 引用文献 】

大原準之助, 1964. 闇菟溪谷の植物, 71pp. 愛知県額田郡額田町役場.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.209. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.519. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.19. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 127	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
サワギク <i>Senecio nikoensis</i> Miq.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

木下町の湿り気のある林道に見られる。主な生育地は、あまり離れていない林道脇の2か所と林道のカーブを短くつなぐ連絡路上である。わずかであるが、道沿いの草地に混生しているものもある。生育密度は、林道のカーブをつなぐ連絡路上が最も高い。通行する車や人が少なく、路面があまり踏み固められていないためと思われる。草丈の高いものが多いのも同じ理由で、同様な場所である。本種は、市内では木下町の一部に生育するのみで、生育個体数も少ないため、絶滅危惧Ⅱ類に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の木陰に生えるやわらかい多年草、茎は高さ35~100cm位、根出葉は密に白毛があるが、花時にはない。茎葉は薄くて、両面はまばらに毛があり、羽状に深裂する。頭花は6~8月、枝の先にやや散状に多数つき、径12mm、柄は細く、苞はない、総苞は長さ5mm、舌状花冠は長さ8mm、幅1mm、そう果は長さ1.5mm、細毛がある。冠毛は雪白色、そう果が散布する頃、多数の冠毛が寄り集まってぼろくずのように見えるのでボロギクともいう。主に温帯に生育し、北海道から九州に分布する（以上、佐竹ほか、1981より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.181. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.44. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 128	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
サワオグルマ <i>Senecio pierotii</i> Miq.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

新編岡崎市史には、旧市内の9か所の本種の自生地が記載されている（大原・千賀, 1985）が、そのほとんどが、開発、環境改変で絶滅した。本種は、谷戸田の奥に生えることが多い。地形そのものが変化しなくても、樹木の生長やネザサの繁茂による光不足が大きな阻害要因となる。羽栗町の自生地は、こうした光不足が要因となって絶滅した例である。北山湿地では、近年までかなり多くの生育個体数と安定した生育が見られたが、現時点では衰退してきた。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山間の湿地に生える多年草、時に群生する。茎は太くてやわらかく、中空で直立し、高さ50~80cmとなり、葉とともに白いくも毛がある。葉はやや厚く、根出葉は多数、ロゼット状で柄があり、狭長楕円形また披針形、長さ12~25cm、幅1.5~7cm、鈍頭、縁には微凸歯があるか、やや全縁、両面ともはじめ密にくも毛があるが、のちに無毛となる。茎葉は卵状披針形、鋭尖頭、基部は広く茎を抱く。花は4~6月。頭花は径3.5~5cm、6~30個が散房状またはやや散状につく。花柄は3~8cm。総苞は長さ7~8.5mm。舌状花冠は長さ11~16mm、幅2mm、そう果は4mm、冠毛は花後伸びて9~13mmになる。温帯~亜熱帯に生育し、本州~琉球に分布する（以上、佐竹ほか、1981より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.520. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.182. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.45. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 129	種子植物 被子植物 単子葉 ヒルムシロ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
イトモ <i>Potamogeton pusillus</i> L.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

千万町町(2か所)、切山町のため池に自生する。これらのため池は、種の生育を阻害する生活排水、汚染物質が流入する可能性がほとんどない。本種は、池沼や水路に生育するが、愛知県の生育地は、ほとんどが丘陵地のため池である。ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモ、あるいはそれらとヤナギモの雑種と混同されていることが多く、あちこちで記録されているが、実際の生育地は少ない(愛知県環境調査センター, 2009)。現在本種が生育しているため池を現状のまま維持するだけでなく、良好な状態のため池をできるだけ多く保全することが必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

【 種の概要 】

沈水性の多年生草本。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は狭線形、長さ 2~5cm、幅 0.7~1.5mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、1~3 脈があり、基部は葉鞘と異なる。花期は 6~8 月、花茎は長さ 1~2cm、花序は穂状で、長さ 3~5mm である。花は両性、4 個の心皮がある。果実は広卵形、長さ約 2~2.5mm である。殖芽は秋に枝の先端につき、長さ 1.5~2.5cm、ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモのものに比べてかなり大きく、中軸はやや太くなる。国内では北海道、本州、九州(北部)に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.596. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.523. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.12. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.416. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.44. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 130	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
アマナ <i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda		

【 選定理由・現在の生育状況 】

もともと市内に少ない植物である。新編岡崎市史に岡崎公園、戸崎町の記録がある(大原・千賀, 1985)が、現在は見られない。現在自生地として確認されているのは、旧額田町地区鍛埜町の水路沿いの草地である。他の草本と混生しており、競合関係にあると考えられる。丈の高い草本が繁茂すれば、滅びてしまうかもしれないが、今まで何とか生き残ってきたのは、それ相応の理由があるのだろう。開花期の終わりに観察に行ったら、草刈りの後で本種は花が刈り取られ、葉も短く刈られていた。一見、本種にとっては不都合な姿に思えたが、それでも経年生きている。本種は、生育地、生育個体数ともに少ないため、絶滅危惧Ⅱ類に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

野原に生える多年草。外皮鱗茎は広卵形で長さ 3~4cm。葉は線形で 2 個、花茎は下部につき、それ以下は地中にあるので根出葉のように見える。花茎は高さ 15~20cm、先に 1 花がつく。花は 3 月~5 月、日光を受けて開く。花被片は 6 個、白色で暗紫色の脈があり、披針形で長さ 20~25mm である。本州(福島県以南・石川県以西)・四国・九州・奄美大島、朝鮮・中国(東北)に分布する。鱗茎は甘味があるので甘菜といわれ、食用になる(以上、佐竹ほか, 1982 より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.549. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.38. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.119. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 131	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
シライトソウ <i>Chionographis japonica</i> Maxim.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

市域全体で見ると、生育地・生育個体数ともに減少してきている。須淵町では、一方は溪流脇に、もう一方は林下の斜面にと 2 か所の生育地があるが、生育個体数は以前に比べて少なくなっている。旧額田町地区の中金町の暗い溪流脇には、少数株が生育する。本種は、ある程度日陰の状態を好むようであるが、このように暗い場所では、いつまで生育が継続するか懸念される。5～6月の花期には、白い花穂が美しいので、園芸採取の対象となりやすい。過去に、園芸採取が繰り返されて、絶滅した自生地がある。このように人目を引きやすい種は、保護対象とするのが望ましい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の林中に生える多年草。根出葉はロゼット状に出て、長楕円形または倒披針形で、長さ 3～14cm、先はやや鈍く、下部はしだいに狭くなって柄になり、縁は細かい波状になる。花茎は高さ 15～50cm、線形または披針形の葉がある。5～6月、花茎の頂に穂状花序がつく。花序は長さ 5～20cm で、多数の花が下から順に咲く。上方の花被片は長さ 7～12mm で、先は明らかに太い。種子は長楕円形で長さ 2～3mm、一端に尾がある。本州（秋田県以南）～九州、朝鮮南部に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.27. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.547. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.153. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 132	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ノカンゾウ <i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>longituba</i> (Miq.) Maxim.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は、市域の水田脇の草地や空き地の所々に大群落が見られたが、しだいに減少して現在は、大群落は見られなくなった。過去に大群落があった所では、現在わずかに生育している所と全く見られなくなった所があるが、旧額田町地区で目にする事が多い。旧市内と旧額田町地区と比較すると、旧市内の方が、減少率が高い。過去と現在と比較した場合の減少率の大きさから、本種を絶滅危惧Ⅱ類に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

水路の縁や野原に生える多年草。根茎は長くは、根に時にふくらみがある。葉は長さ 50～70cm、幅 10～15mm。花茎は高さ 50～70cm、上部に小型の苞がつく。花は 7～8月、花序は 2分してそれぞれに 10 花内外が開く。花被片は橙赤色でほとんど同形、長さ 7～8cm、先はやや反りかえる。花筒は長さ 2～4cm あって他種よりはるかに長いのが特徴である。結実することは少ない。本州～琉球、中国（本土・台湾）に分布する。原野に多いのでノカンゾウという（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.31. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.548. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.141. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 133	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
コオニユリ <i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. var. <i>maximowiczii</i> (Regel) Baker		

【選定理由・現在の生育状況】

海岸から山地まで幅広く生育するが、本市の場合、湿地周辺、湿地状地、水路脇に生える。その例として夏山町の湿地状地や外山町の農業水路脇には、かなり多くの個体が見られる。しかしながら、市域全体では、湿地、湿地状地の減少、水路の改修にともなって、少なくなってきた。駒立町の例では、乾燥化したためにネザサが入り込み、本種が見られなくなった。そのほか農耕地に近い株は、刈り取られることがある。現存する自生地もいつまでその状態が保たれるか懸念される状態である。自生地、生育個体数の減少傾向をふまえて、絶滅危惧Ⅱ類に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地や草原に生える多年草である。オニユリに似ているが、鱗茎は小さく、白色で苦味がない。長いふく枝を引き、葉腋に球芽がなく、花は小型で、花柱は子房より長く、花つきはやや少なく、よく結実する。花期は7～9月である。北海道～九州、朝鮮、中国（東北）、ウスリーに分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.41. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.549. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.130. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 134	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
オオナルコユリ <i>Polygonatum macranthum</i> (Maxim.) Koidz.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇苧溪谷の一部に生えるが、生育個体数は少ない。大きな集団はなく、一集団数株以下である。生えている場所は、崖や斜面である。本種は、ナルコユリに比べて茎葉や花が大きく、目立つ。そのため、園芸目的での採取が懸念される。市内では、生育地が限られ、個体数の減少傾向が見られるため、絶滅危惧Ⅱ類に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地に生える多年草、ナルコユリに比べすべて大型で、茎は高さ60～130cm、葉は長さ15～30cmになる。花は5～7月、葉腋に2～4個ついて下垂する。花筒は長さ2.5～3.5cm、花糸は長さ7～10mmである。ヤマナルコユリ、オオナルコユリともいう。北海道～九州に分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.46. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.524. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.111. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 135	種子植物 被子植物 単子葉 アヤメ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ノハナショウブ <i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai		

【 選定理由・現在の生育状況 】

過去には旧市域、旧額田町地区ともに多くの自生地が存在したが、現在その大部分は消滅した。その要因は、湿地の減少である。生育地が比較的現存するのは、切山町、外山町などの旧額田町地区である。しかしながら、生育状態は概してまばらである。旧市内では、例外的に大柳町の湿地に多く見られる。この湿地では、本来のノハナショウブ生育地の状況を呈している。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山野の草原や湿原に生える多年草で、分枝する根茎に褐色の多くの繊維がある。葉は剣状で、長さ 30~60cm、幅 5~12mm、太い中脈が目立つ。6~7 月、高さ 40~80cm の花茎が立ち、頂部に数個の苞があり、その中から数個の花をつぎつぎに開く。花は赤紫色で径約 10cm。外花被片は楕円形で先が垂れ、中央から基部の爪にかけては黄色である。内花被片は狭長楕円形で直立し、長さ 4cm 内外、花柱分枝の先は 2 裂し、裂片はほぼ全縁である。北海道~九州、朝鮮・中国（東北）・シベリア東部に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.61. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.552. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.77. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 136	種子植物 被子植物 単子葉 ヒナノシャクジョウ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヒナノシャクジョウ <i>Burmannia championii</i> Thwait.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

北山湿地の主に林下に生育しているが、時には湿地の木道の下など湿気のある裸地にも見られる。限られた地域に生え、小型で見つけにくい植物なのでいねいに調査する必要がある。湿地保護の会の経年の調査によって分布域がはっきりしてきた。その結果、保護活動がしやすくなった。里山の森林化は、多くの植物にとって阻害因子であるが、本種にとってはむしろ好都合である。新編岡崎市史には、桑谷山、切越にも見られたことが記載されている（大原・千賀、1985）。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【 種の概要 】

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3~8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2~4mm である。花期は 8~10 月、花は茎の先端に 2~10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6~10mm、裂片は 3 角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカに分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.445.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.63. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.70. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 137	種子植物 被子植物 単子葉 イネ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヒナザサ <i>Coelachne japonica</i> Hack.		

【選定理由・現在の生育状況】

丘陵地の生活排水が入らないようなため池内の周囲に生える。そのため、生育できるため池は限定されている。竜泉寺町のため池では、浅い水中から池の周囲にかけての一部に生えている。1年草であるが毎年、ほぼ同じ区画に見られる。しかし、毎年生育する個体数に増減があり、減少が危惧される。池金町のため池では、水流入部に群生したことがあるが、生育が不安定で、ほとんど見られない年もある。本種の保護のためには、ため池の水がきれいである常に良好な状態に保たれることが必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

小型の1年生草本。稈は細く、基部は横にはって分枝し、先は立ち上がって高さ5~20cm、節に短い毛がある。葉は互生し、葉身は披針形、長さ1~3cm、幅3~6mm、先端はとがり、基部は円形、両面とも無毛、葉鞘は節間より短く、ほとんど無毛、葉舌はない。花期は8~10月、花序は小さい円錐状で長さ1.5~3cm、枝は短く、4~20個の小穂がつく。小穂は長さ約2.5mm、淡緑色、1個の両性小花、または1個の両性小花と1個の雌性小花からなり、芒はない。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.448. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.97. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.339. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 138	種子植物 被子植物 単子葉 イネ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ウラハグサ <i>Hakonechloa macra</i> (Munro) Makino ex Honda		

【選定理由・現在の生育状況】

闊苧溪谷の湿った散策路沿いの崖に少数株が生育する。本種は、中央構造線の外帯（神奈川県から和歌山の太平洋側）に分布すると言われているが、この生育地は、わずかであるが中央構造線の内帯になり、分布上、注目される。茎は、細いが硬く多くは崖下に垂れ、白っぽい裏面が上になる。茎が上向きに伸びる時は、葉の付け根からよじれて裏が表になる。そのため「裏葉草」の名がある。園芸家の間では、フウチソウ（風知草）と呼ばれ、盆栽などに用いられる、その関係で、関心をもって見る人もある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

茎よく伸長して、斜上または垂れ下がり、長さ40~70cmになる。葉は広線形で、ゆるく内曲し、表面は粉白色、裏面は脈が隆起し、緑色で光沢を帯び、基部でねじれて、表面が下方に向き、表裏が反転する。（裏葉草の名はこれによる。）円錐花序は卵形で、開出し、長さ5~10cm、小穂は長さ1~2cm。花は8~10月。本州（関東西部~東海地方・紀伊半島）の特産で、山地に生え、観賞用に栽培される（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.106. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.339. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 139	種子植物 被子植物 単子葉 サトイモ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ムロウマムシグサ <i>Arisaema kishidae</i> Makino ex Nakai		

【選定理由・現在の生育状況】

闊苧溪谷の散策路沿いや谷間に生育する。所々で群落をつくっている。散策路沿いの株が傷められていることがあるが、少しであれば復活する。谷間の株は、散策路に生えている株より大きい傾向が見られる。市内には、他に生育している所はない。レッドデータブックあいち 2009 植物編では、本市の群落は、新城市、豊川市の群落とまとめて1つの生育地とされている（愛知県環境調査センター, 2009）。分布域の限られた植物であり、その保護のためには生育地の自然環境を全体として守ることが必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は2個、第1葉の葉鞘は長さ10~35cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は5~9、葉軸はあまり長くならず、小葉は楕円形~長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の細鋸歯がある。花期は4~5月、仏炎苞は葉よりやや早く開き、雄株では葉より高い位置、雌株では葉と同じ位置につき、淡赤褐色~赤褐色、やや半透明状、筒部は長さ4~5cm、口辺は狭く開出し、舷部は先端が長く伸びて、全長10~25cmになる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は円柱状、先端は直径3~6mmである。日本固有種で、本州（東海地方西部、近畿地方）に生育する（以上、愛知県環境調査センター, 2009より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.463. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.133. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.204. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 140	種子植物 被子植物 単子葉 カヤツリグサ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
マシカクイ <i>Eleocharis tetraquetra</i> Nees		

【選定理由・現在の生育状況】

千万町町の湿地に生育する。ここでは他の湿性植物と混生していて、生育量はわずかである。生育場所は、かなり水分の多い所である。鹿勝川町にある堰堤のため池縁にも類似の植物が生育するが、はっきりしない。本種は、湿地の遷移の進行で失われる可能性が大きい。レッドデータブックあいち 2009 植物編では、市外の生育地として藤岡、豊田北西部が記載されている（愛知県環境調査センター, 2009）。県内でも分布地が限られている種である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生草本。地下茎は短く、淡褐色の鱗片で被われた匍匐枝を出す。地上茎は束生し、高さ60~100cm、直径1~2mm、鋭い4稜がある。葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、淡緑色ないし褐色である。花期は9~10月、小穂は茎の先端に1個つき、卵状長楕円形、やや一方に傾き、長さ10~18mm、直径3~6mmである。鱗片は長楕円形、鈍頭、緑色の中肋と濃褐色の辺縁部の対比が著しい。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ1.5~2mm、柱基は果実より小さく、刺針状花被片は6個で、やや長い逆向きの小刺が密生する。本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球、台湾、中国大陸、マレーシア、インド、オーストラリアに分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.477. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.172. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.228. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 141	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
エビネ <i>Calanthe discolor</i> Lindl.		

【選定理由・現在の生育状況】

以前は、丘陵地の二次林や藪に普通に見られる植物であったが、エビネブームで乱獲され、激減した。減少の要因は開発にもあった。現在では、一時の熱狂的ブームは去ったが、園芸目的の採取圧は依然と高く、見つければすぐに掘り取られるという状態は続いている。もともとは普通種であったため、現在、見られるものは目につきにくい場所に残存しているものがほとんどである。したがって、分布情報の公表に当たって慎重な配慮が必要である。そして、自然物は、公の資産であるという意識をできるだけ多くの人に持ってもらいたいものである。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

多年生草本。茎は高さ 30~45cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 2~3 個つき、長楕円形、長さ 15~25cm、幅 5~8cm、先端は鋭頭、無毛、このほか茎上に 1~2 個の鱗片葉がつく。花期は 4~5 月、花は茎の上部にややまばらに 8~15 個つき、通常紫褐色、苞は披針形、長さ 3~6mm で、膜質である。がく片は狭卵形、長さ 15~20mm、幅 4~5mm、側花弁はがく片よりやや幅が狭い。唇弁は扇形で 3 深裂し、幅 14~18mm、帯紅色または白色、中裂片はくさび形で先端は 2 裂し、うね状の条が 3 本ある。北海道（南部）、本州、四国、九州、琉球、済州島に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.620. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.224. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.55. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 142	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
キンラン <i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume		

【選定理由・現在の生育状況】

明るい落葉樹林内に生育する。以前は、多くの開花株が見られたが林の遷移が進行し、暗くなったため減少した。また、花が黄色で目立つため、乱獲され激減した。園芸目的の採取を防ぐため、分布情報の公表に当たって慎重な配慮が必要である。自然物は、公の資産であるという意識をできるだけ多くの人に持ってもらいたいものである。秦梨小学校の児童は、本種の保護活動として、経年自生地の下草刈りや樹木の枝切りを行い、生育株数を増やしている。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~70cm になる。葉は 6~8 個が互生し、広披針形、長さ 8~15cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 4~6 月、花は茎の上部に 3~12 個つき、黄色、苞は 3 角形で長さ約 2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ 14~17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は 3 角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.621. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
環境庁自然保護局野生生物課（編）, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物), p.612. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.207. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.29. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 143	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
カキラン <i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は谷間や湿った草原に密生しているところをよく見たが、近年は限られた地にしか見られなくなった。土地の状況が大きく変化したところは当然であるが、北山湿地のやなが沢池の周囲のように一見あまり変化のない場合でも、姿を消したところがある。過去の自生地を調べても、現在は生育していないのがむしろふつうである。その中で小呂湿地では、湿り気のある草地に群生しており、代表的な自生地である。湿地保護の会による被圧植物の除去が効果を及ぼしたと思われる。特に保護活動の対象になっていない大柳町の自生地の状況は、高さ 2m 程の湿った崖の所々に生えている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

日当たりのよい湿地に生える。根茎は横にはい、節から根を出す。茎は高さ 30~70cm、平滑、基部は紫色を帯び、少数の鞘状葉に包まれる。葉は 5~10 枚つき、狭卵形で長さ 7~12cm、幅 2~4cm、いちじるしい縦脈があり、基部は短い鞘となり茎を抱く。6~8 月、黄褐色の 10 個あまりの花がつく。がく片は狭長卵形で鋭頭、長さ 12~15mm、側花弁は卵形で鋭頭、がく片とほぼ同長。唇弁は側花弁と同長。北海道~九州、朝鮮・中国（東北）・ウスリーに分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.208. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.30. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 144	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ツチアケビ <i>Galeola septentrionalis</i> Reichb.f.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

過去には旧市内にも見られたことがある（大原・千賀, 1985）が、近年は、旧額田町地区の東河原町や石原町の落葉樹林下にわずかに見られるのみである。多年草であるが、菌根生のため、生育株数が不安定に変動する。葉緑体をもたず、全草褐色を帯びた腐生植物で、根茎は粗大で地中をはい、茎は直立して 50~100cm になり、鱗片葉を散生する。上部は、大きな円錐花序となり、人目につきやすくなる。果実は、下垂し、長楕円形になり、肉質で赤色に熟し、裂開しない。果実がウイナーソーセージのようで、非常に目立つ。市内での確認は、この時期のものである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

落葉樹林下またはササの群落中に生える。全体に褐色で、根茎は太く、横に長くはい、大型の鱗片葉をつける。地状茎は高さ 50~100cm、まばらに分枝し、複総状花序となり、上部は花柄、子房とともに褐色の短毛がある。6~7 月、多数花をつける。花は黄褐色で半開、がく片、側花片は長楕円形で、長さ 15~20mm、唇弁は広卵形、肉質、がく片より少し短く、縁は細かく分裂し、内面にはときか状の線条がある。秋に赤熟するが、ときに黄色で終わるものがある。北海道（札幌以南）~九州に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.554. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.206. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.24. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 145	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
アキザキヤツシロラン <i>Gastrodia verrucosa</i> Blume		

【選定理由・現在の生育状況】

現在、丸山町の乙川沿いのマダケ林下に生育するのが見つけられている。生育場所は、川の増水時に水が侵入しない所である。生育個体数は、30株を超えている。今まで県下には、渥美半島と豊橋市以外には確認されていなかった植物である（愛知県環境調査センター，2009）。花時には、地表近くに黒褐色の花をつけるため、ほとんど発見することができない。2011年の安達史幸氏による発見も、柄が30cmほどに長く伸びた果期におけるものであった。現時点では、生育個体数が少なく、生育地が限られた植物と思われるが、里山の森林化により増加傾向にあるのかもしれない。今後の増減の見極めにより、配慮の仕方が変わってくる可能性もある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【種の概要】

腐生の多年生草本。根茎は長さ2.5~5cm、直径4~10mmの紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から1本出て、高さ5~12cm、数個の膜質の鱗片葉をつける。花期は9月下旬~10月、茎の先端部に黒褐色の花を2~6個つける。苞は卵形、長さ3~6mmである。花は3がく片が合着して長さ10~12mmの鐘状になり、花柄は花時には長さ1cm以下であるが、花後著しく伸長して30~45cmに達する。果実は晩秋に熟し、細長い楕円形、長さ2~3.5cm、直径7~8mm、暗黄褐色である。日本の本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球、小笠原からマレーシアにかけて分布する（以上、愛知県環境調査センター，2009より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.489. 愛知県環境部自然環境課，名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.204. 平凡社，東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫，1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.27. 保育社，大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 146	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
サギソウ <i>Habenaria radiata</i> (Thunb.) Spreng.		

【選定理由・現在の生育状況】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。過去には多くの生育地があった（大原・千賀，1985）が、現在はその一部しか残存していない。美しい花をつけるので、園芸目的で多量に採取されたのと開発のためである。

現存しているのは、人目につきにくい自生地と小呂湿地のように保護活動が行われている所である。人目につきにくい所もある程度の採取がされているため、生育個体数がわずかであるのが普通である。過去と比べて、減少率の大きい植物である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

多年生草本。地下に走出枝があり、その先端に楕円形で長さ7~15mmの球茎をつける。茎は直立し、高さ15~40cmになる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて3~5個が互生し、葉身は広線形、長さ5~10cm、幅3~6mm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は7~8月、花は茎の先端に1~3個つき、直径約3cmで白色、苞は卵状披針形、長さ約5mmである。がく片は緑色、広卵形または斜卵形、長さ約8mm、側花弁は白色で斜卵形、背がく片と並んで立ち、下部外縁に鋸歯がある。唇弁は大きく3深裂し、中裂片は披針形、側裂片は側方に開出して斜扇形、辺縁は深く細裂する。距は斜めに下垂し、長さ3~4cmである。本州、四国、九州、日本、台湾、朝鮮半島に分布する（以上、愛知県環境調査センター，2009より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.554. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.492. 愛知県環境部自然環境課，名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫（編），1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.193. 平凡社，東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫，1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.7. 保育社，大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 147	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ムヨウラン <i>Lecanorchis japonica</i> Blume		

【選定理由・現在の生育状況】

市内に生育するムヨウラン類は、エンシュウムヨウランがほとんどであるが、ムヨウランもわずかに生育する。北山湿地周辺は、その生育地の一例である。本種は、無葉の多年生の腐生植物で、花期を過ぎると黒褐色を帯びた独特の形態になるため、近年関心を持つ人が増えた。なかには採取する人もいるので、憂慮される。本種は丘陵地の常緑広葉樹、または落葉広葉樹の二次林内に生育する。その保護には森林の保全が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑広葉樹林下に生える。茎は高さ 30~40cm、毛はなく、数個の鞘状葉をまばらにつける。花期は 5~6 月で、花は数個つき、長さ約 2cm、筒状で平開しない。花被片は倒披針形、唇弁も倒披針形で先端は 3 裂し、中裂片の内面には長毛が散生する。本州（東北地方南部以南）・四国・九州に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.206. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.554. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.28. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 148	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ヨウラクラン <i>Oberonia japonica</i> (Maxim.) Makino		

【選定理由・現在の生育状況】

生育地は、旧市内 1 か所、旧額田町地区 2 か所が確認されている、いずれも神社の境内の樹木に着生したものである。特に着生の樹種は選ばず、樹幹や横枝に一塊となって着生している。日なたでは、葉は短く黄ばんで小さな塊にしかならないが、日陰では緑色の長い葉になり、群生することも多い。5 月ごろ、葉の間から新芽が伸び出し、年に 3~6 枚の葉を展開する。そして、糸のような細い根を伸ばして樹木に着生する。台風などで強風が吹いた後は、地上に株が落下することがある。落下する株数からみても、近年は、以前に比べて、生育個体数が減少してきていると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

樹幹または岩上に着生する。茎は長さ 1~4cm で束生し、下垂する。葉は 4~10 個、袴状で左右から扁平、2 列に互生し、長さ 1~3cm、幅 2~5mm、急鋭頭、4~6 月、茎頂に長さ 2~8cm の花序をつけ、淡黄褐色の小花を多数、密に輪生する。苞は卵状披針形で膜質、長さ 0.5~2mm、鋭尖頭、がく片は広卵形、鈍頭、長さ 0.5mm、側花弁は卵形、がく片よりわずかに短い。唇弁は倒卵円形で先端が 3 裂し、中裂片はさらに 3 裂するが、中央の裂片は短い。本州（宮城県以南）~琉球に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.221. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.44. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 149	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
コバノ トンボソウ <i>Platanthera nipponica</i> Makino		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は多くの湿地に生えていた(大原・千賀, 1985)が、開発、環境の変化によってほとんど見られなくなった。北山湿地では、現在も A 湿地に生育することは貴重である。湿地内に散生する落葉種で、地下茎はひも状で、繊細な姿である。茎は細く、中ほどに小さな葉を 1 枚つける。7 月ごろ、約 15cm の細い花茎の先に、緑色の花をまばらにつける。本種は多年草であるので、湿地全体の保全とともに、個体としての保護も大切である。A 湿地に本種が生育しているという認識が、よりよい保護活動へつながると思う。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

日当たりのよい湿った草原に生える。茎は肥厚する根から出て直立し、高さ 20~40cm、きわめて繊細である。葉は 1 個で、広線形、長さ 3~7cm、幅 3~10mm、基部は茎を抱く。鱗片葉は披針形、茎にへばりつくようにつくので目立たない。6~8 月、淡黄緑色の小花を数個、偏側性につける。苞は披針形。背がく片は卵形、長さ 2~2.5mm。側がく片は長楕円形、側花弁は斜長楕円形、ともに背がく片より少し長い。唇弁は舌状、やや肉質で長さ 2.5~4mm。距は長さ 12~18mm と長く、後方にはね上がる。北海道~九州に分布する(以上、佐竹ほか, 1982 より)。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.198. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.21. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 150	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
ナガバノ キソチドリ <i>Platanthera ophrydioides</i> Fr.Schm. var. <i>australis</i> Ohwi		

【 選定理由・現在の生育状況 】

生育地は閨荊溪谷の 1 か所のみである。ここでは、湿り気が多い崖下の狭い範囲に生育している。生育個体数も多くない。本来は、山の木陰に生えることの多い植物である。本種は、キソチドリの葉の細長い品種であり、分布上貴重である。しかしながら、このような植物は、ともすると、関心をもたれる一方、採取される恐れがある。したがって、その分布の位置情報については、状況に応じた配慮が必要である。特に、本種のように人目にふれやすい場所にある場合には、要注意である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

樹林下に生育する。茎は高さ 15~30cm、葉は 1 個、茎の下の方につく。鱗片葉は 1~2 個がつく。7~8 月に淡黄緑色の小花を 5~15 個まばらに穂状につける。

キソチドリは地理的変異が多く、本州の中部地方から紀伊半島を経て、四国・九州に分布する西南日本型がナガバノキソチドリで、葉が線状楕円形~広線形となる(以上、佐竹ほか, 1982 より)。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.198. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.20. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 151	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
カヤラン <i>Sarcochilus japonicus</i> (Reichb.f) Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史によると、過去には旧市内だけでも10か所の自生地があったことが記載されている(大原・千賀, 1985)が、現在はそのほとんどで見られなくなっている。しかし、旧額田町地区の神社境内の樹木には、以前より少なくなったものの着生しているのを見ることができる。時には、植林地の樹木にも着生していることがある。採取しやすいものは、採取の対象となりやすい。幹の上部に着生しているため、生育個体数を把握するのが難しいが、大きく減少していると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑樹林内の樹幹に着生し、気根は茎の中部以下から出て細長い。茎は細く、長さ3~7cm、分枝することがなく、古い葉鞘に包まれる。葉は10~20個、左右2列に互生し、披針形で長さ2~4cm、幅4~6mm、鈍頭、基部は細くなって鞘に関節する。花茎は細く、3~5月、葉腋より出て、2~5花をつけ、中央に小型の1鱗片葉がある。苞は広卵形で、開出し、長さ3mm、花は淡黄色。花被片は開出するが、上半は内曲し、長さ7~8mm、狭長楕円形、側花弁はがく片より小さく鈍頭。唇弁は浅く3裂し、側裂片は耳状に左右に突出し、中裂片は微小。本州(岩手県以南)~九州に分布する。和名は葉の感じがカヤに似ているためである(以上、佐竹ほか, 1982より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.234. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.68. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 152	シダ植物 ゼンマイ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヤマドリゼンマイ <i>Osmunda cinnamomea</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

市内では、北山湿地、千万町町の湿地状地に生えている。湿原を象徴するシダであるが、過去の自生地の生平、保母では絶滅し、北山湿地では減少傾向にある。北山湿地では、典型的な湿地景観を保持するためにも、保護が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の湿原にしばしば群生する夏緑性シダ。根茎は短く匍匐し、葉は相接して出るためほとんど叢生するようにみえ、2回羽状深裂、若芽は赤褐色の綿毛に包まれるが、成葉はほとんど裸出する。葉は二形。栄養葉は黄緑色、卵状披針形、葉身は長さ30~80cm、幅15~25cm、鋭尖頭の先端に向けてしだいに狭くなる。羽片は無柄、長さ5~20cm、幅1.5~3cm、先端はとがり、裂片は羽軸に向けて2/3くらい切れ込み、円頭、全縁、辺縁に毛が残り、黒い毛が混じる。側脈は二又する。孢子葉は栄養葉よりも低く、栄養葉より先に出、羽片は羽軸に接してつき、長さ2~4cm、幅約1.5cm、裂片は羽軸近くまで切れ込み、幅2~4mm、孢子のうが全面を覆う。孢子が散ってからの孢子葉は赤褐色となり、しばらく残るが、夏までに枯れる。北海道から九州(屋久島まで)の各地に産し、南千鳥・樺太・アムールから中国(東北から台湾までの各地)、朝鮮半島などの東アジア各地と北アメリカに分布する(以上、岩槻, 1992より)。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.73. 平凡社, 東京.

【参考文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.429. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.35. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 153	シダ植物 イノモトソウ科	岡崎市 準絶滅危惧
アマクサシダ <i>Pteris dispar</i> Kunze		

【 選定理由・現在の生育状況 】

蓬生町、鍛埜町の 2 か所に見られるが、市内では少ない暖地性のシダである。どちらも道路脇の斜面に生育している。そのため、道路管理のため刈られたり、取り除かれたりする。特に、蓬生町の場合は、道路幅が狭いわりには、交通量が多いので刈られる度合いが大きい。それでも、斜面のくぼ地や上部に生き残っている。今後、道路の幅の拡張があれば、失われる可能性のある状況にある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は短く、斜上し、葉柄の基部とともに褐色で線形の全縁の鱗片を密につける。葉柄は光沢のある赤褐色、長さ 20~35cm、切り口は三角状、葉身は 2 回羽状深裂、広披針形から長楕円形、紙質、長さ 20~40cm、中軸は赤褐色で光沢がある。頂羽片は大きく、長さ 25cm に達することがあり、羽状全裂、側羽片は 3~6 対あって、羽状深裂、後ろ側が前側よりやや幅広く、前側の裂片の一部が欠けることがある。最下羽片の後ろ側に羽状全裂の小羽片をつけるのがふつうである。胞子のうをつけない裂辺の辺縁や頂端付近には鋭く小さい鋸歯がある。本州（関東地方以西、ただし日本海側にはない）・四国・九州・琉球で暖地の山麓から村落近くの日当たりのよい場所から陰地かけてやや普通に生じ、朝鮮・台湾・中国に分布する。和名の由来は熊本県天草に産することによる（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.137. 平凡社, 東京.

【 参考文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.432. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.58. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 154	シダ植物 チャセンシダ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヌリトラノオ <i>Asplenium normale</i> D.Don		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闇菊渓谷の湿った岩壁に垂れ下がるように生えている。散策路沿いでよく目につく所である。以前は、現在より広い範囲に見られたがやや生育範囲が狭まった。岩壁の乾燥化が影響していると考えられる。今後、乾燥化が進めばさらに減少することが予想される。本種の生育が衰えないように留意する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑性。根茎は短く、直立から斜上、葉を叢生し、鱗片をつける。鱗片は披針形、基部から先端へ向けしだいに狭くなり、先端は尾状、長さ約 4mm、幅 0.7mm、紙質、中心は黒褐色で辺縁は褐色から暗褐色。葉柄は光沢があり、暗紫褐色からほとんど黒色、長さ 10cm 前後であるが、15cm に達するものもあり、向軸側（表面）に溝と 2 稜がはっきりする。葉身は単羽状、披針形から線状披針形、基部はわずかに狭くなり、先端に向けてしだいに狭くなり、頂端は鋭尖頭、長さ 10~40cm、幅 4.5cm に達する。中軸に翼はなく、暗紫褐色、背軸側に溝があり、上部に芽をつける。羽片は 40 対に達し、開出してつき、無柄、三角状長楕円形で円頭、辺縁は 1/3 近くまで切れ込み、基部は切型、後ろ側で狭いくさび形、前側に耳がある。葉脈は、裂片の先に届かない。胞子のう群は、長さ 1~4mm。本州（茨城県・伊豆諸島・伊豆半島以西）・四国・九州・琉球の各地で山林中のやや湿った岩上か、まれにやや乾いた地上に生じ、ヒマラヤからポリネシアにかけて分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【 引用文献 】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.150. 平凡社, 東京.

【 参考文献 】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.148. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 155	シダ植物 チャセンシダ科	岡崎市 準絶滅危惧
チャセンシダ <i>Asplenium trichomanes</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

切越町をはじめ市内の古い石垣の間や崖などに生育している。近年、生育地の石垣がコンクリートやブロックに変えられたり、市街地化したりして、減少してきた。今後も、急激な変化はないものの減少の可能性が考えられる。本種の生育が衰えないように留意する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性。根茎は短く、直立し、小さい塊状で、枯れた葉の葉柄と生きた葉を多数叢生し、鱗片をつける。鱗片は披針形～線状披針形で鋭尖頭、長さ約 3mm、中央部は黒褐色、辺縁は淡色。葉柄は光沢ある紫褐色、長さ 1～5cm、向軸側（表面）に褐色で薄紙質の翼が 2 枚ある。葉が枯れて羽片が落ちて、葉柄はいつまでも根茎に残る。葉身は単羽状、線形で基部は狭くならず、長さ 2～25cm、幅 1.2～2cm、羽片は 20 対以上あり、ほとんど同形で長楕円形、円頭、辺縁にごく浅い鋸歯があり、基部は広いくさび形、葉身の中央部の羽片が大きく、上部と下部は小さい。胞子のう群は、長楕円形か線形である。北海道・本州（青森県と新潟県西部・神奈川県以西）・四国・九州の各地で山麓の岩の割れ目や村落の石垣などに生じ、世界の温帯に広く分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.149. 平凡社, 東京.

【参考文献】

田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.149. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 156	シダ植物 シンガシラ科	岡崎市 準絶滅危惧
コモチシダ <i>Woodwardia orientalis</i> Sw.		

【選定理由・現在の生育状況】

もともと市内には少ない暖地性シダで、過去には、須淵町、鍛埜町にも生育していたが、現在は、中金町の道路沿い、才栗町に見られる。普通少数株が生育するだけであるが、中金町の場合は、かなり株数が見られる。道路の落石避けの網の中に生えているので、園芸採取ができなかったものと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性、根茎は短く、太く、斜上か匍匐し、密に鱗片があり、葉を叢生する。鱗片は披針形、やや光沢のある褐色で、膜質、長さ 2～3cm、葉柄は太く、長さ 30～60cm、基部には密に鱗片がつく。葉身は 2 回羽状中裂～深裂か、ほぼ全裂、広卵形で、長さ 30～200cm。羽片は卵状披針形から三角状披針形、中裂から深裂のことが多く、裂片は鋭尖頭で鋸歯縁、葉質は革質、中軸からは芽が出ないが、葉の表面に無性芽がたくさんつくことが多い（子持ちシダの名はこれによる）。裂片は羽軸の前側のものが後ろ側のものより長い。葉脈は羽軸や裂片の中肋に沿って 1～2 列の網目をつくり、他は遊離。胞子のう群は長さ 2～5mm、葉脈の網目が深くくぼんだところにつき、宿存性のやや厚い包膜にしっかり包みこまれる。本州（東北地方南部以南）・四国・九州・琉球・小笠原で向陽の山麓や海岸近く（四国・九州では内陸部にも）などに生育し、山林中に生じることもある。ヒマラヤから中国、さらに台湾からフィリピンに分布する（以上、岩槻, 1992 より）。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.157. 平凡社, 東京.

【参考文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.437. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.144. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 157	シダ植物 オシダ科	岡崎市 準絶滅危惧
タニヘゴ <i>Dryopteris tokyoensis</i> (Matsu. ex Makino) C. Chr.		

【選定理由・現在の生育状況】

池金町の北山湿地、千万町の湿地状地に生育しているが、市内には少ないシダである。山地の湿地を好み、北山湿地のような低地に生えるのは、注目される、北山湿地でもその一部にしか生えていないので、本種の生育が衰えないように留意する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

夏緑性。根茎は短く、太く、直立し、直立する葉を叢生し、鱗片をつける。葉柄は葉身の半分よりはるかに短く、鱗片をやや密につける。葉柄の鱗片は、披針形から長卵形、急に鋭尖頭、全縁、長さ約 1.5cm、膜質、暗褐色から淡褐色、基部付近が濃くなることもある。葉身は、単羽状複生、倒披針形、長さ 1m 近くになり、幅 15~25cm、下部の羽片はしだいに短くなり、最下のものは長さ 2~4cm となる。中軸には披針形~線形の鱗片がある。羽片は線形~線状披針形、羽状に浅裂~深裂し、最下裂片は大きく、耳形となり、羽片の基部は心形からくさび形、無柄かごく短い柄があり、羽軸の裏面に細かい鱗片がまばらにあり、やわらかい革質、裂片は円頭、小さい鋸歯があり、小脈は単生、脈は表面でいちじるしくくぼんで浅い溝となる。胞子のう群は羽片の中肋寄りに 1~2 列に並び、包膜は縦にやや長い円腎形、全縁。北海道から九州までの各地で、明るい湿地に生じる。朝鮮と中国に分布する (以上、岩槻, 1992 より)。

【引用文献】

岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ, p.188. 平凡社, 東京.

【参考文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.435. 新編岡崎市史編さん委員会.
田川基二, 1959. 原色日本羊歯植物図鑑, p.94. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 158	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 カバノキ科	岡崎市 準絶滅危惧
サクラバハンノキ <i>Alnus trabeculosa</i> Hand.-Mazz.		

【選定理由・現在の生育状況】

北山湿地をはじめ市内の湿地、沢沿い、ため池の縁に生育する。特に旧額田町地区には多く見られる。しかし、全国的に見れば希少な樹木で、環境省リストでの準絶滅危惧種という評価は、愛知県やその周辺に多いことを考慮したと思われる。そのために、岡崎市においても、それなりに保全上の配慮をする必要がある。現在、森林化の進行により、後継樹が生育できる機会が減少しており、その点で将来の存続が懸念される。そこで、むしろ森林の伐採や崩壊地の放置などにより、本種が個体群として存続できる条件を整える必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

落葉性の小高木~高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。枝は灰褐色で、皮目は小さく円形である。葉は互生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形~長楕円形、長さ 5~9cm、幅 2~5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび形~浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9~12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。雌雄同株で、花期は葉が展開する前の 2~3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4~5 個下垂し、雌花序はその下方に 3~5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5~2cm、果実は扁平で、長さ 2.5~3.5mm である。本州 (茨城県、新潟県以西)、九州 (宮崎県)、中国大陸南東部に分布する (以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.626.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【参考文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.443. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.91. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原寛・互理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本 I, p.55. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編 II, p.287. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 159	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 プナ科	岡崎市 準絶滅危惧
イヌブナ <i>Fagus japonica</i> Maxim.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闊葉渓谷の上部標高 500m 程に生育しているが、谷沿いにわずかである。小林元男氏の愛知県樹木誌（小林, 2012）によれば、愛知県の南限は、蒲郡市の五井山（標高 400m）であるので、南限に近い。さらに小林元男氏によれば、桑谷山にも生育していたという。本種は、本来中間温帯に見られる樹木であるので、岡崎市内には少なく、保護対象とするべきである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

落葉高木で、幹は高さ 25m、径 70cm に達する。樹皮は灰黒色で、多数のいぼ状の皮目がある。葉は長楕円形または卵状楕円形、先は鋭尖形で鈍頭に終わり、基部は広くさび形かまれに円形、洋紙質、長さ 5~10cm になり、縁には波状の鈍い鋸歯がある。側脈は 10~14 対で、葉の裏面に突出し、まっすぐ伸びて先端は鋸歯の凹部に達する。葉の両面にはじめ伏した長い軟毛があり、のち表面はほとんど無毛となるが、裏面（淡緑色）には残り、特に脈上にいちじるしい。花期は 4~5 月。雌雄同株。雄花序は新枝の下部の葉腋に数個つき、長軟毛を密生する長さ 1~1.3cm の柄をもつ。雌花序は頭状で新枝の上部の葉腋について上向し、長軟毛を有する長さ 5mm ほどの太い柄をもち、早落性の苞に包まれる。本州（岩手県以南）・四国・九州（熊本県以北）に分布し、関東地方北部以西の中間温帯林に多産する（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【 引用文献 】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.107. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本 I, p.67. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編 II, p.283. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 160	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 タデ科	岡崎市 準絶滅危惧
コミゾソバ <i>Persicaria mikawana</i> Hanai et Seriz.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

北山湿地には比較的多いが、千万町町、外山町などの他の生育地は小群落である。丘陵地~山地の、やや貧栄養の湿地の林縁や林内に生育する。ある低度は被陰に耐えられる植物であるが、それでもあまり暗くなると生育できない。湿地周辺の樹木を伐採して、光を確保する必要がある。本種の場合、適度の攪乱はむしろ好都合である（愛知県環境調査センター, 2009）。

本種は、2008 年に新種として記載された植物で（花井・芹沢, 2008）、基準標本産地は、北山湿地である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【 種の概要 】

1 年生草本。主軸は長さ 15~80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1~3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3~7cm、幅 2~5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははっきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は 8~9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数（しばしば 1 個のみ）の花序からなる。がくは長さ 3~4mm、帯紅色または帯緑色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。日本固有種で、本州（福島県~兵庫県）に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター（編）, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.524.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 161	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ナデシコ科	岡崎市 準絶滅危惧
カワラナデシコ <i>Dianthus superbis</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) Williams		

【選定理由・現在の生育状況】

以前は、市内の多くの河川の堤防や山地に広く見られた。しかし、現在では、そのほとんどの産地で見られなくなった。本種の減少率は非常に大きい。現在は矢作川や青木川の堤防の一部に生育している。矢作川の堤防には、合歓木町などにまだ生育株がかなりあるが、開花を前にして草刈が行なわれるので、花を見るのが少ない。秋の七草として文化的価値をもつ本種が衰退しないことを願っている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

低地や日当たりのよい草原、川原などに生える多年草、茎は直立し、上部は枝を分け、高さ 30～80cm になる。葉は線形～披針形で、粉白色を帯び、長さ 3～9cm、基部は茎を抱く。花期は 7 月～10 月、花は茎頂に数個まばらにつく。苞は 3～4 対あり、先はとがる。がくは円筒形で、長さ 3～4cm。花弁の舷部は深裂し、淡紅色。下部にひげ状の毛がある。本州～九州、朝鮮、中国、台湾に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.41. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.454. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.255. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 162	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 モクレン科	岡崎市 準絶滅危惧
タムシバ <i>Magnolia salicifolia</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

市内では、千万町町と井沢町の沢沿いに生育する。千万町町では、集落のあるところからも見ることができる。土地の人々は「だんご花」と呼んで春の季節の移り変わりの指標にしている。市内では、限られた地に生える少ない樹木である。県内でも南限となるこれらの樹木を保護していくことは、意味のあることである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地、時に低地にも生える落葉高木。一般にコブシより丈は低いが、時に高さ 10m を越える。葉は互生し、披針形ないし卵状披針形、長さ 6～12cm、幅 2～5cm、鋭頭で基部は鋭いくさび形、裏面は白色を帯び、若い時はすこし毛がある。葉をもんだときの香りはコブシよりも強く、またかむと甘みがある。花は 4～5 月、葉の展開に先立って開き、径約 10cm、花被はがくと花冠の区別があり、がく片は 3 枚、小さく、花弁は 6 枚、白色、長さはがく片の倍以上ある。花後、花床は伸長する。本州・四国・九州の温帯より暖帯上部に分布し、日本海側に多い（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ, p.107. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.458. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.152. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, p.221. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 163	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ヤマグルマ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヤマグルマ <i>Trochodendron aralioides</i> Sieb. et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

本種は、愛知県では、南設、北設地方に多く、そのつながりで、閨菟溪谷の谷間や散策路沿いの崖に生育している。谷間には、しっかりと根を張った成木が生えるが、若木は、崩壊しそうな崖地にも生えており、やや不安定な感じを受ける。大雨の折、若木が倒れていたのを目にしたことがある。ある程度成長すると安定するようだ。本種は、市内では、他の地域で見られない樹木であり、閨菟溪谷の生育地は注目される。生育地である谷沿いでの砂防工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑高木で、高さ 20m、太さ 1m を越えることもあるという。全体無毛、樹皮は黒褐色を帯びた灰色で、あまり割れない。大型の冬芽をつける。枝は緑色。葉は長い柄があり、葉身は広倒卵形ないし狭倒卵形、先は多少尾状になり、基部はくさび形、上部には波状細鋸歯がある。5~6 月ごろ長さ 7~12mm で短い柄のある花序を枝端につける。花は 1 花序に 10~20 個つき、花被片はない。本州（山形県南部以南）・四国・九州・琉球・伊豆諸島、台湾・朝鮮南端部に分布する。名は枝先に葉が車状に輪生することによる。樹皮をよく砕いて水中にいれ、しみ出した粘物質をトリモチとして利用した（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編）、1989. 日本の野生植物 木本 I, p.126. 平凡社, 東京.

【関連文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.174. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編 II, p.180. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 164	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 キンポウゲ科	岡崎市 準絶滅危惧
ハンショウヅル <i>Clematis Japonica</i> Thunb.		

【選定理由・現在の生育状況】

閨菟溪谷の散策路沿いに生えるつる草で、市内に少ない。この植物に出会うには、ここに来なければならないという程である。散策路沿いに生えているので、注意していれば、見つけることができる。花が初夏に咲くので、その時期に観察するのがよい。花は葉腋から 6~12cm の長い柄を出し、下向きに暗紅紫色の鐘形の花を 1 個開く。本種に似たトリガタハンショウヅル（本書 92 ページ参照）は、花が黄白色で花柄が葉柄より短い。生育地である散策路沿いの整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

林縁や林中にも生える落葉性、木本性つる植物。葉は 1 回 3 出複葉で、小葉は卵形、鋭頭または鋭尖頭で、鋸歯があり、小葉柄はごく短い。5~6 月ごろ、前年に伸びた茎の葉腋より腋芽を出す。新しい枝の下部に節間がつまっているので、新葉は新枝の基部に集まってついているように見える。また花は 1 個ずつその腋芽の鱗片や、新葉の腋につくため、新枝や新葉といっしょに古い葉腋より群がって出るように見える。花柄は長さ 6~12cm、葉よりも長い。本州と九州の主として温帯に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編）、1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類, p.72. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.456. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.182. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II, p.224. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 165	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 キンポウゲ科	岡崎市 準絶滅危惧
イヌショウマ <i>Gimifuga japonica</i> (Thunb.) Sprengel		

【選定理由・現在の生育状況】

市内には、闇苅溪谷の谷間に生育するが、数は少ない。散策路からは生育していることが分かりにくいですが、谷に下りてみると、見つけやすい。溪流脇の湿った地を好むようである。以前は、旧市内の奥殿町にも生育していた（大原・千賀，1985）が見られなくなった。生育地である谷沿いでの砂防工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の林中に生え、やや湿った所を好む。根出葉はふつう 2 回 3 出、ときに 1 回 3 出複葉で、小葉はやや硬くて洋紙質、円心形で長さ 6~10cm、3~5 中~浅裂し、裂片は鈍頭~鋭尖頭、不ぞろいな鋭い鋸歯がある。8~9 月に花茎状の茎を伸ばして高さ 60~90cm になり、単一または下部で分枝した穂状花序をつける。花は白色、花弁は長楕円形で基部は細まって爪となる。がく片は広楕円形で長 4~5mm。本州の特産で、関東地方より近畿地方にかけて主として暖帯に分布する（以上、佐竹ほか，1982 より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.455. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.60. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.218. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 166	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ツバキ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヒメシャラ (品種トチュウヒメシャラを含む) <i>Stewartia monadelph</i> Sieb. et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

ヒメシャラは、市内には、茅原沢町、須淵町、才栗町、南大須町、鳥川町に生育する。樹皮が淡赤褐色で滑らかであり、薄片状にはがれ落ちる落葉高木である。本来山地性の本種が、丘陵地である当市に生育するのは、注目される。茅原沢神明宮付近には、葉裏面の毛が後まで残るトチュウヒメシャラが生えている。このあたりは、愛知県の自然環境保全地域に指定されている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

落葉高木で、高さ 15m に達する。若枝は緑色、開出毛があるか、または無毛、秋までに灰褐色となり、4、5 年枝は淡赤褐色、平滑、のちにしだいに外側の樹皮が細長い小片となってはげ始める。ヒコサンヒメシャラと比べて初開花の年月が長くかかるが、典型的な樹皮の斑紋を生じるのにも同様らしい。花は 5 月に今年枝のやや下方の葉腋から出て上向きに開き、径 1.5~2cm。花柄は細く、頂端に 2 個の葉状の苞を備える。がく片は 5 個、苞よりいちじるしく短い。本州（神奈川県箱根山以西）・四国・九州（屋久島まで）に分布する。中国地方には分布しない（以上、佐竹ほか，1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編），1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ, p.142. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.481. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.206. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, p.151. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 167	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 スイレン科	岡崎市 準絶滅危惧
ジュンサイ <i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

小呂町の小さな湧水池などで生育している。小呂町の池では、フトヒルムシロとともに水面を覆っている。茎、葉の裏、特に幼芽や若葉のまわりは、ぬるぬるした寒天のような物質に覆われ、春から夏にかけこの部分をとって、汁の実や酢のものなどとして食べる。そのため、栽培しているものもある。以前は、栽培していたが、現在は放置されているものもあって、自生か栽培かの区別はなかなか難しい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

水質がやや酸性に偏り、ミズゴケがよく生え、底に有機物の堆積した古い池に生える多年草。根茎は泥中を横にはう。葉は水面に浮かぶ。葉身は楕円形で径 5~10cm、裏面は紫色を帯びる。花は 6~8 月に水面で開き、径 2cm 位、腋生して、花柄は長い。粘物質におおわれた若芽は吸い物の実や酢のものとして古くより賞味されている。北海道~琉球に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.93. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.455. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.250. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.108. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 168	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 モウセンゴケ科	岡崎市 準絶滅危惧
モウセンゴケ <i>Drosera rotundifolia</i> L.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は、湿り気のある地の所々に生育していたが、見られる所が減少してきた。北山湿地、小呂湿地以外では、外山町の湧水のある崖などで見られる。生育地が乾燥化してきたり、高茎植物が繁茂してきたりすると、生育個体数が減少する。モウセンゴケが生えるような湿った崖や湿地が、次第になくなっていることが、減少の大きな要因である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

日当たりのよい酸性湿地に生える多年草。根出草の葉身は倒卵状円形で、長さ 5~10cm、葉面に長い消化腺毛があり、基部は細くなって柄になり、その基部に縮れた褐色毛がある。その先端から粘液を出してとりもちのように粘って虫をとらえる。一度虫をとらえると、ほかの腺毛までそちらに向けて曲がり、さらに消化液を出して虫体をとかして養分とする。6~8 月、高さ 6~20cm の花茎が出て、総状花序の先はわらび巻き状で、数個の花が片側につく。花弁は白色で長さはがく片の約 2 倍である。北海道~九州、千島・樺太・朝鮮、北半球の温帯~亜寒帯に広く分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.120. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.462. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.168. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 169	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 準絶滅危惧
トリアシショウマ <i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq. var. <i>congesta</i> H.Boiss.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

石原町の本宮山の麓と毛呂町の大法川沿いに生育しているが、市内ではわずかである。どちらも道路脇に生えているので、道路整備のため失われる恐れがある。本種の市外のこの近くの記録は、「鳥居喜一寄贈東三河の植物標本目録」によれば、作手の菅沼と中河内である（鳳来寺山自然科学博物館, 1995）。このあたりから分布が広がっているのが分かる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

亜高山帯および温帯の林床または草原に生える。根茎は塊状で直立する。葉は3回3出複葉、小葉はふつう卵形～広卵形で、長さ5～12cm、幅4～10cm、先端は鋭尖形あるいは尾状で、基部はふつう心形まれに鈍形、縁に不ぞろいの鋭い重鋸歯がある。花期は7～8月、花茎は高さ40～100cm、花序は円錐形、側枝は長さ12～25cm、よく分枝し、短腺毛を密生する。花弁は白色さじ形で長さ4～6mmである。北海道・本州中北部に分布する（以上、佐竹ほか, 1982より）。

【 引用文献 】

鳳来寺山自然科学博物館（編）, 1995, 鳥居喜一寄贈東三河の植物標本目録, 690pp. 鳳来寺山自然科学博物館, 鳳来.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本II 離弁花類, p.166. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.462. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編II, p.149. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 170	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 準絶滅危惧
トウノウネコノメ <i>Chrysosplenium pseudopilosum</i> Wakab. et Hr.Takah.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闇菴溪谷の沢沿いに見られる。湿った岩に生えたり、湿った土に生えたりする。岩の上に生えるものは、岩が乾燥すると見られなくなる。沢の湿った土に生えるものは、工事などで土が乾燥するような大きな変化があると、消滅する。闇菴溪谷は、本種の愛知県における南限の生育地になっているので、その生育は、注目される。生育地である溪谷沿いでの河川工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

コガネネコノメソウやツクシネコノメソウに似るが、おしべががく裂片より長い点（コガネネコノメソウは短く、ツクシネコノメソウは等長）などで区別できる。岐阜県から愛知県にかけて分布し、谷沿いの湿った場所に生える。花時に9～15mmの柄をもつ根生葉が残る。葉や茎に軟毛がある。葉は対生だが、花茎につくものはときに互生となる。花茎は直立し、高さ3～8cm、1～2対の葉をつける。がく裂片は4個、おしべは8個、花柱は2本である（以上、林, 2009より）。

1999年に新種として記載された（Michio Wakabayashi & Hiroshi Takahashi, 1999）。

【 引用文献 】

林 弥栄（編）, 2009. 増補改訂新版 日本の野草, p.711. 山と溪谷社, 東京.
Michio Wakabayashi & Hiroshi Takahashi, 1999. A New Species of *Chrysosplenium* (Saxifragaceae) from Central Honshu, Japan. Acta Phytotax. Geobot. 50 (1): 1-11.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 171	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 準絶滅危惧
ダイモンジソウ <i>Saxifraga fortunei</i> Hook.f. var. <i>incislobata</i> (Engl. et Irmsch.) Nakai		

【選定理由・現在の生育状況】

葉が掌状の植物である。闇苧溪谷の岩場や護岸壁、石原町の男川の岩場に見られる。過去には、男川沿いの多くの地で見られたが、減少してきている。しかし、闇苧溪谷の一部の岩場には、溪流の岩の合間と護岸壁に点々と生えていて、かなり目につく。本種は、湿り気はあるが、水はけのよい環境を好むためである。護岸壁に生えているものは、上からのぞき込むようにするとよく分かる。多くの場合、ウチワダイモンジソウ（本ページの後半に記載）と混生していることが多い。形だけでなく大きさも様々である。生育地である溪谷沿いでの河川工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

ダイモンジソウの類は、葉の形と毛で分類される。本種の場合、葉は7~12 浅裂し、葉柄、花茎はほとんど無毛、花柄には短腺毛がある。高山帯から海岸近くまで広く分布し、極めて変化が多い。北海道、本州、四国、九州、朝鮮、千島、樺太、満州、ウスリー、中国に分布する（以上、北村ほか、1961 より）。

【引用文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編II, p.155. 保育社, 大阪.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本II 離弁花類, p.172. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 172	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ユキノシタ科	岡崎市 準絶滅危惧
ウチワダイモンジソウ <i>Saxifraga fortunei</i> Hook.f. var. <i>obtusocuneata</i> (Makino) Nakai		

【選定理由・現在の生育状況】

葉がウチワ形の植物である。闇苧溪谷の岩場や護岸壁、石原町の男川の岩場に見られる。過去には、男川沿いの多くの地で見られたが、減少してきている。しかし、闇苧溪谷の一部の岩場には、溪流の岩の合間と護岸壁に生えていて、かなり目につく。本種は、湿り気はあるが、水はけのよい環境を好むためである。護岸壁に生えているものは、上からのぞき込むようにするとよく分かる。多くの場合、ダイモンジソウ（本ページの前半に記載）と混生していることが多い。形だけでなく大きさも様々である。生育地である溪谷沿いでの河川工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

ダイモンジソウの類は、葉の形と毛で分類される。本種の場合、葉は幅より縦の方が長く基部は広くさび形となる。ときに基部が切り形となる。本州（太平洋側）・四国・九州・屋久島に分布する（以上、北村ほか、1961 より）。

【引用文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編II, p.155. 保育社, 大阪.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本II 離弁花類, p.172. 平凡社, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 173	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 マメ科	岡崎市 準絶滅危惧
ユクノキ (ミヤマフジキ) <i>Cladrastis sikokiana</i> (Makino) Makino		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闇苧溪谷の鳴瀬橋上に大木と 2 本の若木が生育している。本種は、県下では、設楽地方、豊田市の旧旭町内と本市の旧額田町地区に見られる希少な樹木であり、旧額田町地区は、分布の南限となっている。大木は、6 本の幹が株立したように生えている。樹高は、25m ほどである。根元は、根塊といった形容がびつたりのように太く入り組んでいる古木である。6 本の幹の胸高囲は、最大のものが 1.6m あり、1.2m が 3 本、0.96m と 0.56m が各 1 本である。本種としては、最大級の樹木である。株立ちになっているのは、過去に薪炭材として伐採されたことを物語っていると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

落葉高木、高さ 15m に達する。枝は若い時に赤褐色の綿毛がある。葉は羽状複葉で、8~13 枚の偶数または奇数個の小葉をつけ、葉軸は長さ 8~20cm、ほぼ無毛でときにまばらに軟毛がある。小葉は互生またはまれに対生し、表面無毛、裏面は中肋があつて粉白色、花序は頂生する複総状花序で、長さ 15~30cm、花は 6~8 月に咲き、白色、長さ 20~24mm。豆果は広線形、長さ 6~9cm、幅 6~9mm、翼はない。日本特産種の 1 つ。本州（関東地方西部および富山県以西、なお神奈川県・伊豆半島を除く）・四国・九州（熊本県以北）の山地の森林中にまれに生育する（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編），1989. 日本の野生植物 木本 I, p.241. 平凡社，東京。

【 関連文献 】

小林元男，2012. 愛知県樹木誌，p.302. 小林元男，豊川。
北村四郎・村田 源，1971. 原色日本植物図鑑 木本編 I, p.356. 保育社，大阪。

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 174	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ミカン科	岡崎市 準絶滅危惧
キハダ <i>Phellodendron amurense</i> Ruperr.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闇苧溪谷の一部に見られるが、数は少ない。本種は、陽樹であり、十分な陽光を要求する。やや湿気のある肥沃な深い土を好み、谷間またはこれに接する斜面において最もよく生長する。キハダの名は、樹皮の内皮が鮮やかな黄色をしていることによる。内皮をかむとやや甘みのある苦い味がする。これは塩化ベルベリンを含むため、胃腸の薬に使われ、外用薬としてねんごや打ち身にも効果があるとされている。果実にも苦みがあり、薬用にされる。材は茶褐色でやわらかく、木目がはっきりしていて、小型の指物に使われる。そのため、本種について、関心を持つ人が多い。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

高さ 10~15m の落葉高木、大きいものは 25m になるという。樹皮にはコルク層がよく発達する。若い枝は無毛。葉は対生し、5~11 枚の小葉からなる奇数羽状複葉で長さ 15~35cm。小葉は卵形~卵状長楕円形、長さ 4~12cm、幅 1.5~5cm、先は鋭くとがり、基部はややゆがんだ円形または鈍形、縁に細かな鈍鋸歯がある。6 月、枝先に長さ 7~13cm の散房花序を伸ばし、多くの花をつける。雌雄異株、花卉は黄緑色である。果実は球形で径約 1cm、黒色に熟す。北海道・本州（東北地方・中部地方北部・近畿地方以西）・四国・九州の山地の林内に生え、朝鮮・中国（北部・東北）・アムールにも分布する（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編），1989. 日本の野生植物 木本 I, p.280. 平凡社，東京。

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.474. 新編岡崎市史編さん委員会。
小林元男，2012. 愛知県樹木誌，p.332. 小林元男，豊川。
北村四郎・村田 源，1971. 原色日本植物図鑑 木本編 I, p.313. 保育社，大阪。

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 175	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ウリノキ科	岡崎市 準絶滅危惧
ウリノキ <i>Alangium platanifolium</i> (Sieb. et Zucc.) Harms var. <i>trilobum</i> (Miq.) Ohwi		

【選定理由・現在の生育状況】

闊葉渓谷の中部付近を歩くと、独特の葉の形をしたこの木に出会う。葉の形がウリに似ているので、ウリノキという名の樹木である。市内では、生育地が限られているので、わずかしは見られない。県内の分布は、三河山地と瀬戸市であり、特に石灰岩地に多い（小林, 2012）。生育地である渓谷沿いでの河川工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

落葉低木、高さはふつう 3m ほど、枝を広げ、若枝は緑色でふつう短毛がある。葉は薄く、葉身は 4 角状同心形または円形で、3~5 浅裂し、基部は浅い心形、長さ、幅とも 7~20cm、裏面には密に軟毛がある。各裂片は 3 角状で、やや尾状に長鋭尖頭となる。葉柄は長さ 5~10cm、短毛がある。花序は葉腋から出て、集散状にまばらに花をつけ、つぼみは細い棒状。花は 6 月、垂れ下がって咲き白色。がくはほぼ鐘形、花弁は 6 個、核果は楕円形。北海道・本州・四国・九州の山地林内に多く、朝鮮・中国に分布する（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【引用文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.436. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.108. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.200. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 176	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 ミズギ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヤマボウシ <i>Benthamidia japonica</i> (Sieb. et Zucc.) Hara		

【選定理由・現在の生育状況】

闊葉渓谷では、川沿いに 4 本ほど自生木が生える。また、保久町にも自生木が見られる。市内に植栽木は多いが自生木は、ごくわずかである。湿り気のある、あるいはやや湿り気のある緩傾斜地または谷間を好んで生育する。6 月の白い花をつけた時、9~10 月の集合花が赤く色づいた時が目立つ。生育地である渓谷沿いでの河川工事や砂防工事にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

高さ 5~10m の落葉高木。横枝は水平に広がり、若い枝はほぼ無毛、枝先にふつう 1 対の葉を対生する。葉は楕円形~卵形で鋭尖頭、長さ 4~12cm、幅 3~7cm、縁は波打ち、裏面脈腋には褐色の立毛が密生し、側脈は 4~5 対、葉柄の長さ 5~10mm、晩秋、暗紅色に紅葉して美しい。5~7 月、頭状花序をつける。花序の基部には大型の総苞があり、総苞片は 4 枚、卵形~長楕円卵形で鋭尖頭、はじめ淡緑色でのち白色になり、まれに紅色を帯びる。花は 6~7 月に開き、無柄で頭状に密集してつく。集合花は、9~10 月に紅熟し、中にかたい核を入れ、果肉は甘みがあり、食用となる。本州・四国・九州（屋久島まで）・琉球（石垣島・西表島）、朝鮮の山地に分布する（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.112. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.489. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.440. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.198. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 177	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 スミレ科	岡崎市 準絶滅危惧
ナガバノタチツボスミレ <i>Viola ovato-oblonga</i> (Miq.) Makino		

【選定理由・現在の生育状況】

本種は、タチツボスミレのように山地の至るところに生育するものと異なり、水はけのよい半日陰から日なたの地を好む。市内では、丘陵地の道脇に生育しているのを見る。他の植物が繁茂してくると、压倒されて見られなくなり、市内の生育地は意外に少ないので、保護に留意する必要があると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

丘陵地、山地に生える。地下茎は短く横たわり、やや木化する。茎はそう生して分枝、高さ 20～40cm、根出葉は円心形、幅 2～3cm、基部は心形、茎葉は長くなり、卵状狭三角形ないし披針形でしだいにとがり、托葉は狭披針形で、ややあらく羽裂する。花柄は根生ならびに茎上に腋生し、花は淡紫色で、4～5月に咲く。がく片は披針形、花弁は長さ 12～15mm、側弁は無毛、距は長さ 7～8mm。本州（中部地方以西）～九州、朝鮮南部に分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.251. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.55. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 178	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 アカバナ科	岡崎市 準絶滅危惧
ウスゲチヨウジタデ <i>Ludwigia greatrexii</i> H.Hara		

【選定理由・現在の生育状況】

水田や低湿地に生育する。よく似た種であるチヨウジタデに比べれば少ない。環境省のレッドリストに準絶滅危惧種として掲載されており、環境影響評価などの調査精度をチェックする上での指標になる。チヨウジタデからは、毛の状態を見なくても、全体にあまり紅色を帯びず、葉が細く、花弁もがく片も大きいことで区別できる（愛知県環境調査センター, 2009）。主な生育地である水田や低湿地の保全が望ましい。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

1年生草本。茎は直立または斜上し、よく分枝して、高さ 30～70cm、細毛があり、あまり紅色を帯びない。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 7～8cm、幅 1～2cm、先端は鋭～鈍頭、辺縁は全縁、細毛がある。花期は 8～10月、花は葉腋に 1個ずつつき、無柄、がく片はふつう 5個で、長さ 3～4mm、花弁は 5枚で倒卵形、長さ約 4mm、花床には白毛が密生する。蒴果は線形でやや曲がり、長さ約 2cm、先端にがく片が残存する（以上、愛知県環境調査センター, 2009より）。日本固有種で、本州（関東地方以西）、九州、琉球に分布する。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.631. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.267. 平凡社, 東京. 北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.44. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 179	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 アカバナ科	岡崎市 準絶滅危惧
ミズユキノシタ <i>Ludwigia ovalis</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

小呂町、駒立町などの水湿地に見られる。水田の水路では、水際に生えたり、水中に生えたりしている。小呂町では、水路、休耕田に見られるが、近年小呂湿地内から姿を消した。市内全体から見ると、減少傾向にあると思われる。主な生育地である湿地や水路の保全が望ましい。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

水辺に生えるやわらかい多年草。全体に毛がない。茎の下部は長くはい、上部は斜上し長さ 20～40cm になり、かなり枝をわける。葉は互生し、短い柄があり、広卵形～楕円状卵形、長さ 1～2.5cm、幅 1～1.8cm、薄く、全縁。花期は 7～10 月。花は葉腋に単生し、ほとんど柄がない。がく裂片は 4 個、3 角形で淡黄緑色、長さ約 2mm。花弁はない。本州～琉球、朝鮮（済州島）・中国（本土・台湾）に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.267. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.485. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.43. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.132. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 180	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 セリ科	岡崎市 準絶滅危惧
シラネセンキュウ (スズカゼリ) <i>Angelica polymorpha</i> Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇菴溪谷の一部に見られ、生育個体数はわずかである。本来は、山の木陰に生える多年草であるが、ここでは溪流の岩上に生えている。生えている場所のためか、ふつうのものより丈が低い。生育地である溪谷沿いでの河川工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の日陰によく見られる多年草。茎は細長く、直立し、上部で枝を出して、高さ 80～150cm になる。葉は広く、3～4 回 3 出複葉で、葉柄の鞘部は淡色で、薄く、袋状にふくらむ。小葉は薄く、卵形で、縁の切れ込みの深浅に変化が多く、裏面は帯白色である。花序は中位の大きさで、総苞片はほとんどない。花期は 9～11 月、花弁は広い倒卵形で白色、果実は広楕円形で側翼は広くて薄い。本州～九州、朝鮮・中国（東北）に分布する（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類, p.288. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ, p.28. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 181	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 イワウメ科	岡崎市 準絶滅危惧
ナンカイワカガミ <i>Schizocodon ilicifolius</i> Maxim. var. <i>nankaiensis</i> Yamazaki		

【 選定理由・現在の生育状況 】

池金町（北山湿地を含む）、桑谷町、切越町、木下町、鳥川町、雨山町、石原町（本宮山）に生育する。市内でも、花の色が白から桃、葉の形、鋸歯の数、葉の大きさにさまざまな変異がある。北山湿地では、美しい花を見るために訪れる人がある。比較的市内には多く見られるが、園芸採取の対象となることが懸念される。写真撮影の対象にもなりやすいが、生育地を荒らさないような配慮が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑の多年草。県内のもは葉の大きさや花の色などに変異が大きく、主に奥三河に分布するが、低山地にも点在している（小林, 2004）。

【 引用文献 】

小林元男, 2004. 宝飯の植物, p.147. 愛知県東三河農林水産事務所, 豊橋.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 182	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 イチャクソウ科	岡崎市 準絶滅危惧
ギンリョウソウ <i>Monotropastrum humile</i> (D.Don) Hara		

【 選定理由・現在の生育状況 】

須淵町、闇菰溪谷などに生育するが、以前に比べ減少している。林中の落葉のつもった所に生える腐生植物で、環境の変化に生育が大きく左右される。須淵町の自生地では、落葉を取り除いたところ年々生育株数が減ってきた。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の林中の湿り気のある腐植土の上に生える。高さ 8~20cm、4~8 月に開花する。全体に白色でろうそくのような感じがし、その形を見立てて銀竜草の名がある。また薄暗い林中に生えるこの草の形からユウレイタケともいう。北海道~琉球、樺太・千島・朝鮮・中国（本土・台湾）・インドシナ・ヒマラヤに広く分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.6. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.490. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.235. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 183	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 イチヤクソウ科	岡崎市 準絶滅危惧
イチヤクソウ <i>Pyrola japonica</i> Klenze		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は、村積山をはじめとする山の木陰に普通に見られたが、近年は減少した。低山の下草として生える多年草で、少数の楕円形の葉を根ぎわに群生する。葉は深緑色で厚く、ややつやがあり、裏側と葉柄は紅紫を帯びている。葉は2～3枚ずつ根生するのが普通であるが、時には1枚のことがあり、さらに全く退化してしまうことがある。これは、根が菌類と共生しているためであり、そのため移植が難しい。本種は、利尿、脚気などの薬草として採取されることがある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

低山の林中に生える多年草。葉は長さ2.5～5cmの太い柄があり、卵状楕円形または広楕円形で、長さ3～6cm、幅2～4cm、先は鈍く、基部は鈍系か、またはややとがって少し柄の方に流れ、縁に細かな鋸歯がある。6～7月、高さ15～25cmの花茎を伸ばし、3～10個の花をつける。苞は狭披針形で、先はしだいにとがり、長さは幅の2～3倍あり、長さ3～5mm、幅1.2～1.5mm。花は白色で、径約13mmである。北海道～九州、朝鮮・中国（東北）に分布する（以上、佐竹ほか、1981より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.4. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.490. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.238. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 184	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ツツジ科	岡崎市 準絶滅危惧
コアブラツツジ <i>Enkianthus nudipes</i> (Honda) Ohwi		

【 選定理由・現在の生育状況 】

市内では、本宮山から桑谷山にかけて生育するが、多くない。本種は、東三河では、豊根村から新城市の鳳来寺山系、本宮山や宮路山の宝飯山地、豊橋北部、渥美半島に、西三河では、岡崎市南部から幡豆山三ヶ峯山、飛んで犬山市に見られる。乾燥した岩場や尾根に生えることが多い。愛知県樹木誌(小林, 2012)によれば、県内のコアブラツツジは、集団で変異が見られる。岡崎市のタイプは、葉の裏に毛を散生し、花序は無毛である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

高さ1～2mの落葉低木。葉は枝先に集まって互生し、葉柄は長さ1～4mmで無毛または少し毛があり、葉身は倒卵形または倒卵状楕円形、長さ1～2.5、幅0.6～1.5cm、縁に先が短い毛になる細鋸歯があり、先は鈍いかややとがって先端に腺状突起がある。5月上旬～6月中旬枝先に総状花序を下垂し、3～9個の花をつける。花冠は緑白色、つぼ形で長さ3～4mm、先は浅く5裂する。本州(静岡県・愛知県・紀伊半島)・四国(高知県)の山地の岩場に生える(以上、佐竹ほか、1989より)。

【 引用文献 】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, pp.485-486. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・互理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.147. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.492. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.135. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 185	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ツツジ科	岡崎市 準絶滅危惧
ツリガネツツジ (ウスギヨウラク) <i>Menziesia cilicalyx</i> (Miq.) Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

ウスギヨウラクとも呼ばれ、市内では標高の高い千万町町、切山町の谷間に生育するが、少ない。千万町町の愛知県野外教育センター内には若木が見られる。上品な花が咲き、観賞価値が高い。

本種は、日本海側に多いウラジロヨウラクと間違えられることもあるが、県内にウラジロヨウラクは確認されていない。本種は、花が筒形で黄緑色、がくが裂けないので区別できる。しかし、花のない時期では、枝葉や実はよく似ているので区別するのはなかなか難しい(小林, 2012)。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

林縁に生え、高さ1~2mになる落葉低木。若枝は無毛。葉は楕円形または長楕円形で先はとがり、基部は鋭形、葉柄は長さ1~3mmで無毛、縁に長毛があり、裏面はやや白みを帯び、脈上にあらい長毛が少数生える。花は4月~6月、花序は頂生し、長さ2~3mmの短い花序の軸に1~10個の花を束生状につける。花柄は長さ10~20mmがくは浅い皿形、花冠は筒形、黄緑色で背面または先が紅紫色を帯び、長さ12~15mmである。本州(山梨県・石川県以西)・四国(徳島県)の温帯に分布する(以上、佐竹ほか, 1989より)。

【引用文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.478. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本II, pp.125-126. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編I, p.176. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 186	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ツツジ科	岡崎市 準絶滅危惧
レンゲツツジ <i>Rhododendron japonicum</i> (A.Gray) Suringar		

【選定理由・現在の生育状況】

以前は、湿地、湿地状地、谷戸田の奥に広く見られたが、近年は限られた地にしか見られなくなった。開発や植生の遷移進行により、樹木が繁茂して被陰されたことが主な原因である。また、谷戸田の奥に生えていたものは、耕作放棄が悪影響を及ぼしている。

本種は現在、千万町町の湿地、愛知県野外教育センター内の湿地状地、大柳町の湿地、池金町の北山湿地などに生育しており、北山湿地では、保護活動が行なわれている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

高さ1~2mの落葉低木。葉は3輪生し、葉柄は1~3mm、無毛または長毛がまばらに生える。葉身は倒披針状長楕円形、長さ4~8cm、幅1.5~3cm、先はやや鈍く、先端に腺状突起がある。5月、新葉の展開とともに開花し、枝先の1個の花芽から短い総状花序を伸ばし、2~8個の花をつける。花冠は朱橙色、漏斗形で径5~6cm、筒部内部に短毛が生える。本州・四国・九州の山地の林縁や草地に生える(以上、佐竹ほか, 1989より)。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本II, p.142. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.491. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.468. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編I, p.150. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 187	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ヤブコウジ科	岡崎市 準絶滅危惧
ツルコウジ <i>Ardisia pusilla</i> DC.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

真福寺境内に生育しており、西三河における分布の北限になる。本種は、シイなどの常緑樹が優先する湿った林下に見られる。今のところ、生育数の大きな減少はないが、境内で大規模な環境変化をする場合には、本種の存続に留意することが必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

常緑の小低木。匍匐茎は長く伸びて、所々で輪生状に葉をつける。地上茎は斜上して、高さ 5～10cm、赤褐色の長軟毛を密生する。葉は 3～5 輪生し、洋紙質、卵形または卵状長楕円形、やや鋭頭、基部は鋭形、縁に粗大な鋸歯があり、側脈は約 7 対で、両面には長軟毛をつける。花は 6～8 月に咲き、2～4 個がつき、花冠は白色で、径 6～7mm、果実は、球形で赤熟し、径 5～6mm である。本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球の林内に生育し、朝鮮・台湾・中国大陸・フィリピンに分布する（以上、佐竹ほか, 1989 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.159. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.499. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.110. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 188	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 サクラソウ科	岡崎市 準絶滅危惧
クサレダマ <i>Lysimachia vulgaris</i> L. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R.Kunth		

【 選定理由・現在の生育状況 】

湿原や湿った草地に生える多年草で旧額田町地区にわずかに生育する。以前は、旧市内の大門町の矢作川河川敷、大井野町の草地にも生えていたが見られなくなった。草地の植物が、単調化していることを示している。旧額田町地区でも、湿った草地に外来種が侵入してきている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山中の湿地に生える多年草。横にはう地下茎から直立する地上茎を出し、高さ 40～80cm、やや密に短い腺毛と軟毛が生える。葉は 2～4 枚が輪生または対生し、柄がなく、披針形または狭長楕円形で、長さ 4～12cm、幅 1～4cm、先は鋭くとがり、裏面の葉肉内に黒色の腺点がある。7～8 月、茎の上部に円錐花序をつけ、多数の花を開く。黄色に花が目立つ様子が、マメ科のレダマを思わせるので草レダマというといわれるが、あまりレダマに似ていない（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）, 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, pp.17-18. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.493. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.228. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 189	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 エゴノキ科	岡崎市 準絶滅危惧
オオバアサガラ <i>Pterostyrax hispida</i> Sieb. et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇菟溪谷の沢すじの攪乱地や樹木を伐採した後に生える。県内では奥三河にやや稀に見られる。このような樹種が、闇菟溪谷で見られるのは、注目される。6月ごろ多くの白色の花を垂らし美しい。若木は群生するが、成木となるのの一部であり、他は淘汰される。闇菟溪谷での主な生育地は、林道沿いや沢沿いである。生育地での砂防工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山の谷合いに生える落葉小高木、高さ 8~10m。若枝はほとんど無毛で、皮は糸状にはげる。葉は長楕円形~卵状長楕円形、長さ 10~30cm、幅 5~10cm、薄く、裏面は帯白色で微細な星状毛がある。8~12 対の脈が隆起し、縁には微凸鋸歯があり、先は短く尾状に鋭くとがり、基部は鋭形またはやや円形で、長さ 5~22mm の葉柄がある。花は 6 月、下垂した長い円錐花序に多数偏側性につき、花柄はごく短い。花弁は 5 個、長楕円形で白色、離生し、長さ 6~7mm である。本州・四国・九州（中北部と対馬）、中国（中部）に分布する（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）、1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, pp.168-169. 平凡社, 東京.

【関連文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.509. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.103. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 190	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ハイノキ科	岡崎市 準絶滅危惧
クロミノニシゴリ <i>Symplocos paniculata</i> (Thunb.) Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

湧水湿地付近に生える落葉樹で、池金町の北山湿地や岡町の山ノ田池畔に見られる。愛知県では比較的よく見られるが、他県では稀な樹木になる場合がある。北山湿地では、湿地の周辺部に生え、湿地の景観を形づくっている。シロシタホタルガの食草でもある。同様な地に生えるノリウツギは、実生でよく殖えるが、本種は、あまり殖えない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山間の湿地のほとりに生える落葉低木。樹皮は紙状に薄くはがれる。葉は長楕円形、低い細鋸歯があり、長さ 3~10cm、幅 2~4cm、両面ともにほとんど毛がなく、先は急に鋭くとがり、基部はくさび形、花序は円錐形で無毛、花は白色で 5~6 月に開き、径約 8mm、果実は卵球形で黒く熟し、長さ 6~7mm である。本州（中部地方以西）に分布する（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）、1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.171. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.494. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.520. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.96. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 191	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 モクセイ科	岡崎市 準絶滅危惧
ミヤマイボタ <i>Liqustrum tschonoskii</i> Decne.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇苧溪谷の一部の散策路沿いに見られる。本種は、主に奥三河山地にやや稀に生育し、本宮山が愛知県における南限である(小林, 2012)。生育個体数が少ないのに、ニホンジカの好物で食害を受けることがあるので、この先の絶滅が危惧される。生育地である散策路沿いでの工事や整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地に生える落葉低木。高さ 1~3m となり、多く分枝して若枝は短毛がある。葉は卵状長楕円形~ややひし状卵形、薄くて光沢がなく、鋭頭、裏面にふつう毛があるが、全体に毛の多い物から中肋にだけ生えるものまで個体によって変異が多い。花は 6~7 月、枝端にはほぼ総状の円錐花序をつくるが、花序も大小変異が多い。花冠は白色で 6~7mm、筒部は裂片の長さの 1.5~2 倍ある。北海道・本州・四国・九州、樺太に分布する(以上、佐竹ほか, 1989 より)。

【引用文献】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.527. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.182. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ, p.80. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 192	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 リンドウ科	岡崎市 準絶滅危惧
ハルリンドウ <i>Gentiana thunbergii</i> (G.Don) Griseb.		

【選定理由・現在の生育状況】

以前は、市内の湿地、湿地状地、谷戸田奥などに広く見られたが、開発、耕地整理、園芸採取等で大きく減少した。美合町、羽根町、戸崎町、上地町、明大寺町の群生地は住宅地となって消滅した。現在、最も代表的な自生地は、池金町の北山湿地である。保護活動が行なわれているため、生育株数が保たれている。現在、北山湿地以外で、本種が見られる所は、湿り気のある土手で、秦梨町、大幡町、大高味町、南大須町、桜形町、鳥川町などであるが、今後の存続が危惧される。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

日当たりのよいやや湿った山野に生える無毛の越年草で、茎は基部が分枝してふつう束生し、高さ 5~15cm。根生葉はロゼット状につき、卵形で長さ 1~3cm、茎葉は卵状披針形で長さ 5~10cm、基部は合着して短い鞘となる。花は 3~5 月、茎頂に 1 個つく。がく筒は長さ 8~15mm、花冠はふつう青紫色で長さ 2~3cm である。本州~九州、朝鮮・中国に分布する(以上、佐竹ほか, 1981 より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.30. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.495. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.220. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 193	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 アカネ科	岡崎市 準絶滅危惧
ホソバノヨツバムグラ <i>Galium trifidum</i> L. var. <i>brevipedunculatum</i> Regel		

【選定理由・現在の生育状況】

北山湿地のやなが沢池や桑谷町の一部のため池の池畔に生える。湿った地を好む多年草である。近年、高茎植物の繁茂や生育地の乾燥化によって、減少してきた。やなが沢池では以前は池の岸にかなり広く生育していたが、生育地が限られてきた。本種は、道端や土手などの草地に生えるヒメヨツバムグラに似るが、葉先がまるく、葉の縁に下向きの短毛が生え、茎にふつう下向きのとげがある。子房も果実も無毛という特色がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

低地から亜高山にわたる湿地に多い多年草。茎は細く、斜上して長さ 20~50cm になり、4 稜があり、稜上にごく少数の下向きの刺がある。葉は 4~5 枚、ときに 6 枚輪生し、狭長楕円形または倒披針形で、長さ 0.5~2cm、幅 1.5~5mm、先は円形で、下部はしだいに狭くなり、毛はなく、縁と裏面中脈上にわずかに下向き刺状毛がある。6~8 月、枝先と葉腋から花序を出し、2~5 個の白色の花をまばらにつける。果実は無毛である。北海道~九州、朝鮮・中国・北アメリカに広く分布する(以上、佐竹ほか, 1981 より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.54. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.508. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.111. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 194	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 アカネ科	岡崎市 準絶滅危惧
ルリミノキ <i>Lasianthus japonicus</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

東三河以外では、岡崎市の山中八幡社叢が唯一の生育地である。高木層にツブラジイ、ツクバネガシを主体にし、亜高木層にリンボク、クロバイ、イヌガシ、ミミズバイ、低木層にルリミノキが生える。本種は、暖地の照葉樹林内に生える常緑低木である。この場所は、愛知県の自然環境保全地域に指定されており、生育地の森林を保全することが大切である。寺社林の場合、社殿改修などの折に伐採・除去されることがあるので、注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

常緑性の低木。高さ 1~1.5m になる。葉は対生し、長さ 5~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7~15cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、基部は鋭形、やや厚い革質で全縁、表面は無毛で光沢があり、裏面脈上に短毛が散生する。花期は 5~6 月、花は葉腋から出る短い集散花序に 2~4 個つき、下向きに咲く。花冠は白色で高杯形、長さ約 1cm、先端は 5 裂し、裂片は卵形で鈍頭、長さ約 4mm である。果実は液果で球形、直径約 6mm、晩秋にるり色に熟す。本州(東海地方、紀伊半島、中国地方)、四国、九州、琉球(沖縄島)、台湾北部、中国大陸南部に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.570. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.508. 新編岡崎市史編さん委員会.
小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.547. 小林元男, 豊川.
佐竹義輔・原 寛・互理俊次・富成忠夫(編), 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.202. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編 I, p.58. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 195	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ムラサキ科	岡崎市 準絶滅危惧
オニルリソウ <i>Cynoglossum asperrimum</i> Nakai		

【選定理由・現在の生育状況】

闇苧溪谷の散策路や盆地沢脇などに見られる。道端に生長すると草丈 60~120cm になるので、道の整備の折に除去されることが多い。そのため、生育個体数は、わずかである。本種は、山地の荒地や伐採跡地などの明るい所に生えるので、時として他の地でも見かけることがある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地に生える高さ 60~120 に達する越年草。全体にあらい開出毛が目立つ。葉は長楕円状披針で両端ともにとがり、長さ 10~20cm、幅 2~3.5cm、花序は総状で長く伸び、苞はない。花は径約 3mm、淡青紫色、6~8 月に開く。分果は縁と面にかぎ状の毛がある。北海道~九州、朝鮮に分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.66. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.199. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 196	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 クマツヅラ科	岡崎市 準絶滅危惧
カリガネソウ <i>Caryopteris divaricata</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

本宮山周辺の一部河川の上流沿いに生育する。沢沿いの所々に見られるが少ない。大型の多年草で、草丈が 1m ほどにもなる。8~9 月に美しい花をつける。本来は、日がよく当たるが乾燥しない場所を好む植物である。ここでは、かなり日陰に生えているので、存続が懸念される。生育地である沢沿いでの河川工事や砂防工事にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

低山の林縁に生える多年草。強い臭気がある。茎は 4 角で、上部で枝分かかれし、高さ 1m ほどになる。葉は葉柄があり、広卵形で、縁に鋸歯があり、長さ 8~13cm、幅 4~8cm。がくは鐘形で長さ 2~3mm、果時には 5~6mm となる。8~9 月、腋生の集散花序にまばらに花をつける。花冠は青紫色、長さ 8~10mm の花筒があり、先は 5 裂し、下側の 1 個は特に大きく反曲する。北海道~九州、朝鮮・中国に分布する。和名は雁草で、花の様子を雁（かりがね）に見立てたものをいう（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.68. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.192. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 197	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 準絶滅危惧
タチキランソウ <i>Ajuga makinoi</i> Nakai		

【 選定理由・現在の生育状況 】

關荊溪谷の散策路脇の斜面に生育する。ここで見られるのは、花がやや小さくキランソウに近いタイプのものである。東三河には花が大きいタチキランソウの典型的な形態のものが多いが、西三河や尾張には、このような花の小さいものがしばしばある。生育地である散策路沿いでの工事や整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【 種の概要 】

山地にはえる多年草。茎は株から数本束生し、通常斜上するが倒伏して開出することもあり、長さ 5~20cm、全体に長い白毛が散生する。葉は対生し、下部の 1~2 対の葉は鱗片状またはさじ状となる。上部の数対の葉は長楕円形、花時には長さ 3~5cm、幅 1~1.5cm であるが夏葉はより大きくなり、先端は鋭~鈍頭、基部は細まって柄となり、辺縁には少数の先の円いあるいは重歯牙がある。花期は 4~6 月、花は上部の葉腋に数個づつつき、花冠は青紫色で長さ約 15mm、上唇は直立し、長さ 2~3mm あって 2 裂する。日本固有種で、本州（関東地方南西部~東海地方）に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.633. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.499. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.74. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.190. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 198	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 準絶滅危惧
アキチョウジ <i>Rabdosia longituba</i> (Miq.) Hara		

【 選定理由・現在の生育状況 】

現在、關荊溪谷、東河原町、須淵町などに生育しているが、以前に比べ生育地、生育個体数ともに減少した。本種と類似種セキヤノアキチョウジ（本書 106 ページ参照）の区別は、次のようである。

- ・アキチョウジ …花序は幅がせまく、個々の花の柄は細毛があり 1cm 以下、がくの歯はみな先が細くならない。
- ・セキヤノアキチョウジ …花序は幅が広く、個々の花の柄は無毛で 1~2.5cm、がくの歯は先が細くとがり、特にながく上唇の歯は目だって細くなる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の半日陰に生える多年草。茎は 4 角で高さ 70~100cm、稜に下向きの毛がある。葉は狭卵形で長さ 7~15cm、幅 2.5~5cm、まばらに毛があり、先は鋭くとがり、縁に鋸歯があり、基部はくさび形の翼となって葉柄に移行する。花は青紫色で 8~10 月頃に開く、長さ 1.7~2cm、やや一方に偏った細長い花穂をつくる。本州（岐阜県以西）~九州に分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.79. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.500. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.164. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 199	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 準絶滅危惧
タカクマヒキオコシ <i>Rabdosia shikokiana</i> (Makino) Hara var. <i>intermedia</i> (Kudo) Hara		

【 選定理由・現在の生育状況 】

山の木陰に生える多年草で、木下町、東河原町、切山町などに生える。林下にある程度群生するが、生育地が限られている。そのため、保護の配慮が必要であると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

茎の長さ 50~80cm になる多年草。葉は広披針形または狭卵形で先は長く鋭くとがり、裏面にはまばらに毛が生える。花序は長さ 5~15cm あり、青紫色の花は長さ 1cm ほどである。花期は、8~10 月である、本州（福島県以西の太平洋側）、四国、九州に分布する（以上、林, 2009 より）。

【 引用文献 】

林 弥栄（編）, 2009. 増補改訂新版 日本の野草, p.231. 山と溪谷社, 東京.

【 関連文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.79. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.165. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 200	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ゴマノハグサ科	岡崎市 準絶滅危惧
ママコナ <i>Melampyrum roseum</i> Maxim. var. <i>japonicum</i> Franch. et Sav.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は市内に広く見られたが、生育地が減少した。現在は外山町、駒立町などのやや乾いた土手に生育する。半寄生の一年草である。ママコナの名は、下唇の白斑を米粒に見立てたとも、若い種子が米粒に似るからともいう。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山地の林下などに生え、茎は直立し高さ 20~50cm。葉は長卵形で両端とがり。3~15cm の柄があり、両面短毛を散生し、長さ 2~8cm、幅 1~3cm、7~9 月、枝先長さ 3~10cm の花序をつくり多くの花をつける。花軸やがくには白毛がやや密に生える。苞は葉状で小さく、先は鋭くとがり、両縁に刺毛状の長い歯牙がある。がく裂片の先は鋭くとがる。花冠は紅紫色、花喉の両側に白色の斑があり、長さ 14~18mm である。北海道西南部・本州・四国・九州・朝鮮南部に分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.114. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.503. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.137. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 201	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 ゴマノハグサ科	岡崎市 準絶滅危惧
ミゾホオズキ <i>Mimulus nepalensis</i> Benth. var. <i>japonicus</i> Miq.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇菫溪谷や東河原町の陰湿地に生える小型の多年草である。夏に黄色の美しい花が咲くと、目立つ。生育に適した陰湿地の減少により、生育個体数が減ってきた。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山中の水湿地に生える多年草。茎は柔らかく分枝して広がり、長さ10~30cm。歯は膜質で卵形または楕円形でとがり、長さ1~4cm、幅0.5~2cm、基部に柄があり、縁には少数の鋸歯がある。6~8月、上部の歯腋に1花をつける。花柄は細く、長さ1.1~2cm。がくは筒状、先は切形で5個の小さな突起状の裂片があり、軟毛が生える。花冠は黄色で、がくよりやや長く、長さ10~15mmである。北海道~九州、朝鮮南部・中国(台湾)に分布する(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.103. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編I, p.151. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 202	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 イワタバコ科	岡崎市 準絶滅危惧
イワタバコ <i>Conandron ramondioides</i> Sieb.et Zucc.		

【選定理由・現在の生育状況】

闇菫溪谷、木下町に生育する。闇菫溪谷には、かなりの生育個体数が見られるが、以前に比べると減少傾向が見られる。谷が乾燥したため生育が見られなくなったり、生育面積が減少したりした所があるからである。健胃や心臓病などの薬として採取されることもある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

日陰の岩壁などにはえる多年草。根茎に褐色の長毛があるほかは無毛である。ふつうは1~2枚の大きな葉があり、ときにさらに小さい葉のつくことがある。大型の葉は3~10cmの翼のある柄があり、葉身は長さ10~30cm、幅5~15cm、楕円状倒卵形で先はとがり、下部は円形またはしだいに柄の方に挟まり、不ぞろいな歯牙がある。葉質は柔らかく、表面の脈はへこんでしわのあるように見える。6~8月、葉腋から、長さ10~30cmの花茎を伸ばし、2~30個の花をつける。本州(福島県以南)~九州に分布する。冬は葉がしわのあるこぶし状に堅く巻いて芽を包み、越冬する。葉がタバコの葉に似ていて、岩壁にはえるのでこの名がある(以上、佐竹ほか, 1981より)。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.131. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.505. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編I, p.123. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 203	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 準絶滅危惧
イヌタヌキモ <i>Utricularia australis</i> R.Br.		

【選定理由・現在の生育状況】

水田脇の水路、ため池などに生育しているが、以前に比べると少なくなってきた。現在生育している所も、水質の変化や開発によって消失する可能性がある。小呂町の水路では、年によって生育状況に大きな差がある。ほとんどが水路における生育であるが、池金町では、ため池に生育している。主な生育環境である水路やため池の保全が望ましい。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

水中に浮遊する食虫性の多年生草本。茎は長さ1mに達するが、細く、切れやすい。葉は互生し、長さ1.5~4.5cm、基部で2本の枝に分かれ、更に何回か二叉状に分枝し、通常多数の捕虫のうをつけるが、ほとんどつけないこともある。花期は7~9月、花茎は長さ10~30cmで、水面から出て直立し、しばしば茎より太く、中実、先端に数個の花をつけ、花柄は長さ0.5~3cmで、花後下向きに曲がる。花弁は黄色で、直径1.2~1.5cm、距は下唇より短い。殖芽は夏~秋に茎や側枝の先端につき、長楕円形、長さ4~10mm、暗褐色である。北海道、本州、四国、九州、琉球、ユーラシア、アフリカ、オーストラリアに分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.639. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.506. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.138. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編I, p.121. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.149. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 204	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 準絶滅危惧
ミミカキグサ <i>Utricularia bifida</i> L.		

【選定理由・現在の生育状況】

以前は、多くの湿地、湿地状地に生育したが、それらの消滅により、現在は北山湿地など限られた地に生育する。本種は、湿地に生える小さな食虫植物である。地表近くに糸のような地下茎がはいまわり、空中には長さ数mmの細い葉を出し、地中には微細な捕虫のう（小さな動物をとらえる袋状の器官）をつける。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

多年草。湿地生ではあるが、泥、ミズゴケ、砂等色々なものの上に生育することができるので、水位の変化するため池の縁にも多く生育し、水位が下がった時には水面上1mをこえるような所に見かけることもまれではない。横にはう地中軸の所々より長さ6~8mmで線形の地上茎を出す。捕虫のうは地下部につくが、時に地上葉にもつく。8~10月に高さ5~15cmの花軸を出し、黄色で長さ3.5mm位の花を2~7個つける。距は後方斜め下を向く。明らかな花柄がある。花後、花柄は伸びて開出し、宿存がくも長さ5mm位に伸び広がり、耳かきのようなになる。果実は長さ約3.5mmで宿存がくに包まれる。本州~琉球、中国・インドからマレーシア・オーストラリアまで広く分布する（以上、佐竹ほか, 1981より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類, p.138. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.505. 新編岡崎市史編さん委員会.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編I, p.121. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 205	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 タヌキモ科	岡崎市 準絶滅危惧
ホザキノミミカキグサ <i>Utricularia racemosa</i> Wall.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

以前は、多くの湿地、湿地状地に生育したが、それらの消滅により、現在は北山湿地など限られた地に生育する。本種は、湿地に生える小さな食虫植物である。地下茎は糸のように細く、まばらにへら形の葉をつけ、地中には微細な捕虫のう（小さな動物をとらえる袋状の器官）をつける。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

湿地性の多年草で、しばしばミズゴケの上やミカヅキグサ属などの植物の根ぎわに生える。比較的通気の良い状態を好むようで、水面から 10cm 位高い所でもよく育つ。地中に横にはう白い軸の所々に長さ 2~3.5mm のへら形の地上葉が集まってつく。捕虫のうは少なく、主として仮根につく。日本産のミミカキグサ類ではもっとも大きく、花軸は高さ 10~30cm。6~9 月に、ほとんど無柄で、淡紫色、長さ約 4mm の花を 4~10 個つける。距は前方につき出す。北海道~琉球、朝鮮・中国よりインドにかけて分布する（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.138. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.506. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.121. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 206	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 スイカズラ科	岡崎市 準絶滅危惧
オオカメノキ (ムシカリ) <i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

井沢町、切山町の沢沿いに生育する。温帯性の落葉小高木で市内に少ない。愛知県の南限になる。花は、4~5 月枝先に直径 6~14cm の散房花序を出し、白い花を多くつける。花序の中心部には小さな両性花が集まり、そのまわりに径 2~3cm の白い装飾花がつく。装飾花は、5 裂して平開する。開葉にやや遅れて開く白い花は、非常に目立つ。生育地である沢沿いでの河川工事や砂防工事にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

高さ 6m に達する落葉小高木、枝は開出し、褐紫色、中実で白い髓がある。若い枝は細かい星状毛がある。芽は秋には鱗片葉をもつが、早く落ちるために冬には裸芽となる。葉は若い時は片巻きになっていて、円状~広卵形、先端は急鋭尖頭かまれに円頭、基部は明らかに心形、長さ幅とも 6~20cm、縁はふつう重鋸葉があり、表面では脈と細脈はへこんでいてしわがある。側脈は 7~10 対で、裏面に突出する。散房花序は短い枝の先に 1 対の葉とともにつき、総花柄はなく、ふつう 5 放射状である。北海道・本州・四国・九州（対馬・屋久島を含む）の標高 50~2,600m のブナ林と亜高山針葉樹林にふつうに生える（以上、佐竹ほか、1989 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫（編）, 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ, p.229. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

小林元男, 2012. 愛知県樹木誌, p.568. 小林元男, 豊川.
北村四郎・村田 源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編 I, p.31. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 207	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 オミナエシ科	岡崎市 準絶滅危惧
オミナエシ <i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch.		

【選定理由・現在の生育状況】

近年、急激に減少してきた植物である。以前群生していた所でも見られなくなっている。現在では桑谷町の農業用水路の土手、牧平町のため池の土手、石原町の一部の河川敷などに生育している。花の白い類種のオトコエシの方は、山地の林縁や草原に比較的多く見られる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

日当たりのよい山の草地に生える多年草。茎は高さ 60~100cm、下部に多少あらい毛がある。地下茎は横にはい、新苗は株の側にできる。葉は対生し、頭大羽状に深裂し、オトコエシより毛が少ない。花は 8~10 月。多数の黄色の小花をつけ、花序の上部はほぼ平らで、枝の一侧に凸起状の白い短毛がある。花冠は 5 裂し、径 3~4mm、果実は長楕円形で長さ 3~4mm である。北海道~九州のほか、朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。万葉時代から秋の七草の一つとして有名である（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.147. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.510. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.102. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 208	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キキョウ科	岡崎市 準絶滅危惧
サワギキョウ <i>Loberia sessilifolia</i> Lamb.		

【選定理由・現在の生育状況】

小呂湿地や北山湿地などに生育する。以前は、多くの湿地状地に生育していたが、ほとんど見られなくなった。旧額田町地区には、所々に狭い生育地があるが、その存続が危ぶまれる所が多い。本種は、花が美しいため関心を持つ人が多い。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山野の湿地に生える無毛の多年草。根茎は短く、太く、横にはい、茎は中空で高さ 50~100cm、分枝しない。葉は互生し多数つき、披針形で長さ 4~7cm、低鋸歯があり、柄がない。上部の葉はしだいに小型になり、ついには苞となりその腋に花をつけ、密な総状花序となる。花は 8~9 月、花冠は濃紫色、長さ 2.5~3cm、唇形で、上唇は 2 深裂、下唇は 3 浅裂、裂片の縁に長い毛がある。北海道~九州、朝鮮・中国・千島・樺太・シベリア東部・カムチャツカに分布する（以上、佐竹ほか, 1981 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.154. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.512. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.91. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 209	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 準絶滅危惧
オタカラコウ <i>Ligularia fischerii</i> (Ledeb.) Turcz.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

闇苧溪谷の溪流沿いの湿地状地に生育する。近年野生動物の食害を受けているので、生存が危惧される。以前は、桑谷山、扇子山にも見られたが、見られなくなった。現在見られなくなったのは、被陰のためと思われる。また、生育地である溪流沿いで河川工事や林道整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

深山の谷川のほとりに多い大型の多年草で、しばしば群生する。茎は高さ 1~2m。上方にちぢれた短毛がある。根出葉は大きく、腎心形で長さ 32cm、幅 40cm に達する茎葉は 3 個で上部のものは小さい。花序は長さ 75cm に達し、下部から開花する。花は 7~10 月。頭部は 1~9cm の柄があり、上向きに咲く。総苞は筒鐘形、長さ 10~12mm、舌状花は 5~9 個あって花冠は長さ約 25mm、幅 3~4mm、冠毛は長さ 6~10mm で、帯褐色または帯紫褐色。温帯~暖帯に生育し、本州（福島県以南）~九州、シベリア東部・樺太・中国・ヒマラヤに分布する。北海道と東北の大部分に分布を欠くのは、日本に朝鮮半島を経て侵入し、まだ北部に及ばないからである（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.184. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.519. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.41. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 210	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 キク科	岡崎市 準絶滅危惧
ミヤマヨメナ (ノシュングク) <i>Miyamayomena savatieri</i> (Makino) Kitam.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

木下町、千万町町の林下、林縁に群生するが、市内の生育地は限られている。やや日陰で開花する。花期の 6 月にも根生葉が残る。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山の陰地に生える多年草。茎は高さ 20~50cm、ふつうそう生する。根出葉は開花時に生きており、ロゼット状で、長い柄がある。葉身は長楕円形まれに卵状長楕円形、長さ 3.5~6cm、幅 2.5~3cm、鋭頭または鈍頭、縁には大きな鋸歯があり、両面に微毛があり、柔らかい。花は 5~6 月、枝の先に 1 個つき、淡青紫色、径 3.5~4cm。温帯下部に生育し、本州~九州に分布する。ノシュングクやヨメナなどのノギク類は秋に咲くが、本種は晩春から初夏に咲くのが珍しい（以上、佐竹ほか、1981 より）。

【 引用文献 】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.190. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.85. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 211	種子植物 被子植物 単子葉 オモダカ科	岡崎市 準絶滅危惧
アギナシ <i>Sagittaria aginashi</i> (Makino) Makino		

【 選定理由・現在の生育状況 】

小呂湿地、北山湿地、大柳町の湿地状地などに生育するが、生育地が限られている。オモダカよりやや安定した場所に多く、耕作中の水田には普通生えない。北山湿地のやなが沢池の周囲にかなり生えていたが、近年減少した。主な生育環境である湿地状地の保全が望ましい。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【 種の概要 】

多年生草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は矢じり形、頂裂片は広披針形～線形、長さ 7.5～17.5cm、鈍端、側裂片は頂裂片より少し短く、先端は次第に細まり鈍端となり、辺縁は全縁、両面とも無毛である。花期は 7～10 月、花茎は高さ 30～80cm で、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する総状花序をつくり、花序の上部に雄花、下部に雌花をつける。花弁は 3 個、白色、卵円形で長さ 10～13mm、果実はそう果で倒卵形、広い翼がある。葉腋に多くの小球茎をつけ、栄養的に繁殖する。北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島に分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.642. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.523. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.1. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.400. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.20. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 212	種子植物 被子植物 単子葉 トチカガミ科	岡崎市 準絶滅危惧
ミズオオバコ <i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.		

【 選定理由・現在の生育状況 】

合歓木町・福桶町の合歓木川支流などに見られる沈水性の 1 年草である。この水路は、毎年清掃作業をして本種を除去するが、経年見られる。このような富栄養水域とは別に、休耕田を掘った水たまりにも見られる。生育地である水路での工事や整備にあたっては注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【 種の概要 】

沈水性の 1 年生草本。茎は短く葉を束生する。葉の大きさは変異が著しく、小さいものは葉柄の長さ 1.5～2cm、葉身の長さ 3～5cm で花をつけるが、大きいものは葉柄の長さ 40cm、葉身の長さ 30cm に達する。葉身は披針形～円心形、辺縁は全縁のことが多いが顕著な小歯牙が出ることもある。花期は 8～10 月、長さ 2～70cm の花茎の先に 1 個の花をつける。花弁は 3 個でほぼ円形、白色～淡紅色、子房は下位で表面に翼状の隆起条があり、隆起条はしばしば著しく波状に縮れる。北海道(南部)、本州、四国、九州、琉球、アジアの温帯～熱帯、オーストラリアに分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【 引用文献 】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.643. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【 関連文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.524. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.3. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.395. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.28. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 213	種子植物 被子植物 単子葉 ホンゴウソウ科	岡崎市 準絶滅危惧
ホンゴウソウ <i>Andruris japonica</i> (Makino) Giesen		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史にも取り上げられていない植物であるが、今回の調査で本多澄夫氏により北山湿地で確認された。その後、旧額田町地区の外山町でも確認された。小さな植物であるため、キノコを専門に調査している人によって見つかることが多いが、キノコの専門家にとっては目的外の植物であり、報告されることが少ない。今回もとりとめのない会話の中で突然飛び出してきたので、本多氏より標本を見せてもらった。しかし、安定して生育する種でなく、毎年確認するのは難しいとのことである。外山町の生育地も湿地のようなどころであるが、上部は木々により被陰されてしまっているため、地上には植物がほとんど生育していない。このように人があまり近寄らないところを好むので、注意深く観察すれば今後、確認事例も増えるのではないかとと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

暗い林の下の落葉の間にはえる多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎の高さは3～13cm、きわめて細く、径0.5mm以下である。葉は鱗片状で長さ約1.5mm、茎とともに紫褐色をしている。7～10月に、長さ0.5～2cmの総状花序をつくり、4～15個の花をつける。花序の下部に雌花、上部に雄花がつく。苞は鱗片状で先はとがる。花柄は糸状で長さ3mm。雄花は径約2mm。花被は紫紅色で深く6裂し、裂片のうち3個は卵状披針形で大きく、他の3個は小さく、先が細長く伸びて、先端に球形の付属体をつけているが、これは早い時期に落ちる。雄ずいは3個で、大きい方の花被片と対生する。花糸は短く、基部は互いに合生している。葯は横方向に長い。葯隔から針状の付属突起が伸び、花被片の約半分の長さになる。雄花は花が終わると、花柄の中央部の離層から切れて落ちる。雌花は径約1.5mmで、花被は6裂する。心皮は多数あって離生し、球状に集まっている。花柱は各心皮の腹面の上部につき、糸状で長さ約0.7mm。果実は、多数の心皮が集まった径約2mmの球形の集合果となる。種子は各心皮内に1個。本州（関東以西）～琉球にややまれに分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.19. 平凡社, 東京.

【関連文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.438. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 8 植物Ⅰ (維管束植物), p.366. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.391. 保育社, 大阪.

(執筆 安達史幸)

維管束植物 214	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヤマラッキョウ <i>Allium thunbergii</i> G.Don		

【選定理由・現在の生育状況】

千万町などの湿り気のある草地に見られる。以前は、旧市内の須淵町、駒立町などにも見られたが、近年は姿を見かけない。減少傾向にあると思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の草原に生える多年草で、鱗茎は狭卵形で2～3cm、外皮は灰白色。花茎は高さ30～60cm、下部に3～5個の葉がある。葉は円柱形で長さ20～50cm、幅2～5mm、断面は鈍三角形。9～10月、花茎の頂に多数の花が球状に散形花序につく。花被片は紅紫色、楕円形で先は円く、長さ5mm内外、平開しない。本州（福島県以南）～琉球、朝鮮南部・中国（本土・台湾）に分布する。山に生えるラッキョウの意であるが、鱗茎は食べない（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.36. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.548. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.125. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 215	種子植物 被子植物 単子葉 ユリ科	岡崎市 準絶滅危惧
ササユリ <i>Lilium japonicum</i> Thunb.		

【選定理由・現在の生育状況】

生育地は、市街地を除き広く存在するが、以前に比べ生育個体数が減少している。保護活動が下山学区、形埜学区、新香山学区などで行なわれており、それなりの成果をあげているが、近年は、イノシシ、ニホンザルによる球根、シカによる若い苗の食害が大きい。一方、樹木や高茎植物の繁茂による被陰のために、生育できなくなったものもある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の草原に生える多年草。鱗茎は卵形、白色で径 2~4cm、苦味はない。茎は高さ 50~100cm、葉はあまり多くはつかず、披針形で長さ 8~15cm、はっきりした柄がある。花は 6~7 月、茎頂に数個、横向きを開く。花被は淡紅色で漏斗形、花被片は倒披針形で長さ 10~15cm、内片が幅広く、先はやや反りかえる。本州（中部以西）~九州に分布する。和名は笹百合で、葉がササの葉に似ているのでいう。葉の広いもの、狭いもの、花の白色のものなど変化がある（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.41. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.549. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.129. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 216	種子植物 被子植物 単子葉 ビヤクブ科	岡崎市 準絶滅危惧
ナベワリ <i>Croomia heterosepala</i> (Baker) Okuyama		

【選定理由・現在の生育状況】

真福寺町、須淵町、闇苧溪谷に生育する。市内には、少ない植物である。地下茎は横に這い処々から茎を地上に出す。花は 4~5 月ごろ出る。葉の付け根から出て、細い柄があつて垂れ下がるので、ちょうど葉の下に隠れるようにつく。花弁は 4 枚、2 枚ずつ対生して内外の 2 列になる。花弁は楕円形、緑色でほぼ水平に開く、外側の 1 枚だけが特に大きいので、不対称の変った花形になる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

暖地の林下に生える多年草。茎は高さ 30~60cm、葉は卵状楕円形で長さ 6~15cm、幅 3~8cm、先は急にとがり、基部はわずかに心形となり、太い 5~9 脈があり、光沢がない。葉腋から長さ 3~5cm の細い花柄が湾曲して垂れ下がり、その中央より基部寄りにごく小さな苞がつき、花柄の先はやや太くなり、黄緑色の小花が下向きに開く。花被片は 4 個で平開する。本州（関東以西）~九州に分布する。葉は有毒である（以上、佐竹ほか、1982 より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.52. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.547. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.158. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 217	種子植物 被子植物 単子葉 イネ科	岡崎市 準絶滅危惧
ヒメコヌカグサ <i>Agrostis valvata</i> Steud.		

【選定理由・現在の生育状況】

北山湿地（やなが沢池畔）、小呂湿地、桑谷町（ため池畔）などに見られる。県内には、わりに多く見られるが、全国的には減少傾向の著しい植物である。そのため、それなりに生育環境の保全に配慮すべきである。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

繊細な多年生草本。小さい株になることが多い。茎は高さ 40～70cm、鮮緑色で平滑、葉は互生し、線形で柔らかく、長さ 7～15cm、幅 3～5mm、葉舌は長さ 1～3mm である。花期は 5～6 月、円錐花序は長さ 10～15cm、枝は斜めに開出し、まばらに小穂をつける。小穂は長さ 2.5～3mm、淡緑色でときに少し紫色をおびる。苞穎は広披針形で内折し、鋭頭で 1 脈がある。小花は 1 個、淡色、苞穎と同長か、それより少し長い。日本固有種で、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）、2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編、p.646. 愛知県環境部自然環境課、名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之、1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.526. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編）、1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.125. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫、1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.352. 保育社, 大阪.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 218	種子植物 被子植物 単子葉 ミクリ科	岡崎市 準絶滅危惧
ナガエミクリ <i>Sparganium japonicum</i> Rothert		

【選定理由・現在の生育状況】

池金町（やなが沢池）、千万町町（ため池）、上衣文町（青木川）などに見られる。生育していた池が改変されて、見られなくなったり、生育個体数が減少したりしている。上衣文町（青木川）では、流水中に生えており、水中葉だけが出て、セキショウモのような形になっている。生育地であるため池の改修工事や河川の工事にあたりは注意が必要である。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

多年生草本。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、分枝せず、高さ 35～100cm になる。葉は 2 列に互生し、線形、抽水葉は裏面に稜があって断面は三角形になり、幅 7～14mm、下部は葉鞘となる。花期は 6～9 月、雌雄同株、茎の上部に雄性の頭状花序をややまばらに 5～10 個つけ、その下に雌性の頭状花序を 2～6 個つける。雌性花序のうち下部 1～3 個は、長さ 1～3.5cm の柄があり、少なくとも最下のものは柄が主軸と合着しない。雌性花序は球形で、果期には直径 1.5～2cm になり、果実は紡錘形、本体は長さ約 4mm で、短い小柄がある。北海道南西部、本州、四国、九州、朝鮮半島、ウスリーに分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター（編）、2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編、p.647. 愛知県環境部自然環境課、名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編）、1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.143. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫、1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.420. 保育社, 大阪.
角野康郎、1994. 日本水草図鑑, p.80. 文一総合出版, 東京.

（執筆者 千賀敏之）

維管束植物 219	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 準絶滅危惧
ムギラン <i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

古部町や石原町などの神社などのスギに着生している。闇荊溪谷の溪流沿いの樹木にもわずかに見られる。須淵町の神社に見られたものは、道路の拡幅工事のため減少した。

神社の境内にあるスギなどの大木は、樹齢数百年になっていることも多く、ムギランやカヤランなどの着生ランの生育適地になっている。着生ランの見られる木だけでなく、周囲の樹木も含めて保全することが必要である（愛知県環境調査センター, 2009）。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、卵球形で長さ 6~8mm の偽球茎をまばらにつらね、その上に 1 個の葉をつける。葉は肉質で厚く、長楕円形、長さ 1~3cm、幅 6~8mm、先端は円頭、中脈は明瞭である。花期は 6~7 月、偽球茎の基部から長さ 6mm ほどの花茎を出し、その先端に帯黄白色の花を 1~3 個つける。苞は長楕円形で膜質、がく片は 3 枚で卵状楕円形、長さ 3~3.5mm、側花弁はがく片とほぼ同長で、辺縁に毛がある。唇弁は卵形で厚く、ずい柱の基部から出る突起の先につく。日本固有種で、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する（以上、愛知県環境調査センター, 2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.650. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.231. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.59. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 220	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 準絶滅危惧
クロヤツシロラン <i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa		

【選定理由・現在の生育状況】

生平町のモウソウ竹林に見られる市内には少ない腐生の多年生植物である。暗い竹林の所々から、花柄や果柄を伸ばす。アキザキヤツシロラン（本書 120 ページ参照）に似た植物で、花期は同じ 9 月下旬~10 月である。花の時期は、落葉から少し顔を出す程度の大きさであり、うっかりすると踏みつけそうである。10 月下旬~11 月の果実の時期は、花の時期の何倍もの高さに丈を伸ばしてくる。種子を少しでも遠くに飛ばそうとするためと思われる。クロヤツシロランの名は、アキザキヤツシロランの果実の色が白っぽいのに対して、果実の色が黒褐色のためである。花を、翌年観察しようと思つておいても、休眠期をもつため、必ずしも咲くとはかぎらない。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

1980 年にクロヤツシロランがアキザキヤツシロランから分類され、新種として発表された（澤, 1980）。その花の区別点は次のようである。

- ・クロヤツシロランがほとんど平開に近い状態になるのに対し、アキザキヤツシロランは筒状のまま平開しない。
- ・色は、クロヤツシロランに赤みがあり、アキザキヤツシロランに緑が入っているように見える。
- ・クロヤツシロランの唇弁には毛があり、肉眼でもよく見ればわかる。アキザキヤツシロランにはこの毛はない。

【引用文献】

澤 完, 1980. 高知県中部のラン科植物. 高知大学学術研究報告 自然科学, 29: 59-71.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 221	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 準絶滅危惧
クモラン <i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume		

【選定理由・現在の生育状況】

古部町、木下町、東河原町、桜井寺町の神社や寺などに見られるが、減少傾向にある。これは、他のランのように採取圧によるというよりも、周囲の林が切り開かれたり、道路が整備されたりすることによる乾燥化の影響が大きい。根は長さ 2~3cm で、短縮した茎から放射条に出る。ほとんど枝分かれせず、樹皮に密着する。やや扁平で白っぽい緑色をしている。葉はまったくなく、光合成は根がしている。名前は、根を広げる様子をクモに見立てたものである。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

日当たりのよい所の大型の低木に着生する。根は長さ 2~3cm、灰緑色で扁平、放射状に束生し、樹幹に密着する。茎は極めて短く、5~7月、細くて1cmにたりない花茎を1~5本出し、1~3花を総状につける。苞は3角形、長さ1mm、鋭頭。花は淡緑色で微小、花被片は基部で合着して、筒形となり、長さ2mm、がく片と側花弁はともに卵状披針形、唇弁は上向き、舟形で長さ1.5mm、先端は針状で内側に折れ曲がり、基部は球状楕円形の距となる。本州（関東以西）~琉球、朝鮮・中国（本土・台湾）・ヒマラヤ・マレーシアに分布する（以上、佐竹ほか、1982より）。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.232. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.556. 新編岡崎市史編さん委員会.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.63. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 222	種子植物 被子植物 双子葉 離弁花類 メギ科	岡崎市 情報不足
ヒメイカリソウ <i>Epimedium × youngianum</i> Fisch. et Mey.		

【選定理由・現在の生育状況】

桑谷町、渡通津町に生育していた（大原・千賀，1985）が、近年確認できない。しかしながら、現在もどこかで残存している可能性もあるため、絶滅と断定できない。人目につきやすい所では、園芸採取の対象となっている。隣接の幸田町には、生育している。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

イカリソウには色々な変種が認められているが、それらの区別は必ずしも容易ではない。ヒメイカリソウはバイカイカリソウとイカリソウの雑種といわれ、葉は冬に枯れ、裏面に開出する細毛がある。葉の分裂の様式は一定せず、まず2出し、ついで3出することが多い。花は白色、花弁に距のあるものもないものもある。本州西部~九州に分布する（以上、佐竹ほか、1981より）。イカリソウの名は、花の形が錨（いかり）に似ていることによる。

【引用文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類, p.90. 平凡社, 東京.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.457. 新編岡崎市史編さん委員会.
(イカリソウとして)
北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I, p.202. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 223	種子植物 被子植物 双子葉 合弁花類 シソ科	岡崎市 情報不足
シロネ <i>Lycopus lucidus</i> Turcz.		

【選定理由・現在の生育状況】

以前は矢作川の水際はかなり生えていたが、近年見かけなくなった。ダムなどの建設などより流量が減少して川底が安定してきたことや、ヨシやセイタカアワダチソウの繁茂が衰退につながってきたと思われる。現在の生育状況がつかみにくい状況であるため、情報不足と評価した。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生草本。白色の長い地下茎がある。地上茎は太く、断面は四角形で直立し、高さ 80~120cm、時には 2m 以上になる。葉は多数つき、対生して短い柄があり、葉身は広披針形~狭楕円形、長さ 8~15cm、幅 1.5~4cm、先は鋭くとがり、辺縁には鋭い鋸歯があり、質は硬くて表面に光沢がある。花期は 8~10 月、花は上部の葉腋に集まってつき、花冠は白色で長さ約 5mm、がくは長さ 4~5mm で 5 中裂し、裂片は鋭く刺状にとがる。北海道、本州、四国、九州、東アジアと北アメリカに分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.574. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.500. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類, p.83. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ, p.171. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 224	種子植物 被子植物 単子葉 イバラモ科	岡崎市 情報不足
イトトリゲモ <i>Najas japonica</i> Nakai		

【選定理由・現在の生育状況】

板田町や池金町の水田脇水路や水田中などに生育する。年によって多く見られたり、ほとんど見られなかったりする。そのため、その生育状況がつかみにくい。ていねいに見れば、他の地でも見つけられるのかもしれない。

県・国の評価区分	
愛知県	国リスト
環境省	準絶滅危惧

【種の概要】

沈水性の 1 年生草本。茎は細く、よく分枝し、長さ 10~30cm になるが、折れやすい。葉は各節に 5 個づつ輪生し、細く線形、長さ 1.2~2cm、幅約 0.2mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は切形となる。花期は 6~9 月、雌雄同株で、各節に 1 個の雄花と 2 個の雌花がつく。果実は各節に 2 個並んでつき、それぞれ 1 個の種子がある。種子は長楕円形で長さ約 2mm、幅約 0.5mm、表面に縦に長い格子模様がある。北海道南部、本州、四国、九州、東アジアに分布する（以上、愛知県環境調査センター、2009 より）。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編-, p.645. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.523. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.18. 平凡社, 東京.
 北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.409. 保育社, 大阪.
 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.53. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 225	種子植物 被子植物 単子葉 ホシクサ科	岡崎市 情報不足
シラタマホシクサ <i>Eriocaulon nudicuspe</i> Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

旧額田町地区の湿地1箇所(面積約50m²)に2,000株以上が生えている。本種は、東海地方の湧水湿地に生える一年草の固有種であり、今まで岡崎市内では自生は知られていない。当地のものが自生とすれば、分布上極めて貴重な存在である。自生かどうかの判断は、植物そのもの(形態、生態)の調査だけでは、普通困難と言われている。現時点では、当地がかつて水田であったという情報や、過去に本種が持ちこまれたという情報は得られていないが、自生かどうかの判断ができない状況であるので、情報不足と評価した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

1年生草本。茎は通常ごく短い、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ5~30cm、幅1~5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は8~10月、花茎は1本のものから50本以上出るものまであり、直立して高さ15~60cm、4肋があつてねじれ、基部に3~12cmの鞘があり、先端に1個の頭花をつける。頭花は球形、直径5~10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は3室である。日本固有種で、本州(静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部)に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.446. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8植物I(維管束植物), p.576. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本I 単子葉類, p.80. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.182. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 226	種子植物 被子植物 単子葉 イネ科	岡崎市 情報不足
ウキシバ <i>Pseudoraphis ukishiba</i> Ohwi		

【選定理由・現在の生育状況】

以前から生育の少ない植物である。市域南部に生育記録があるが、再確認ができない。しかしながら、現在の時点では絶滅と言いつれない状況であるので、情報不足と評価した。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生で浮葉性の水草。稈は束生し、水中を伸びて長さ1mに達し、枝は斜上して水面に葉を浮かべる。葉は互生し、葉身は線形、長さ3~5cm、幅2~4mm、粉緑色をおび、無毛、葉鞘は葉身とほぼ同長で、小さい葉舌がある。花期は8~9月、花序は長さ3~6cm、総状、基部は葉鞘の中にあつて多数の枝を出し、その枝が中軸に沿って立つため、見かけ上長楕円形となり、開花時には水上に出るが、花後水中に沈む。小穂は各枝に1個つき、披針形で長さ4~5mm、枝に圧着し、雄性の第1小花と雌性の第2小花からなり、小穂の先の枝は芒状となるが、小花自体は無芒である。陸生型は茎が短く、小さいマット状になる。本州、四国、九州、日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-植物編-, p.608. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.534. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本I 単子葉類, p.101. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.370. 保育社, 大阪.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, p.68. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 227	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 情報不足
サイハイラン <i>Cremastra appendiculata</i> (D. Don) Makino		

【選定理由・現在の生育状況】

桑谷山に生育地が知られていた（大原・千賀，1985）が、それは消滅した。しかし、市境の蒲都市側には、現在も生育する。まだ、現在も岡崎市内に自生している可能性が残されていると思われるが、確認できていない状況であるので、情報不足と評価した。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【種の概要】

山地の林床に生える。偽球茎は卵形、やや離れ気味に接続し、ふつう 1 個の葉を頂生する。葉は狭長楕円形、革質、長さ 15~35cm、幅 3~5cm、長鋭尖頭で、基部は柄となる。花茎は高さ 30~50cm で、直立し、基部は鞘状葉で包まれる。5~6 月、10~20 花をやや密につけ、総状花序となる。苞は線状披針形。花は淡緑褐色で紅紫色を帯びる。南千鳥・北海道~九州、樺太南部・朝鮮南部・中国（本土・台湾）・ヒマラヤに分布する。和名は花序の様子を采配に見立てたもの（以上、佐竹ほか，1982 より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.553. 新編岡崎市史編さん委員会.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.227. 平凡社, 東京.

【関連文献】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.57. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 228	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 情報不足
シュスラン <i>Goodyera velutina</i> Maxim.		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史では、生平町が産地として記載されている（大原・千賀，1985）。葉にビロード状の光沢があり、山草愛好家の好む植物である。近年の正確な様子はつかめていないが、おそらく絶滅している可能性が高い。しかしながら、確定できないため、情報不足と評価した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧II類
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生草本。茎は横にはい、先端は斜上して高さ 10~15cm になる。葉は数個が互生し、長さ 1~1.5cm の柄があり、葉身は長卵形、長さ 2~4cm、幅 1~2cm、先端は鋭頭、表面は紫色を帯びた暗緑色でビロード状の光沢があり、中央の白条が目立つ。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 8~9 月、花は茎の上部に一方に偏って 4~10 個つき、淡褐色、苞は線状披針形、長さ 6~12mm である。がく片は狭卵形、長さ 7~8mm、花序の軸や子房と共に白色の短毛がある。側花弁は広倒披針形、背がく片に接してかぶと状になり、唇弁はがく片とほぼ同長、基部はふくらみ、舷部は卵形で全縁、内面に毛がある。本州（関東地方南部以西）、四国、九州、朝鮮半島に分布する（以上、愛知県環境調査センター，2009 より）。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之，1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.554. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-植物編-, p.490.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, p.213. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編III, p.40. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)

維管束植物 229	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 情報不足
ミズトンボ <i>Habenaria sagittifera</i> Reichb.f.		

【選定理由・現在の生育状況】

井波一雄氏により額田宮崎の記録があり、新編岡崎市史に駒立、才栗、大井野、池金の産地が記載されている(大原・千賀, 1985)。その後、芹沢俊介氏によって岡崎北部に生育が報告されている(愛知県環境調査センター, 2009)が、近年、市内に確認されておらず、近況のわからない植物である。全国的に開発や園芸目的の採取により、減少傾向が著しいと言える。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

多年生草本。楕円形で長さ1~2cmの球茎がある。茎は3稜があり、直立して高さ40~70cm、時には150cm近くになる。葉は茎の下半分につき、鞘状のものを除いて数個が互生し、葉身は線形、長さ5~20cm、幅3~6mm、先端は長くとがり、基部は茎を抱いて葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は7~9月、花は茎の上部にやや多数が穂状につき、直径8~10mmで淡緑色、苞は線状披針形、長さ8~15mmである。背がく片は円心形、長さ約4mm、側がく片は長さ約5mm、幅約6mm、側花弁は斜卵形で、背がく片と並んで立つ。唇弁は長さ1.5~2cm、3裂して十字形となり、側裂片は上を向く。距は下垂し、長さ約15mm、先端は球状にふくらむ。北海道南部、本州、四国、九州、中国大陸に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.554. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編, p.493.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

環境庁自然保護局野生生物課(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・レッドデータブック・8植物Ⅰ(維管束植物), p.615. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.193. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.8. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 230	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 情報不足
ヤマトキソウ <i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino		

【選定理由・現在の生育状況】

新編岡崎市史に美合、生平、山綱、池金、田口と多くの産地が記載されている(大原・千賀, 1985)が、その後、見られなくなった。本種は、日当たりのよいやや湿った草地や林縁に生育するが、どの生育地も少数の個体が生育しているだけであった。近年、旧額田町地区の北部に自生しているとの情報がよせられたが、確認ができていないため、情報不足と評価した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

【種の概要】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、横にはう。茎は直立し、高さ10~20cmになる。葉は茎の中部に1個つき、無柄、葉身は長楕円形、長さ3~7cm、幅4~12mm、先端は鈍~鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘を作らない。花期は6~8月、花は茎の先端に1個つき、淡紅色~ほとんど白色、上向きでほとんど開かず、苞は葉状で披針形、長さ2~4cmである。がく片は線状倒披針形、長さ1~1.5cm、側花弁はほぼ同長であるが、やや幅が広い。唇弁は長楕円形、がく片や側花弁よりやや短くて花外に出ず、3裂するが側裂片は小型、中裂片は表面に肉質の毛状突起が密生する。距はない。北海道、本州、四国、九州、台湾、朝鮮半島に分布する(以上、愛知県環境調査センター, 2009より)。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.555. 新編岡崎市史編さん委員会.
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・植物編, p.501.
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

【関連文献】

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類, p.205. 平凡社, 東京.
北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.26. 保育社, 大阪.

(執筆 千賀敏之)

維管束植物 231	種子植物 被子植物 単子葉 ラン科	岡崎市 情報不足
トンボソウ <i>Tulotis ussuriensis</i> (Regel) Hara		

【 選定理由・現在の生育状況 】

過去の自生記録は、新編岡崎市史に記載されている保母のみである（大原・千賀, 1985）。以後の生育状況がしっかりとつかめてない植物である。したがって、絶滅かどうかはっきりと判定できないため、情報不足と評価した。生育地は少ないが、生育する場合は山の木陰などに群生する傾向がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

【 種の概要 】

山林の樹下に生える。茎は高さ 15～35cm。下部にやや接して 2 葉があり、その上部に数個の鱗片葉がある。葉は狭長楕円形または倒披針形で、やや弓なりに湾曲し長さ 8～13cm、幅 1～3cm。7～8 月、穂状花序に淡緑色の小花をやや多数つける。苞は狭披針形、背がく片は広楕円形で、長さ約 2mm、側がく片は狭長楕円形、側花弁は狭卵形、背がく片と同長で、ともにかぶとをつくる。南千島・北海道～九州、朝鮮・中国・ウスリーなどに分布する（以上、佐竹ほか, 1982 より）。

【 引用文献 】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市高等植物目録. 新編岡崎市史 自然 14, p.556. 新編岡崎市史編さん委員会.
 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類, pp.193-194. 平凡社, 東京.

【 関連文献 】

北村四郎・村田 源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ, p.16. 保育社, 大阪.

(執筆者 千賀敏之)